

自治医科大学看護学部年報 (第18号)

Annual Report Jichi Medical University School of Nursing

自治医科大学大学院看護学研究科年報 (第14号)

Annual Report Jichi Medical University Graduate School of Nursing



2019

目 次

○ 看護学部委員会等報告

1. 人事委員会	春山 早苗 ……	5
2. 教務委員会	横山 由美 ……	6
3. 学生委員会	大塚公一郎 ……	8
4. FD評価実施委員会	本田 芳香 ……	10
5. 広報委員会	塚本 友栄 ……	11
6. 編集委員会	村上 礼子 ……	13
7. 国家試験対策委員会	野々山未希子 ……	14
8. 臨地実習指導研修委員会	半澤 節子 ……	16
9. 研究推進委員会	小原 泉 ……	17
10. 入試実施委員会	永井 優子 ……	18

○ 大学院看護学研究科委員会等報告

1. 研究科委員会	春山 早苗 ……	21
2. 研究科委員会幹事会	成田 伸 ……	23

○ 教育研究分野別報告

1. 看護基礎科学	大塚公一郎 ……	27
2. 基礎看護学	本田 芳香 ……	29
3. 地域看護学	春山 早苗 ……	31
4. 精神看護学	永井 優子 ……	35
5. 母性看護学	成田 伸 ……	37
6. 小児看護学	横山 由美 ……	40
7. 成人看護学	村上 礼子 ……	42
8. 老年看護学	上野 まり ……	45

○ 大学院看護学研究科 教育の概要

博士前期課程

実践看護学分野

1. 小児看護学領域	横山 由美 ……	51
2. 母性看護学領域	成田 伸 ……	52
3. クリティカルケア看護学領域	佐藤 幹代 ……	53
4. 精神看護学領域	半澤 節子 ……	54
5. がん看護学領域	本田 芳香 ……	55

地域看護管理学分野

6. 老年看護管理学領域	上野 まり	56
7. 地域看護管理学領域	春山 早苗	57
8. 看護技術開発学領域	村上 礼子	58
9. 診療看護技術開発学領域	村上 礼子	59
共通科目	成田 伸	61
博士後期課程		
1. 広域実践看護学分野	春山 早苗	62

○ 研究業績録

1. 看護基礎科学	65
2. 基礎看護学	67
3. 地域看護学	68
4. 精神看護学	73
5. 母性看護学	74
6. 小児看護学	75
7. 成人看護学	76
8. 老年看護学	78
9. 診療看護技術開発学	79

○ 資料

1. 2019年度（令和元年度）看護学部学年暦	83
2. 自治医科大学看護学部の概況	84
3. 看護学部教職員名簿	85
4. 2019年度（令和元年度）大学院看護学研究科学年暦	86
5. 大学院看護学研究科の概況	86
6. 大学院看護学研究科教職員名簿	87
7. 編集後記	88

看護学部委員会等報告

看護学部委員会等報告

人事委員会

委員長 春山 早苗

1. 所管事項

- (1)自治医科大学看護学部教員の選考に関する事項
- (2)非常勤講師の選考に関する事項
- (3)その他学部長が必要と認めた事項

		・教員選考作業部会（老年看護学）の設置について
7	2月19日	・令和2年度非常勤講師の任用について ・令和2年度臨地教授等の称号付与について
8	3月24日	・老年看護学教員（助教1名）候補者選考について

2. 委員会の構成

- (1)「自治医科大学看護学部教員の選考方法等に関する内規」に規定する者（4名以上7名以内）

表1 構成員と役割

氏 名	役 割
春山 早苗	委員長（学部長）
横山 由美	委員（教務委員長）
大塚 公一郎	委員（学生委員長）
本田 芳香	委員（FD評価実施委員長）
成田 伸	委員（大学院看護学研究科委員会幹事長 ※）
被選考教員の領域の教授	委員

※学部長が必要と認めた者 2名以内

3. 活動内容

- (1)「自治医科大学看護学部教員の選考方法等に関する内規」第2条の規定により、表2のとおり人事委員会を開催した。

表2 2019年度の審議事項・その他

回	開 催 日	審議事項・その他
1	4月23日	・2019年度看護学部臨地教授等の称号付与に係る資格審査について
2	9月24日	・令和元年度非常勤講師の任用について ・教員選考作業部会（母性看護学）の設置について
3	10月23日	・教員選考作業部会（基礎看護学，地域看護学，母性看護学）の設置について
4	11月19日	・母性看護学教員（助教1名）候補者選考について ・教員選考作業部会（学内昇任）の設置について
5	12月17日	・令和2年度非常勤講師の任用について ・教員選考作業部会（母性看護学）の設置について
6	1月21日	・学内教員の昇任候補者（老年看護学教授）選考について ・基礎看護学教員（助教2名）候補者選考について ・母性看護学教員（助教1名）候補者選考について ・令和2年度非常勤講師の任用について

教務委員会

委員長 横山 由美

1. 所管事項

- 1) 授業及び試験に関する事項
- 2) 単位及び課程の修了に関する事項
- 3) 学生の入学，退学，休学および卒業等に関する事項
- 4) 学生の修学指導に関する事項
- 5) 授業関係の予算に関する事項
- 6) その他学部長が必要と認めた事項

2. 委員会の構成

本委員会は10名の委員と2名のオブザーバー，5名の事務局で構成され，その構成員と役割を表1に，下部組織の構成員を表2に示した。

表1 構成員と役割

氏 名	役 割
横山 由美 教授	委員長，授業関係予算担当（主）
永井 優子 教授	副委員長，カリキュラム運用担当（主）
上野 まり 教授	実習教育調整担当
大塚 公一郎 教授	既修得単位認定担当（主），時間割担当
塚本 友栄 教授	時間割担当（主）
成田 伸 教授	実習教育調整担当（主），助産師国家試験受験資格関連科目受講生選考担当（主）
野々山末希子 教授	カリキュラム運用担当
半澤 節子 教授	夏季へき地研修担当（主）
本田 芳香 教授	共通物品管理担当（主）
村上 礼子 教授	実習教育調整担当
小原 泉 教授	オブザーバー 実習教育調整担当
里光 やよい 教授	オブザーバー 既修得単位認定担当
海老原 誠 課長	事務局
湯浅 芳恵 参事 （兼）課長補佐	事務局
松本 恵美子 係長	事務局
松田 尚子 主任 主事	事務局
渡辺 慎吾 主事	事務局

表2 下部組織

担当者氏名	担当
平尾 温司 准教授	時間割担当
田村 敦子 准教授	夏季へき地研修担当
青木さざり 講師	
古島 幸江 講師	
湯山 美杉 講師	
横山 絢香 助教	
清水みどり 講師	共通物品管理担当
飯島 早絵 助教	
猪瀬 典子 助教	
北守 美佳 助教	
富川 明子 助教	
谷島 晴香 助教	
横山 絢香 助教	カリキュラム運用担当
川上 勝 准教授	
福田 順子 准教授	
長谷川直人 准教授	
鹿野 浩子 講師	
島田 裕子 講師	WEB履修オリエンテーションWG
関山 友子 講師	
石井慎一郎 講師	
江角 伸吾 講師	
八木 街子 講師	
鈴木美津枝 助教	

3. 活動内容

本年度は，11回の委員会を開催した。

表3 審議事項

回	開催日	審議事項
1	2019年 4月11日	1. 教務委員会年間計画（案） 2. 教務委員会下部組織の年間計画（案）
2	5月9日	1. 令和2年度前学期履修状況 2. 教務委員会下部組織の年間計画（案）
3	6月13日	1. 令和2年度教育機器備品購入計画（案） 2. 「へき地の生活と看護・夏季へき地研修」の緊急事態発生時の対応経路及び施設決定方法 3. 研究セミナーの評価ルーブリック案
4	7月11日	1. 令和2年度授業関係予算案・教室整備予算案及び令和3年度以降教育用機器備品予算案 2. 令和2年度年間実習科目配置案 3. 研究セミナーの評価ルーブリック案 4. 令和元年度2年次後学期実習，学生配置・担当教員（案）
5	9月12日	1. 令和2年度学年暦案 2. 履修調べ 3. 令和2年度教育支援者 4. 老年臨床看護学実習及び老年在宅看護実習の実習先の変更 5. 令和2年度時間割モデル 6. 実習要項の改訂

6	10月10日	1. 休学 2. 附属病院実習病棟希望調査 3. 令和2年度時間割 4. 学生の行動規範
7	11月14日	1. 「看護基礎セミナー」「文献講読セミナー」の評価と2020年度計画 2. 「総合実習」の評価 3. 「看護総合セミナー」「総合実習」平成29年度版カリキュラムに向けての検討 4. 令和3年度以降教育用機器備品予算案
8	12月12日	1. 「総合実習」平成29年度版カリキュラムに向けての検討 2. 休学 3. 令和2年度学年暦・オリエンテーション計画案 4. 令和2年度実習教育説明会の企画案 5. 令和2年度時間割モデル
9	2020年 1月9日	1. 「看護総合セミナー」「看護トピックス」の評価と2020年度計画について 2. 令和2年度実習教育説明会の企画案 3. 「看護基礎セミナー」「文献購読セミナー」ループリックについて 4. 助産選考マニュアル 5. 令和2年度3年次前学期実習配置案
10	2月13日	1. 学生の退学 2. 4年次後学期単位取得と卒業認定 3. 「研究セミナー」の評価 4. 実習要項の修正案
11	3月12日	1. 学生の復学 2. 学生の単位取得状況（卒業認定者を除く） 3. 助産師国家試験資格関連科目受講生の決定 4. 実習要項

学生委員会

委員長 大塚 公一郎

1. 所管事項

- (1)学生の厚生補導及び賞罰に関する事項
- (2)学生の健康管理及び学生相談に関する事項
- (3)学生のキャリア支援に関する事項
- (4)学長賞等の選考に関する事項
- (5)看護学部学生寮の管理運営に関する事項
- (6)奨学生の採用及び貸与に関する事項
- (7)その他学部長が必要と認めた事項

2. 委員会の構成

学生委員会の機能を果たすために、奨学生選考担当、キャリア支援担当、学友会幹事がおかれた。役割担当（委員会外教員も含む）は、表1の通りである。

表1 構成員と役割

氏 名	役 割
大塚公一郎 教 授	委員長
本田芳香 教 授	副委員長 奨学生選考担当
上野まり 教 授	キャリア支援担当
川上 勝 准教授	奨学生選考担当
田村敦子 准教授	キャリア支援担当
江角慎吾 講 師	キャリア支援担当
鹿野浩子 講 師	学友会担当
湯山美杉 講 師	キャリア支援担当

表2 下部組織

氏 名	役 割
北森美佳 助 教	キャリア支援担当
富川明子 助 教	キャリア支援担当

3. 活動内容

学生委員会は、「学生が健全な学業生活を送ることができるよう支援すること」を第一の目的とする委員会である。

上記目標に即して、平成30年度は、学生委員会は、学業（課外活動も含む）の奨励・支援、学生の学業生活上生じた様々な障害や問題の解決への支援、学生の健康問題解決への支援、学生への経済的支援、学生への進路指導であるキャリア支援を行った。

学部の学生は学生自治会を、また寮在住学生は寮自治会をそれぞれ組織し、自主的に運営している。この二つの自治会の運営の支援も本委員会が担当した。これらの活動は、本学部の看護学務課、

看護総務課との緊密な相談・連携のもと行われた。

学生の学業生活上生じた様々な障害や問題の解決への支援は、各学生委員の学生との直接相談、学年担当アドバイザーとの緊密な連絡相談、カウンセリングルーム活用の奨励などを通して行った。

学生の健康問題解決への支援は、学生健康管理チームが中心となって行い、また大学保健室の行う検診への受診の奨励、個々の学生の健康相談などを行った。

学生への経済的支援は、主に奨学金の選考・推薦を通して行われた。自治医科大学看護学部奨学金、日本学生支援機構奨学金の選考・推薦を行った。さらに、多額の貸与を受けている学生には、返還計画についての助言を行った。

学生の将来の進路決定の支援は、キャリア支援担当が中心となって行った。令和1年6月3日に行われた附属病院による就職説明会とは別に、31年2月18日には3年生対象に、看護部、看護学部同窓会の協力を得て進路支援ガイダンスの目的として「将来のキャリアを考える会」を実施した。

学生自治会、寮自治会の運営の支援は、学生委員会委員と両自治会役員との懇談を通して行われた。寮生活そのものの支援として、入寮案内、寮生活オリエンテーション、防災訓練、寮規則違反者などへの指導などが行われた。

部活動、クラブ活動、サークル活動などの課外活動を、学友会（本学部では、学生委員会が所掌）を通して奨励した。薬師祭（学園祭）の開催を支援した。

学業（課外活動も含む）の奨励・支援の一環として、看護学部校舎における防災訓練を行った。

4学年卒業予定者のなかより、学長賞候補者を選考し3名推薦した。

学生委員会は、8月を除いて毎月定例開催され、合計11回開催された。

本委員会の管轄であるキャリア支援担当、奨学金担当の委員が主として業務にあたる活動においては、概ね、年間計画を不足なくはたすことができた。各担当において前年度に導入した新たな試みも確実な定着をみた。

表3 令和1年度の審議事項

回	開催日	審議事項
1	2019年4月5日	(1)年間予定 (2)役割分担
2	2019年5月9日	(1)女子学生寮防災訓練 (2)奨学金採用状況 (3)学生役割分担 (4)キャリア支援関係
3	2019年6月6日	(1)女子学生寮防災訓練 (2)各種奨学金貸与・給付 (3)大学評価に係る調査 (4)学部校舎防災訓練
4	2019年7月4日	(1)学部校舎防災訓練 (2)学生寮防災訓練報告 (3)キャリア支援関係 (4)奨学金申請・承認 (5)看護学部生の行動規範・行動指針
5	2019年9月5日	(1)学部校舎防災訓練報告 (2)奨学金返還計画の対応 (3)キャリア支援関係
6	2019年10月3日	(1)キャリアガイダンス (2)進路決定届提出状況 (3)卒業生動向調査報告
7	2019年11月7日	(1)奨学金返還計画面接報告 (2)学生自治会・寮自治会懇談会報告 (3)キャリアガイダンス
8	2019年12月5日	(1)学長賞選考委員検討 (2)キャリアガイダンス (3)奨学金貸与月額10万円以上学生の 面接結果報告 (4)次年度行事日程（新入生交流会・ 学生寮防災訓練）調整 (5)学生の構内無断乗り入れ、駐車
9	2020年1月9日	(1)卒業式送辞担当学生選定 (2)「将来のキャリアを考える会」計 画 (3)学部および学生支援機構奨学金説 明会報告 (4)次年度学部校舎防災訓練日程
10	2020年2月6日	(1)学長賞選考 (2)卒業式総代など担当学生について (3)日本私立看護系大学協会会長賞推 薦について (4)将来のキャリアを考える会計画
11	2020年3月5日	(1)看護学部駐車場許可 (2)令和2年度キャリア支援プログラ ム実施計画案およびキャリアを考 える会報告

FD評価実施委員会

委員長 本田 芳香

1. 所轄事項

本委員会の所管事項は、以下の6点である。

1. 授業内容及び方法の評価に関する事項
2. 教員の資質開発に関する事項
3. 教員研修会の企画・実施に関する事項
4. 教育内容等の改善のための組織的取り組みに関する事項
5. 編集に関する事項
6. その他学部長が必要と認めた事項

2. 委員会の構成

本委員会の構成員と役割は表1に示すとおりである。

表1 構成員と役割

氏 名	役 割
本田芳香教授	委員長 FD研究会担当, FD報告書担当
成田 伸教授	副委員長 FD研究会担当, 授業評価実施マニュアル担当
長谷川直人准教授	FD研究会担当, 授業評価実施マニュアル担当
清水みどり講師	授業評価実施マニュアル担当, FD研究会担当
島田裕子講師	FD評価票担当, FD研究会担当
関山友子講師	FD報告書担当, FD評価票担当, FD研究会担当

3. 活動内容

本委員会は、今年度は表2に示すとおり6回の委員会を開催した。FD授業評価マニュアル見直し、学生による授業評価方法の改善、看護学部教員のFDニーズ調査について検討をおこなった。

表2 委員会開催

回	開催日	審議事項
1	2019年4月11日	年間運営方針, 年間計画, 役割分担
2	2019年6月13日	第1回FD研究会, 前学期授業評価回収率
3	2019年10月17日	学生による授業評価結果
4	2020年1月16日	看護学部教員のFDニーズ調査, FD研究会報告書, 学生による授業評価,
5	2020年2月13日	第1回FD研究会, 看護学部教員のFDニーズ調査
6	2020年3月12日	令和元年度各担当WG評価, 授業評価実施マニュアル改訂

4. 活動評価

「学生による授業評価」は、回収率向上、教員・職員の業務負担軽減・委託コスト削減のためMoodle上で行うための方法を検討した。次年度はMoodle上のアクセスのさらなる方法としてQRコード利用による改善が見込まれる。これに伴い「授業評価実施マニュアル（教員用）」の一部改訂がなされた。「本看護学部教員のFDニーズ調査」を行った結果、臨地実習指導、研究遂行能力が高く、国際化、地域貢献が低い結果となった。今後発展させたいFDニーズは、研究遂行能力、調整能力、国際化を望む回答が多かった。今年度のFD研究会は、2回の実施を予定していたが、講師の都合及びCOVID-19感染拡大予防の観点より、いずれも実施することができなかった。これに併せFD研究会報告書は次年度に持ち越しとなった。

広報委員会

委員長 塚本 友栄

1. 所管事項

本委員会の所管事項は、①広報誌、パンフレットの作成・発行に関する事項、②ホームページの管理に関する事項、③オープンキャンパスの実施に関する事項、④その他進学説明会・進路相談会、出張講義、体験学習（南河内第二中学校）、進路指導担当教諭のための進学説明会、学部DVD作成等、学部長が必要と認めた事項への対応である。

2. 委員会の構成

本委員会の構成員と主な役割を表1に示す。なお、オープンキャンパス、南河内第二中学校体験学習に関しては、委員全員で分担し取り組んだ。

表1 構成員と役割

氏 名	役 割
塚本 友栄 教授	委員長
村上 礼子 教授	副委員長
川上 勝 准教授	パンフレット担当 HP担当
福田 順子 准教授	広報誌担当
平尾 温司 准教授	広報誌担当
望月 明見 講師	パンフレット担当

3. 活動内容と評価

本年度は、特にオープンキャンパスの企画・運営方法について検討した。具体的には、①学生寮見学の自由化、②サークル活動紹介ブース新設、③「学部説明会」の複数回開催、④敷地内巡回バス、駅シャトルバスの運行整備、⑤学生ボランティア募集に協力する学年担当（低学年）新設案作成等である。これらにより、来場者ニーズに合致したオープンキャンパスの充実、在校生関与度の向上、安定的かつ効率的な運営体制の構築をすすめることができた。

オープンキャンパスは、5月18日（土）、7月27日（土）、8月23日（金）に開催し、各々171名、718名、370名、計1,259名と昨年同様規模の来校者を得た。来場者満足度は高く、ニーズに合致したプログラムであったと評価する。

広報誌「ビタミンN」には、写真を多く掲載し、教員の研究・社会活動やラボルーム紹介コーナーを新設する等、本学の魅力が伝わる掲載内容となるよう工夫を凝らした。

パンフレット「Campus Guide」では、3つの国家試験受験資格取得等、本学部の強みを強調した構成とした。

ホームページ管理として、情報更新確認、大学としてのホームページ更新に合わせた改善課題の抽出等を行った。

進学相談会・進路説明会・出張講義は、学部教員、看護学務課の協力により、概ね例年通り実施した。また、福島県からのPTA来訪に対応した。

体験学習は、南河内第二中学校1年生94名を迎え、看護学部4年生の協力を得て5月28日（火）に実施した。開催日程が2日から1日に短縮されたが、グループ学習を2教室で分散実施することで、中学生一人一人が学部4年生と十分な交流を深めつつ、血圧測定等を体験的に学ぶことができた。

「進路指導担当教諭のための看護学部進学説明会」は、5月18日（土）、推薦指定校を含む22校23名の参加を得て実施した。隣接県高等学校から、新規参加も得られた。

2018年度より在校生の協力を得て、メッセージや写真を掲載したA4ポスターを作成し、広報活動を強化すべき地域・偏差値である約30校を選定の上、送付している。2019年度新入生アンケートには、ポスターを見て「励みになった」等の意見が6件寄せられ、僅かながら効果を確認した。

表2 2019年度の審議事項

回	開催日	審議事項
1	4月22日	・活動内容と役割分担 ・第1回オープンキャンパス 企画運営 ・下野市立南河内第二中学校 体験学習企画検討 ・Campus Guide 2020評価
2	5月8日	・下野市立南河内第二中学校 体験学習運営準備 ・第1回オープンキャンパス運営準備 ・Campus Guide 2021の構成
3	6月13日	・第1回オープンキャンパス評価 ・第2回、第3回オープンキャンパス運営 準備 ・Campus Guide 2021の構成
4	7月11日	・第2回、第3回オープンキャンパス運営 準備 ・Campus Guide 2021撮影計画
5	9月12日	・2019年度オープンキャンパス評価 ・2020年度オープンキャンパス開催日程、 プログラム、ボランティア募集 ・ビタミンN 16号の評価
6	11月14日	・2020年度オープンキャンパス開催日程、 プログラム、ボランティア募集 ・ビタミンN 17号の企画・編集方針
7	1月8日	・2020年度オープンキャンパス開催日程・ 運営・HP掲載 ・Campus Guide 2021の構成 ・次年度新入生対象アンケート
8	2月12日	・2019年度広報活動評価 ・2020年度オープンキャンパス企画・運 営・ボランティア募集 ・2020年度進路指導担当教諭のための進 学説明会企画 ・2020年度南河内第二中学校体験学習企 画

編集委員会

委員長 村上 礼子

1. 所管事項

本委員会の所管事項は、自治医科大学看護学ジャーナルおよび自治医科大学看護学部年報、自治医科大学大学院看護学研究科年報の刊行に関する事項、その他学部長が必要と認めた事項である。

2. 委員会の構成

本委員会の構成員と役割は表1に示す通りである。

表1 構成員と役割

役 割	氏 名
村上 礼子 教授	委員長 看護学ジャーナル担当
上野 まり 教授	副委員長 年報の編集・刊行担当
里光やよい 准教授	看護学ジャーナル担当
田村 敦子 准教授	看護学ジャーナル担当
鹿野 浩子 講師	看護学ジャーナル担当
八木 街子 講師	年報の編集・刊行担当

3. 活動内容

本委員会は、今年度は表2に示す通り4回の委員会を開催し、看護学ジャーナル投稿規定の検討、看護学ジャーナル論文審査規定の検討、2018年度年報の編集内容などについて検討をおこなった。

表2 2019年度の審議事項

回	開催日	審議事項
1	2019年 4月23日	年間方針、年間計画、役割分担 投稿規定、看護学ジャーナル論文審査規定 の検討、年報の規定、編集内容の検討
2	10月10日	看護学ジャーナル第17巻掲載論文の採否と 原稿種類の決定 看護学ジャーナル第17巻投稿論文の査読者 及び編集委員の決定
3	2019年 12月16日	看護学ジャーナル第17巻掲載論文の採否と 原稿種類の決定 看護学ジャーナル第17巻投稿論文の査読者 及び編集委員の決定 看護学ジャーナル論文審査規定の改正検討 年報（第17号）・大学院看護学研究科年報 （第13号）の進捗確認
4	2020年 2月26日	看護学ジャーナル第17巻投稿論文の査読者 及び編集委員の決定 看護学ジャーナル論文審査規定の改正検討 年報（第17号）・大学院看護学研究科年報 （第13号）の進捗確認

自治医科大学看護学部年報（第17号）は、自治医科大学大学院看護学研究科年報（第13号）とあわせて発行した。

自治医科大学看護学ジャーナル（第17巻）は、実践報告1編、資料3編にて刊行した。投稿論文は計5編あり、1編につき1名の担当編集委員を選定、2名の査読者が論文内容の査読にあたった。

なお、自治医科大学看護学部年報（第17号）および自治医科大学大学院看護学研究科年報（第13号）は、国立国会図書館をはじめ、政府関係機関、学外の実習関連施設、全国の看護系大学、栃木県関係、県内の看護系学校、総合病院などへ送付した。

国家試験対策委員会

委員長 野々山 未希子

1. 所管事項

本委員会の所管事項は、保健師・助産師・看護師国家試験を受験する本学部の在学生や卒業生が国家試験に合格するように、学習環境を整え、学習相談などの支援を行うことである。

2. 委員会の構成

表1 構成員と役割

氏 名	役 割
野々山 未希子 教授	委員長
浜 端 賢 次 准教授	副委員長
倉 科 智 行 准教授	委 員
福 田 順 子 准教授	委 員
佐 藤 幹 代 准教授	委 員
青 木 さざり 講師	委 員

表2 下部組織（ワーキンググループ）

担当者氏名	役 割
石 井 慎一郎 講師	ワーキング委員
関 山 友 子 講師	ワーキング委員
二 宮 美由紀 助教	ワーキング委員
小 西 克 恵 助教	ワーキング委員
石 井 容 子 助教	ワーキング委員

3. 活動内容

本年度は、計11回の委員会を開催した（表3）。委員会活動としては、国家試験受験に向けてのガイダンスを4年生に2回、3年生に1回、2年生に1回実施した。次に、国家試験対策のための模擬試験を4年生は保健師3回、助産師3回、看護師4回実施した。3年生及び2年生には各1回、低学年用看護師模試を実施した。これらの模擬試験の成績を踏まえて、主に4年生に学生の個別面接・指導およびグループ指導を実施した。学生指導は、学生を5グループに分け、それぞれのグループを委員1名とワーキンググループの構成員1名がペアを組んで担当し、学習方法や学習上の悩みなどの学習相談を行った。また、国家試験出題科目を担当する各領域で、2019年4月および、2019年9月から2020年1月にかけて国家試験対策ゼミを開講した。

学習環境の整備としては、学生サロンに設けられた国家試験対策コーナーに受験参考書や問題集、業者が実施する国家試験対策模擬試験・国家試験対策講義（講習）のパフレットを置き、学生が自由に閲覧できるようにした。

2019年度の新卒学税の国家試験の結果は表4に示すとおりである。本学の看護師・助産師国家試験の合格率は全国平均を上回っており、保健師国家試験合格率も全国平均と同様である。今後も引き続き国家試験対策に力を注いでいく必要がある。

表3 2019年度の審議事項

回	開催日	審議事項
1	2019年 4月4日	(1)年間スケジュール (2)国家試験不合格卒業生への対応 (3)4年生国家試験ガイダンスの報告 (4)模擬試験日程および担当者の確認・決定 (5)3・4年生対象「国家試験対策病態学特別講義」および卒業生アンケート結果 (6)国家試験対策ゼミ日程の決定 (7)低学年対象専門基礎科目実力確認テストの結果 (8)看護師国家試験の業者集計結果 (9)担当学生の個別面接の実施計画 (10)国家試験対策模擬試験マニュアル
2	2019年 5月9日	(1)看護師・保健師・低学年模擬試験日程および担当者の決定 (2)助産師模擬試験日程 (3)現4年生看護師国家試験低学年模擬試験の受験結果 (4)3・4年生対象「国家試験対策病態学特別講義」実施状況報告 (5)保健師国家試験学内集計結果（地域看護学集計）報告 (6)担当学生の初回個別面接の結果 (7)国家試験対策ゼミ日程の変更
3	2019年 6月6日	(1)第1回看護師模擬試験の受験状況の報告 (2)今年度看護師国家試験マークシート集計（業者集計分）結果の活用検討 (3)今年度保健師国家試験マークシート集計（地域看護学集計分）内容の検討 (4)1年生及び4年生への国家試験対策関連配布物について (5)校舎開放について (6)担当学生の近況報告
4	2019年 7月4日	(1)第1回看護師模擬試験の結果報告 (2)校舎開放日 (3)国家試験出願手続説明会プログラム (4)担当学生の近況報告
5	2019年 9月6日	(1)第1回保健師国家試験模試・第1回助産師国家試験模試の受験状況・結果の報告 (2)国家試験の施行日程 (3)後期模擬試験日程・担当者等の再確認 (4)国家試験対策ゼミ最終日程について (5)担当学生の近況報告
6	2019年 10月3日	(1)看護師国家試験必修模試の受験状況 (2)2年生及び3年生向け国家試験ガイダンス (3)国家試験対策委員学生対象国家試験出願手続説明会

		(4)9月国家試験対策ゼミ出席状況 (5)保健師国家試験受験に向けた対応について (6)担当学生の近況報告
7	2019年 11月7日	(1)国家試験模擬試験結果 看護師必修模試の受験状況・受験結果、 第2回看護師国家試験模試の受験状況・ 受験結果、第2回助産師国家試験模試の 受験状況および、第2回保健師国家試験 模試の受験状況 (2)低学年向け国家試験ガイダンス実施報告 (2年生・3年生) (3)国家試験対策委員学生対象国家試験出願 手続説明会実施報告 (4)国家試験出願手続説明会等 (5)担当学生の近況報告
8	2019年 12月5日	(1)第2回助産師国家試験模試の受験結果お よび第2回保健師国家試験模試の受験結 果の報告 (2)国家試験出願手続説明会等の報告 (3)国家試験受験説明会スケジュール (4)国家試験対策ゼミ実施状況 (5)国家試験結果マークシートについて (6)担当学生の近況報告
9	2020年 1月9日	(1)第3回看護師国家試験模擬試験、第3回助 産師国家試験模擬試験、第3回保健師国 家試験模擬試験の受験状況の報告 (2)国家試験対策ゼミ実施状況 (3)平成30年度保健師国家試験マークシート 集計結果 (4)2月17日国家試験解答東京アカデミー マークシートWeb回答の方法・担当 (5)卒業生アンケート（昨年度実施）の再実 施の検討 (6)次年度4年生オリエンテーション配布用 「参考書籍」の検討・担当者決定 (7)次年度2～4年生国家試験模擬試験業者の 検討 (8)次年度国試対策ゼミ日程調整担当者決定 (9)担当学生の近況報告
10	2020年 2月6日	(1)第3回看護師国家試験模擬試験、第3回助 産師国家試験模擬試験、第3回保健師国 家試験模擬試験の結果の報告 (2)2年生対象低学年模擬試験の受験状況 (3)国家試験対策ゼミ最終出欠状況 (4)4年生国家試験受験説明会の報告 (5)国家試験回答入力に関する説明及びスマ ホ作動確認状況 (6)卒業生アンケート案の検討 (7)次年度保健師国家試験模擬試験業者の検 討結果 (8)担当学生の近況報告 (9)月委員会議事録作成者決定 (10)次年度委員会への申し送り事項

11	2020年 3月19日	(1)国家試験結果 (2)低学年模試（2年生・3年生）受験状況お よび結果の報告 (3)看護師国家試験回答集計結果 (4)卒業生アンケート集計結果 (5)次年度国試対策ゼミおよび模試日程調整 状況の確認 (6)次年度国家試験対策委員会に向けての意 見交換
----	----------------	---

表4 2019年度新卒学生の保健師助産師看護師国家試験の結果

区分	資格	受験者数 (人)	合格者数 (人)	合格率(全国) (%)
本 学	看護師	105	103	98.1 (94.7)
	保健師	105	101	96.2 (96.3)
	助産師	6	6	100.0 (99.5)

臨地実習指導研修委員会

委員長 半澤 節子

1. 所管事項

本委員会の所管事項は、臨地実習指導研修会を行うこと、また、本年度から新たな臨地教員対象の研修会を行うことである。

2. 委員会の構成

表1 構成員と役割

氏 名	役 割
半澤 節子 教授	委員長
塚本 友栄 教授	副委員長
浜端 賢次 准教授	
佐藤 幹代 准教授	
角川 志穂 准教授	
石井 慎一郎 講師	
看護学務課 湯浅参事, 中村嘱託職員	事務局

表2 令和元年度の審議事項

回	開催日	審議事項
1	4月19日	1. 年間計画の検討 2. 本年度の研修会の日程、方針、役割分担の確認
2	5月22日	臨地実習指導研修会の役割分担、講師の選定、マニュアル、アンケートの検討
3	8月6日	臨地実習指導研修会の配布資料、進行方法、会場設営などの検討
4	9月25日	1. 臨地実習指導研修会のアンケート集計結果報告 2. 看護学部の講義・演習に関わるスタッフのための研修会の日程および役割分担の検討
5	2月3日	看護学部の講義・演習に関わるスタッフのための研修会の当日の進行、役割分担の確認
6	3月16日	1. 看護学部の講義・演習に関わるスタッフのための研修会の振り返り 2. 本年度の活動評価と次年度の課題の検討

3. 活動内容

(1)臨地実習指導研修会

臨地実習指導研修会は、本学部の教育理念を踏まえ、臨地実習の場において教員と臨地実習指導者が相互理解を深め、協力して指導を提供できることを目的に実施している。平成18年度から開催され本年度は14回目であった。9月10日（火曜日）および11日（水曜日）の2日間に開催された。

受講者は49人で例年並みの人数であった。受講者のうち附属病院看護師は36人（73.5%）であった。アンケートの自由記載をみると、ワールドカフェなどの経験したことのないグループワークが興味深かったこと、ロールプレイによる学びが良かったなどグループワークによる参加型の研修スタイルに対する高評価がみられた。

(2)看護学部の講義・演習に関わるスタッフのための研修会

本研修会は、臨地教員を対象とした看護学部の講義・演習を行う上での教育上のスキルの向上を図ることを目的として、2月28日（金曜日）午後の日程で開催した。昨年度から開催され本年度は2回目となった。受講対象者は、看護学部の講義もしくは演習の指導に関わった経験を有する、もしくは今後予定している臨地教員等とした。

プログラムは、前半に「学生が主体的に学ぶための工夫～講義の展開方法と演習の効果的な関わり」と題した講義、後半に自由討論を行った。

受講者は33人で、昨年度よりも参加人数が多く、うち附属病院看護師は29人（87.9%）であった。アンケートの自由記載からは、「他部署の看護師や看護学部の教員と情報交換する機会があるのはよかった」「自由討論では経験の幅があり様々な意見を聞くことができて有意義だった」など、また、学部の教員の意見では、「演習にきてもらっているスタッフの意見を知る機会が得られ、どのような対応が求められているのかを考える機会となった」といった意見がみられた。次年度も引き続き、講義と演習に関わる臨地教員を含む看護師を対象に、同様の内容の研修を行う。

研究推進委員会

委員長 小原 泉

1. 所管事項

本委員会の所管事項は、①看護職等との共同研究費に関する事項、②研究活動評価に関する事項、③研究活動の充実・活性化に関する事項、である。

2. 委員会の構成

本委員会の構成員と役割を表1に示す。

表1 構成員と役割

氏 名	役 割
小原 泉 教授	委員長，教育・研究関連施設からの研究支援依頼担当者の補助，研究補助者（間接経費雇用）の業務管理の補助
成田 伸 教授	副委員長，教員の研究の情報公開（オプトアウト），間接経費応募とりまとめ，看護学部共同研究費担当者の補助
長谷川直人 准教授	看護学部共同研究費担当
平尾 温司 准教授	競争的研究費獲得支援担当，間接経費応募とりまとめ
石井慎一郎 講師	研究補助者（間接経費雇用）の業務管理，競争的研究費獲得支援担当
島田 裕子 講師	教育・研究関連施設からの研究支援依頼担当，看護学部共同研究費担当者の補助

3. 活動内容

本年度の委員会開催と審議事項を表2に示す。

看護学部共同研究費は最終的に計8件に配当した。教育・研究関連施設への研究支援は，芳賀赤十字病院新規研究8件，さいたま医療センター新規研究2件，附属病院新規研究2件および研究指導担当者等への支援2件に対応した。競争的研究費獲得支援としては，8月26日に大学院看護学研究科FD研究会と兼ねて看護学部教員研究ミーティングを開催し，26名（約55%）が参加した。北海道文教大学の松田ひとみ教授より「科研費審査システムの改革と看護学の展望」について講演があり，好評であった。文部科研費申請件数は6件（前年度に同じ）であった。研究補助者は，延べ17名の研究者の依頼に応じて研究補助業務を行い，研究の推進を支援した。

表2 2019年度の審議事項

回	開催日	審議事項
1	4月17日	1. 2019年度委員会の開催日程・役割分担について 2. 教育・研究関連施設からの研究支援依頼について 3. 2018年度看護学部教員共同研究費報告書について 4. 2019年度看護学部教員共同研究費応募課題について 5. 2019年度科学研究費助成事業の交付状況について 6. 2019年度競争的資金（間接経費）で雇用した研究補助者の業務運用方法について
2	5月17日	1. 教育・研究関連施設からの研究支援依頼について 2. 競争的研究費獲得支援について 3. 研究補助者業務依頼に関する取り決めと年間計画に関する調査について
3	6月13日	1. 教育・研究関連施設からの研究支援依頼について 2. 競争的研究費獲得支援について 3. 研究補助業務者の年間計画に関する調査について
4	10月10日	1. 競争的研究費獲得支援の評価 2. 2019年度間接経費への応募 3. 令和元年度競争的研究費獲得状況
5	1月16日	1. 2019年度看護学部教員共同研究費報告書について 2. 2020年度看護学部教員共同研究費募集について 3. 研究補助者業務依頼に関する取り決め改訂について
6	3月12日	1. 2020年度看護学部教員共同研究費応募課題について 2. 教育・研究関連施設からの研究支援依頼結果について 3. 看護研究支援に関する申し合わせ事項修正について 4. 間接経費（人件費）の要望書提出について

入試実施委員会

委員長 永井 優子

1. 所管事項

本委員会の所管事項は、次のとおりである。

1) 入学試験実施に関する事項

(1) 入学試験実施日の役割分担・実施手順に関すること。

(2) 入学試験実施説明会に関すること。

2) その他学部長が必要と認めた事項

2. 委員会の構成

本委員会の構成員と役割を表1に示した。

表1 構成員と役割

氏 名	役 割
永井 優子 教授	委員長
横山 由美 教授	副委員長
倉科 智之 准教授	委員
角川 志穂 准教授	委員
清水 みどり 講師	委員
古島 幸江 講師	委員
海老原 誠 課長	事務局
湯浅 芳江 参事兼課長補佐	事務局
松本 恵美子 係長	事務局

3. 活動内容

本年度は、4回の委員会を開催した。各回の審議事項を表2に示した。

第1回の委員会では、構成員および所管事項、入学試験関係の日程を確認し、学生募集要項の受験生への説明内容を修正し、入学試験マニュアルの追加項目の作成について了承された。

第2回の委員会では、令和元年度推薦入学試験の実施マニュアルを検討し、修正版マニュアルを用いて2019年11月17日（金）に入試実施説明会を開催し、推薦入学試験を11月16日（土）に実施した。

第3回の委員会では、一般入学試験の入試実施マニュアルを確認し、本看護学部入学試験として初めての別室受験者への対応も含めて検討し、修正版を作成した。2020年1月17日（金）に作成したマニュアルを用いて一般入学試験実施説明会を開催し、一般入学試験（一次試験）を1月25日（土）に、一般入学試験（二次試験）を2月8日（土）に実施した。

第4回の委員会では、令和2年度入学試験の評価を行い、学校推薦型と一般選抜に試験の名称が変更されること、会場設営、担当者の配置人数、集

合時間等について、新型コロナウイルス感染症対策を含めて修正を要する部分を確認し次年度の検討として整理した。また、令和3年度入学試験実施マニュアルについて、募集要項の「受験生の皆さんへ」の内容について検討し、わかりやすく項目をつけて整理することについて検討し、マニュアル全体の修正版を作成した。

表2 2019年度の審議事項

回	開催日	審議事項
1	2019年 4月8日	1. 本委員会の構成について 2. 本委員会の所管事項について 3. 令和2年度看護学部入学試験関係の日程について 4. 学生募集要項について 5. 令和2年度入学試験実施マニュアルについて
2	10月17日	1. 令和2年度推薦入学試験実施マニュアルについて 2. 推薦入学試験実施説明会の日程変更について
3	12月19日	1. 令和2年度一般入学試験実施マニュアルについて 2. 一般入学試験実施説明会の実施について
4	2020年 3月12日	1. 令和2年度看護学部入学試験の評価について 2. 令和3年度入学試験実施マニュアルについて

大学院看護学研究科委員会等報告

大学院看護学研究科委員会

委員長 春山 早苗

1. 所管事項

- (1)学則の制定及び改廃に関する事項
- (2)研究科の教育課程に関する事項
- (3)入学、休学、退学、転学、転入学、除籍及び賞罰に関する事項
- (4)試験に関する事項
- (5)学位論文審査に関する事項
- (6)その他研究科の学事に関する重要事項

2. 委員会の構成

- (1)「自治医科大学大学院学則」第41条第2項に規定する者（研究科長、専攻分野主任教授、研究科長が指名する教授）

表1 構成員と役割

氏 名	役 割
春山 早苗	委員長（研究科長）
成田 伸	委 員（幹事長）
上野 まり	委 員
大塚 公一郎	委 員
小原 泉	委 員
里光 やよい	委 員
塚本 友栄	委 員
永井 優子	委 員
野々山 未希子	委 員
半澤 節子	委 員 ※
本田 芳香	委 員 ※※
村上 礼子	委 員 ※※※
横山 由美	委 員

※実践看護学分野主任兼ねる

※※広域実践看護学分野主任兼ねる

※※※地域看護管理学分野主任兼ねる

3. 活動内容

- (1)「自治医科大学大学院学則」第41条第1項の規定により、看護学研究科の学事に関する重要事項について審議を行うため、表2のとおり看護学研究科委員会を開催した。

表2 2019年度の審議事項

回	開催日	審議事項
1	4月26日	・平成31年度大学院看護学研究科非常勤講師の任用
2	4月18日	・2019年度科目等履修生の履修取消 ・2019年度看護学研究科履修科目（博士前期・後期課程）の決定 ・長期履修許可（博士前期課程、博士後期課程）

3	6月6日	・2020年度看護学研究科入学試験 ・2020年度博士前期課程科目等履修生開講科目等履修生の履修取消 ・2019年度博士前期課程科目等履修生後期開講科目一覧（追加募集） ・2019年度看護学研究科博士課程説明会 ・既修得単位の認定 ・博士後期課程研究費の審査結果
4	6月26日	・学生の休学
5	7月4日	・2020年度看護学研究科（博士前期課程）入学試験実施マニュアル ・2019年度看護学研究科特別講義 ・2019年度看護学研究科FD研究会
6	8月29日	・学生の休学 ・研究計画審査 ・2020年度看護学研究科予算要求 ・看護学研究科諸規程の改正
7	9月19日	・2019年度看護学研究科科目等履修生（追加募集）の決定 ・学生の休学 ・2019年度看護学研究科科目等履修生単位修得（前期課程・後期課程）認定
8	10月3日	・2020年度看護学研究科（博士前期課程）入学試験合格判定 ・2019年度看護学研究科（博士後期課程）入学生の副研究指導教員
9	12月2日	・2019年度看護学研究科博士後期課程論文審査（口頭試問）及び最終試験（学位論文発表会） ・2019年度看護学研究科博士後期課程論文審査実施要領 ・2020年度看護学研究科博士前期課程第Ⅱ期募集及び博士後期課程入学試験実施マニュアル ・2021年度看護学研究科入学試験日程 ・2020年度大学院要綱 ・2020年度看護学研究科博士前期課程科目等履修生開講科目 ・大学院修了後の看護実践能力に関する自己評価
10	12月16日	・2019年度看護学研究科博士前期課程論文審査（口頭試問）及び最終試験（学位論文発表会）
11	1月9日	・2020年度看護学研究科博士前期課程出願資格認定試験（第Ⅱ期募集）合格判定 ・2020年度看護学研究計画審査会（博士後期課程）日程 ・2020年度看護学研究科研究計画支援委員会（博士前期課程）日程 ・2020年度看護学研究科非常勤講師の任用 ・2021年度看護学研究科科目等履修生募集日程 ・2019年度国際学会参加に伴う補助金交付

12	2月3日	・学生の休学 ・2019年度看護学研究科博士前期・後期課程論文審査（口頭試問）の結果 ・2019年度看護学研究科学位論文発表会スケジュール ・2020年度看護学研究科科目等履修生（博士前期課程）の決定 ・2020年度学年暦 ・2020年度看護学研究科教員の任用及び担当授業科目追加申請 ・2020年度看護学研究科非常勤講師の任用 ・2020年度看護学研究科科目責任者の決定 ・2020年度看護学研究科博士課程説明会 ・2021年度看護学研究科科目等履修生募集日程の変更
13	2月18日	・2019年度看護学研究科博士（看護学）学位論文審査最終試験の判定 ・2019年度看護学研究科修士（看護学）学位論文審査最終試験の判定
14	2月20日	・2020年度看護学研究科看護学専攻博士後期課程入学試験合否判定 ・2020年度看護学研究科看護学専攻博士前期課程(第Ⅱ期募集)入学試験合否判定 ・大学院教員任用審査
15	3月2日	・学生の退学 ・2019年度看護学研究科博士前期課程・後期課程修得単位の認定 ・2019年度看護学研究科博士前期課程・後期課程修了判定 ・2019年度看護学研究科博士前期課程科目等履修生の単位修得（後期履修） ・2020年度看護学研究科博士後期課程科目等履修生の決定 ・研究計画審査会立ち上げ ・課題研究 ・2020年度看護学研究科研究指導教員の決定 ・2020年度看護学研究科新生・在学生オリエンテーション ・2020年度看護学研究科委員会議事日程 ・2020年度看護学研究科研究生の受入

（回数表示の○囲みは持回り審議）

研究科委員会幹事会

幹事長 成田 伸

1. 所管事項

- (1)自治医科大学大学院看護学研究科委員会（以下「研究科委員会」という）に付議する事項に関する事前審議
- (2)自治医科大学大学院看護学研究科に係る企画立案
- (3)その他、大学院看護学研究科の運営に係る日常業務の処理

2. 委員会の構成

委員会の構成員と各委員の役割を表1に示した。

表1 構成員と役割

氏 名	役 割
春山 早苗 教授	研究科長，研究計画支援委員長
成田 伸 教授	幹事長
半澤 節子 教授	実践看護学分野主任教授，入試実施委員長
村上 礼子 教授	地域看護管理学分野主任教授，FD評価実施委員長
本田 芳香 教授	広域実践看護学分野主任教授，カリキュラム委員長
小原 泉 教授	広報委員長

3. 活動内容

令和元年度は計11回の研究科委員会幹事会を開催した。令和元年度の審議事項の概要を表2に示した。

研究科委員会幹事会の所管事項が適時審議されるよう、幹事会の定例会における議題を年度当初に設定し、必要な検討事項について各委員会において審議を行い、幹事会ではその内容に基づいて委員長より報告がされ、審議した。

表2 令和元年度の審議事項

回	開催日	審議事項
1	平成31年 4月18日	1. 令和2年度看護学研究科入学試験 2. 令和2年度博士前期課程科目等履修生の募集 3. 科目等履修生の履修取り消し 4. 令和元年度看護学研究科博士前期課程科目等履修生後期開講科目（追加募集） 5. 令和元年度看護学研究科博士課程説明会 6. 既修得単位の認定 7. 博士後期課程研究費の審査結果
2	令和元年 5月21日	1. 令和2年度看護学研究科入学試験日程 2. 令和2年度看護学研究科学生募集要項 3. 令和2年度看護学研究科出願資格認定試験及び入学試験の実施要領 4. 令和2年度博士前期課程科目等履修生開講科目 5. 令和元年度看護学研究科特別講義 6. 科目等履修生の履修取消 7. 博士後期課程研究費の選考結果
3	6月25日	1. 学生の休学 2. 令和2年度看護学研究科（博士前期課程）入学試験実施マニュアル 3. 令和元年度看護学研究科特別講義 4. 令和元年度看護学研究科FD研究会 5. 看護学研究科諸規程
4	7月23日	1. 学生の休学 2. 令和2年度看護学研究科予算 3. 令和2年度看護学研究科出願資格認定試験実施マニュアル 4. 看護学研究科諸規程
5	9月24日	1. 大学院ホームページ
6	10月23日	1. 看護学研究科説明会チラシ 2. 博士前期課程科目等履修生の履修条件
7	11月19日	1. 令和元年度看護学研究科論文審査（口頭試問）及び最終試験（学位論文発表会） 2. 令和元年度看護学研究科論文審査実施要領 3. 令和2年度看護学研究科博士前期課程第Ⅱ期募集及び博士後期課程入学試験実施マニュアル 4. 令和2年度看護学研究科時間割 5. 令和2年度大学院要綱 6. 令和2年度看護学研究科博士前期課程科目等履修生開講科目 7. 大学院修了後の看護実践能力に関する自己評価

8	12月17日	1. 令和2年度看護学研究科研究計画審査会（博士後期課程）日程 2. 令和2年度看護学研究科研究計画支援委員会（博士前期課程）日程 3. 令和2年度看護学研究科科目責任者の決定 4. 令和2年度看護学研究科時間割 5. 令和2年度看護学研究科学年歴 6. 令和2年度看護学研究科非常勤講師の任用 7. 令和3年度看護学研究科科目等履修生募集日程 8. 令和元年度国際学会参加に伴う補助金交付
9	令和2年 1月21日	1. 学生の休学 2. 看護学研究科教員の任用及び担当授業科目の追加申請 3. 令和2年度看護学研究科非常勤講師任用審査 4. 令和2年度看護学研究科非常勤講師（医学部教員）任用 5. 令和2年度看護学研究科学年歴 6. 看護学研究科博士課程説明会 7. 日本学生支援機構奨学金にかかる返還免除候補者の推薦 8. 令和元年度専門看護師認定試験結果
10	2月19日	1. 学生の退学 2. 令和2年度看護学研究科新入生・在学生オリエンテーション 3. 令和2年度看護学研究科学位申請日程 4. 日本学生支援機構奨学金にかかる返還免除候補者の推薦 5. 令和2年度看護学研究科教員の任用 6. 令和2年度大学院要綱 7. 令和2年度看護学研究科予算関係 8. 大学院生の医療安全講習会・感染対策講習会受講 9. 令和2年度看護学研究科博士前期課程共通科目「看護倫理」講義日程
11	3月24日	1. 9月修了を前提とした論文審査及び最終試験スケジュール 2. 令和2年度幹事会審議事項 3. 大学院修了後の看護実践能力に関する自己評価 4. 令和元年度TA業務内容報告 5. 令和元年度博士後期課程研究費による研究進捗状況報告 6. 令和3年度入学者対応第1回看護学研究科博士課程説明会の評価

教育研究分野別報告

看護基礎科学

教授 大塚 公一郎

1. スタッフの紹介

教授 大塚 公一郎
准教授 倉科 智行
准教授 平尾 温司
講師 関山 友子
講師 鹿野 浩子

2. 教育の概要

1) 看護基礎科学に関する教育概要

(1)心理学（2年次前学期2単位：必修）

科目責任者である大塚が30時間を担当して講義を行った。

(2)人間関係論（1・2年次前学期1単位：選択）

科目責任者である大塚が5時間、高村寿子非常勤講師（自治医科大学名誉教授）が2時間、渡辺純一非常勤講師（井之頭病院専門看護師）が8時間を担当して講義ならびに演習を行った。

(3)病態学概論（1年次後学期2単位：必修）

科目責任者である倉科が30時間を担当して講義を行った。

(4)病態学各論（2年次前学期2単位：必修）

科目責任者である倉科が30時間を担当して講義を行った。

(5)臨床検査学（2年次後学期1単位：必修）

科目責任者である倉科が7時間、紺野 啓非常勤講師（本学医学部准教授）が4時間、木島喜茂非常勤講師（本学医学部講師）が2時間、出井 充非常勤講師（本学RIセンター管理主任）が2時間を担当して講義を行った。

(6)人体科学の基礎（1・2年次前学期1単位：選択）科目責任者である倉科が13時間、菱川修司非常勤講師（本学医学部准教授）が2時間を担当し講義を行った。

(7)人体の構造と機能Ⅰ（1年次前学期2単位：必修）科目責任者である平尾が30時間を担当して講義を行った。

(8)医療とバイオテクノロジー（1年次前学期1単位：選択）科目責任者である平尾が15時間を担当して講義を行った。

(9)人体の構造と機能Ⅱ（1年次後学期2単位：必修）科目責任者である平尾が30時間を担当して講義および実習を行った。また、野田泰子非常

勤講師（医学部解剖学講座教授）、三木玄方非常勤講師（医学部解剖学講座講師）、加藤一夫非常勤講師（筑波技術大学教授）が4時間を担当して実習を行った。

(10)免疫学（1年次後学期2単位：必修）科目責任者である滝龍雄非常勤講師が20時間を担当して講義を行った。科目分担者である平尾が10時間を担当して講義を行った。

(11)情報学（1年次後学期2単位：選択）

科目分担者である浅田義和（本学情報センター講師）が10時間、江角伸吾（地域看護学講師）が4時間、科目責任者である関山が16時間を担当して講義ならびに演習を行った。

(12)統計学（2年次前学期1単位：必修）

科目責任者である関山が15時間を担当して講義を行った。

(13)統計学演習（2年次後学期1単位：必修）

科目責任者である関山が15時間を担当して講義ならびに演習を行った。

(14)疫学（4年次前学期2単位：必修）

科目分担者である江角伸吾（地域看護学講師）が4時間、科目責任者である関山が26時間を担当して講義を行った。

(15)基礎英語（1・2年次前学期1単位：必須）科目責任者である鹿野が30時間を担当して講義ならびに演習を行った。

(16)医療英語（2・4年次前学期1単位：選択）科目責任者である鹿野が30時間を担当して講義ならびに演習を行った。

2) 看護基礎科学以外の担当教育概要

(1)対象の理解実習（1年次前学期1単位：必修）大塚、平尾、関山、鹿野は各8時間の実習を担当した。

(2)看護基礎セミナー（1年次前学期1単位必修）倉科、平尾は各22時間の演習を担当した。

(3)保健医療福祉システム論（1年次後学期2単位：必修）

科目分担者である春山早苗（地域看護学教授）が6時間、島田裕子（地域看護学講師）、青木さざり（地域看護学講師）が各4時間、上野まり（老年看護学教授）、塚本友栄（地域看護学教授）、江角伸吾（地域看護学講師）、土谷ちひろ（地域看護学助教）が2時間、科目責任者である関山が6時間を担当して講義を行った。

- (4)文献講読セミナー（2年次前学期1単位：必修）
関山、鹿野は、各10時間の演習を担当した。
- (5)公衆衛生看護実習（3年次後学期4単位：必修）
大塚、関山、倉科、各6時間、鹿野は12時間の実習を担当した。
- (6)看護トピックス（4年次後学期2単位：必修）
平尾は宇都宮大学農学部附属農場で12時間の実習を担当した。
- (7)看護総合実習（4年次前学期2単位：必修）
関山は、90時間の実習を地域看護学の教員と担当した。
- (8)看護総合セミナー（4年次通年4単位：必修）
関山は、120時間のセミナーを地域看護学の教員と担当した。大塚は、18時間のセミナーを精神看護学の教員と、倉科は12時間のセミナーを成人看護学の平尾は12時間のセミナーを老年看護学の教員と、鹿野は各16時間のセミナーを担当した。
- (9)大塚は、本学医学部3年生を対象に、2時間の社会精神医学の系統講義を行った。
- (10)大塚は、本学医学部4年生を対象に、精神科臨床実習クルズ「サイコネフロロジー」の講義を計16時間行った。
- (11)倉科は、本学医学部3年生を対象に、2時間の内分泌代謝学の系統講義を行った。
- (12)倉科は、本学医学部6年生を対象に、2時間の糖尿病学の内科学総括講義を行った。
- (13)倉科は、本学医学部4年生を対象に、内分泌代謝科実習クルズ「糖尿病」の講義を計16時間行った。
- (14)平尾は、本学医学部1年生を対象に136時間の解剖学実習を担当した。
- (15)平尾は、本学医学部2年生を対象に16時間の神経解剖学実習を担当した。

3. 研究の概要

- (1)躁うつ病の精神病理学的研究
大塚は、躁うつ病患者の不安と罪責体験の関係について精神病理学的研究を行った。
- (2)覚醒夢の精神病理学的研究
大塚は、日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究(C)）による研究課題「明晰夢の現象学」（研究代表者：本学医学部総合教育部門 武内大）に研究分担者として参加し、同研究を実施した。

- (3)平尾は、「尾腺における樹状細胞マーカーの発現に関する研究」を代表者として実施した。共同研究者は宇都宮大学青山であった。
- (4)関山は、令和元年度厚生労働科学研究費補助金循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業「循環器疾患・糖尿病等生活習慣病を予防するための情報通信技術を活用した保健指導プログラム及びその実践のための手引きの作成と検証」（研究代表者：自治医科大学 春山早苗）の研究協力者として参加し、同研究を実施した。

4. その他

- (1)大塚は、令和1年4月より多文化間精神医学会理事、同年4月より同学会誌「こころと文化」編集委員長を務めている。
- (2)大塚は、平成22年10月より日本精神病理学会評議員を務めている。
- (3)大塚は、平成26年10月より日本精神医学史学会評議員を務めている。
- (4)大塚は、多文化間精神医学学会誌「こころと文化」の編集委員長として、投稿論文3本の査読を行った。
- (5)大塚は、非常勤講師として、栃木県立衛生福祉大学校看護学科専科で2時間の精神医学の講義を行った。
- (6)大塚は、日本ルーラルナース学会学会誌「ルーラルナース」の査読委員を務めた。
- (7)倉科は、非常勤講師として、栃木県立衛生福祉大学校看護学科専科で2時間の病態生理学Ⅱ（内分泌代謝学）の講義を行った。
- (8)平尾は、栃木県立宇都宮北高等学校の模擬講義を1時間担当した。
- (9)関山は、平成31年度地域保健福祉職員研修（調査研究支援研修）の研究課題1件について研究指導を行った。
- (10)関山は、自治医科大学看護学部ジャーナルの査読員を務め、査読を行った。
- (11)関山は、平成22年4月より日本ルーラルナース学会編集委員を務めている。
- (12)鹿野は、平成29年度4月より社会科学言語学会企画委員を務めている。

基礎看護学

教授 本田 芳香

1. スタッフの紹介

教授 本田 芳香

教授 小原 泉

准教授 福田 順子

講師 湯山 美杉

助教 石井 容子

高山 温子（2020年3月31日退職）

猪瀬 典子（2019年10月31日退職）

2. 教育の概要

基礎看護学科目群では、発達段階に合わせたすべての人を意識し、4年間で学ぶべく看護学の基礎を、また看護実践していくための基本的な論理思考の構築を目指し教育を進めた。

1) 基礎看護学に関する教育概要

- (1)看護学概論（1年次前学期2単位：必修）担当：本田芳香：人間・健康・環境・看護の主な概念、看護理論、歴史的変遷、法律・倫理及び看護活動の場と保健医療福祉チームにおける看護の役割・機能など、今後看護が目指す概要を教授する。
- (2)実践看護学概論Ⅰ（1年次前学期1単位：必修）担当：本田芳香：看護過程の基本として論理的思考及び対人関係スキルの概要を教授する。特に学生自身の健康課題と関連させたテーマを選定し、自己の問題解決技法を教授した。
- (3)看護技術論Ⅰ・看護技術演習Ⅰ（1年次前学期1単位：必修）担当：福田順子，他基礎看護学教員全員：看護技術の導入としての環境や健康におけるバイタルサイン，基本的大意に関し講義と演習を進めた。
- (4)看護技術論Ⅱ・看護技術演習Ⅱ（1年次後学期1単位：必修）担当：福田順子，他基礎看護学教員全員：日常生活援助に関し，食事，排泄，清潔等の講義と演習を進めた。
- (5)ヘルスアセスメント（1年次後学期1単位：必修）担当：小原泉，他基礎看護学教員全員：系統的なフィジカルアセスメントに必要な全身の観察技法について講義演習を行った。
- (6)看護技術論Ⅲ・看護技術演習Ⅲ（2年次前学期1単位：必修）担当：小原泉，福田順子他基礎看護学教員全員：診療の補助業務に関し，滅菌操

作，採血等の検査，与薬に関連する点滴，筋注，皮下注等の講義演習を行った。

- (7)看護過程演習（2年次前学期1単位：必修）担当：小原泉，他基礎看護学教員全員：看護過程の展開を教授し，学生にはグループに分け基礎看護学の教員全員で個別に指導した。
- (8)対象の理解実習（1年次前学期1単位：必修）担当：湯山美杉，他基礎看護学教員全員：附属病院の病棟・外来に来院する対象の理解を人間・健康・環境・看護の視点から実習を通して学ぶ。
- (9)日常生活援助実習（2年次後学期2単位：必修）：担当：本田芳香，他基礎看護学教員全員，附属病院で入院している患者を初めて受け持ち，日常生活に関わる援助を実習を通して学ぶ。
- (10)その他：「がん看護学」は，小原が担当。「看護倫理」は，小原が担当。「看護トピックス」は本田が担当。「看護基礎セミナー」は，基礎看護学教員全員が担当した。「総合実習・総合セミナー」は，教授（本田，小原）を中心に，准教授（福田），講師（湯山），助教全員（石井，高山，猪瀬）が担当した。

3. 研究の概要

1) 研究プロジェクトの参加（研究代表者）

- ①本田は，文部科学省科学研究費補助金基盤研究（C）による研究課題「地域文化を基盤とする終末期がん患者の在宅看取りケアに関する多職種コーディネート機能」の研究代表者として参加し，同研究を実施した。研究分担者は本学部教員福田，湯山，本学医学部教員の藤井博文，高崎健康福祉大学の棚橋さつき，大東文化大学北田志郎であった。
- ②小原は，文部科学省化学研究費補助金（基盤研究（C））による研究課題「がん臨床試験における患者の意思決定支援のための学習プログラム開発と実践知の可視化」の研究代表者として参加し，同研究を実施した。研究分担者は，東京大学医科学研究所 藤原紀子，埼玉医科大学国際医療センター 玉木秀子，東京大学 山本則子，東京保健医療大学 山花令子，千葉大学大学院 野崎章子，広島大学 吉村健一であった。
- ③石井は，看護学部教員共同研究費による研究課題「妊孕性のある終末期の婦人科がん患者の在宅療養への移行期における課題とその支援」の研究代表者として参加し，同研究を実施した。

研究分担者は、自治医科大学看護学部 本田芳香、湯山美杉、自治医科大学附属病院婦人科師長 野沢博子、本学附属病院 患者サポートセンター 岩永麻衣子、皆川麗沙であった。

2) 研究プロジェクトの参加（分担研究者）

- ①本田は、文部科学省 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「日本型地域ケア実践開発事業」テーマ1「地域ケアスキル・トレーニングプログラムの開発研究」（研究代表者：春山早苗）の分担研究者として参加し、同研究を実施した。
- ②本田は、令和元年度看護学部教員共同研究費による研究課題「妊孕性のある終末期の婦人科がん患者の在宅療養への移行期における課題とその支援」（研究代表者：石井容子）に分担研究者として参加し、同研究を実施した。
- ③小原は、文部科学省化学研究費補助金（基盤研究（C））による研究課題「特定機能病院精神科病棟・外来・在宅支援の主軸となる高難度看護実践教育プログラム」（研究代表者：野崎章子）に研究分担者として参加し、同研究を実施した。
- ④福田は、文部科学省科学研究補助金（基盤研究（C））による研究課題、「地域文化を基盤とする終末期がん患者の看取りケアに関する多職種コーディネート機能」（研究代表者：本田芳香）に、分担研究者として参加し、同研究を実施した。
- ⑤湯山は、文部科学省科学研究補助金（基盤研究（C））による研究課題、「地域文化を基盤とする終末期がん患者の看取りケアに関する多職種コーディネート機能」（研究代表者：本田芳香）に、分担研究者として参加し、同研究を実施した。
- ⑥湯山は、令和元年度看護学部教員共同研究費による研究課題「妊孕性のある終末期の婦人科がん患者の在宅療養への移行期における課題とその支援」（研究代表者：石井容子）に分担研究者として参加し、同研究を実施した。

4. その他

①査読

本田は、日本在宅ケア学会誌編集委員会の査読委員を務めた。

本田は、日本看護科学学会誌編集委員会の査

読委員を務めた。

小原は、日本臨床試験学会誌編集委員会の査読委員を務めた。

小原は、日本がん看護学会誌編集委員会の査読委員を務めた。

小原は、第34回日本がん看護学会学術集会の演題査読委員を務めた。

②臨床スタッフへの研究指導（学外）

福田は、栃木県看護協会認定看護管理者教育運営委員会の委員を務めた。

福田は、看護経済・政策研究学会 第10回学術集会「高度実践看護職の活躍とその経済的評価」の学会運営を務めた。

地域看護学

教授 春山 早苗

1. スタッフの紹介

教授 春山 早苗

教授 塚本 友栄

講師 島田 裕子

講師 青木さざり

講師 江角 伸吾

助教 土谷ちひろ（2020年3月31日退職）

助教 横山 絢香

2. 教育の概要

1) 地域看護学に関する教育概要

公衆衛生の理念を追求する看護の目的と活動方法の基本を理解し、公衆衛生看護活動の展開に必要なとなる基本的な知識と技術を学生が修得できることを目指して、主に行政に所属する保健師の活動を素材にして、教育にあたっている。担当科目は、実践基礎看護学概論Ⅲ（2年次前学期2単位：必修）、健康生活支援技術Ⅰ（3年次前学期1単位：必修）、健康生活支援技術Ⅱ（3年次後学期1単位：必修）、公衆衛生看護活動論（3年次後学期2単位：必修）、公衆衛生看護方法論（3年次後学期1単位：必修）、公衆衛生看護実習（3年次後学期4単位：必修）、行政看護管理論（4年次前学期1単位：必修）、地域健康危機管理論（4年次前学期1単位：必修）であり、本学科目教員全員で担当した。

2) 地域看護学以外の担当教育概要

①「保健医療福祉システム論」（1年次後学期2単位：必修）：春山・塚本・島田・青木・江角・土谷が担当。②「看護基礎セミナー」（1年次前学期：必修）：塚本・土谷・横山が担当。③「へき地の生活と看護」（1～4年次後学期1単位：選択）：青木、江角、土谷、横山が担当。青木・横山は担当者とともに、「へき地の生活と看護」履修者56名、研修者6名、計62名の夏季へき地研修を17カ所の国内施設において企画・実施した。江角、土谷は担当者とともに、履修者5名のプータン医科大学との交流プログラムを企画し、春山は引率した。④「文献講読セミナー」（2年次前学期：必修）：島田、青木、江角が担当。⑤「国際看護論」（4年次前学期1単位：必修）：江角が科目責任者、春山・土谷も担当。⑥老年在宅看護

実習（3年次後学期2単位：必修）：本学科目教員全員が1クール担当。⑦「看護政策学」（4年次前学期1単位：必修）：春山が科目責任者。⑧「総合実習」（4年次後学期：必修）：春山が科目責任者。本学科目教員及び看護基礎科学の関山講師で19名を担当。実習場所は下野市9名、群馬県吾妻郡中之条町六合地区4名、日光市足尾地域4名、県内訪問看護ステーション2名。⑨「看護総合セミナー」（4年次後学期：必修）：塚本が科目責任者。本学科目教員及び看護基礎科学の関山講師で学生19名を担当。春山2名、塚本3名、島田2名、青木3名、江角2名、土谷3名、横山2名の学生を指導。学生は、年子または双生児を育てる保護者への市町村保健師による支援、就労男性の生活習慣と保健行動の変化の要因、生活機能低下の予防行動のための高齢者支援、在宅で医療的ケア児を支える主養育者の体験、中山間過疎地域に住む高齢者の精神的健康への影響要因、へき地で暮らす高齢者の社会活動の継続要因と社会関連性を高める支援、山間過疎地域における介護予防自主グループの運営上の課題と保健師の支援等の看護研究に取り組んだ。⑩「看護トピックス」（4年次後学期：必修）：本学科目では、塚本が責任教員となり、テーマ「退院支援と多職種連携」を本学科目教員全員で17名の学生を担当。⑪「疫学」（4年次前学期科目2単位必修）：江角が担当。⑫情報学（1・4年次後学期2単位：選択）江角が担当。

3. 研究の概要

- 1) 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（基盤研究（C））「人口規模に応じた市町村保健師の地域保健活動マネジメント」：春山が研究代表者、塚本・島田・青木・江角・土谷・横山は研究分担者。
- 2) 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（基盤研究（C））「へき地等における退院支援・調整に関する教育プログラムの開発」：塚本が研究代表者、春山・島田・青木・江角・土谷は研究分担者。
- 3) 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）（若手研究（B））「離島町村で働く新任保健師の看護実践能力の向上につながる経験離島類型別の特徴」：青木が研究代表者。
- 4) 厚生労働科学研究費補助金（循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業）「循環

器疾患・糖尿病等生活習慣病を予防するための情報通信技術を活用した保健指導プログラム及びその実践のための手引きの作成と検証」：春山が研究代表者，江角が研究分担者，横山が研究協力者。

- 5) 本学部教員共同研究費「高齢化社会に対応する文化や習慣を踏まえた保健医療方略を検討するための基礎的調査－日本とブータン王国における高齢者の健康関連QOLおよび関連要因の比較から－」：春山が研究代表者，青木・江角・土谷は共同研究者。
- 6) 本学部教員共同研究費「へき地診療所における看護活動の実態と課題に関する調査」：青木が研究代表者となり，本学科目教員全員でへき地診療所看護師とともに実施。
- 7) 本学部教員共同研究費「地域包括ケアシステムにおいて協働する住民の地域特性別発掘方略及び生活支援コーディネーターの活動方法に関する研究」：土谷が研究代表者となり，本学科目教員全員で下野市保健師及び生活支援コーディネーターとともに実施。
- 8) 厚生労働科学研究費補助金（健康安全・危機管理対策総合研究事業）「災害対策における地域保健活動推進のための実務保健師の能力向上に係わる研修ガイドラインの作成と検証」（研究代表者：千葉大学大学院 教授 宮崎美砂子）：春山が研究分担者，島田，青木，横山が研究協力者。
- 9) 厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）「特定行為研修の修了者の活用に関する研究」：研究代表者：東京大学大学院医学系研究科 教授 真田弘美）：春山が研究分担者。
- 10) 厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）「へき地医療の向上のための医師の働き方およびチーム医療の推進に係る研究」（研究代表者：自治医科大学地域医療学センター地域医療学部門 教授 小谷和彦）：春山が研究分担者，江角が研究協力者。
- 11) 本学部教員共同研究費「看護学生の学習行動，学習経験，生活行動および生活体験：日本およびブータンの比較研究」（研究代表者：自治医科大学看護学部 教授 小原泉）：春山，江角が共同研究者。
- 12) 科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成

金）（基盤研究（C））「認知症ケア初動期の集中支援システムが予防機能を発揮するためのマネジメント指針」（研究代表者：長野県看護大学 教授 安田貴恵子）：春山が連携研究者。

4. その他

- 1) JICA草の根技術協力事業（草の根パートナー型）「モンゴル国 思春期からの健康なライフスタイル構築のための持続可能な仕組みづくりプロジェクト～性感染症と不適切な妊娠を予防し，豊かな自己実現をめざして～」：プロジェクトメンバーとして江角が現地活動（2019.4.28～5.5，8.7～8.16，ウランバートル），春山も現地活動（2019.8.2～8.7，ウランバートル）。
- 2) 栃木県地域保健中堅職員研修（企画評価編）（2019.6.7，8.27，12.4，参加者3名，宇都宮市）：春山は講師，青木は助言者。
- 3) 春山，島田は日本地域看護学会第22回学術集会ワークショップ「災害時健康危機管理支援チーム（DHEAT）と地域看護活動 これからの地域看護職に求められる災害対応力とは」の企画・運営（2019.8.18，参加者48名，横浜市）
- 4) 山梨県看護協会研修会「災害時における統括保健師の役割と行動」（2019.10.2，11.1，参加者24名，甲府市）：春山，島田，青木が講師。
- 5) 地域社会振興財団第1回災害保健研修会「災害時に保健従事者に求められる活動と災害に備えた平常時の活動」（2019.10.18-19，参加者20名，下野市）：春山，塚本，島田，青木，江角，土谷，横山が講師。
- 6) 山梨県中北保健所・峡北支所管内キャリアラダー別研修会（健康危機管理）（2019.11.6，参加者28名，韮崎市）：春山，青木が講師。
- 7) 山梨県峡東保健福祉事務所保健師現任教育健康危機管理に関する研修（災害研修）（2020.1.7，参加者27名，山梨市）：春山，青木が講師。
- 8) 茨城県竜ヶ崎保健所管内災害時保健活動に係る研修会（2020.1.15，参加者31名，龍ヶ崎市）：春山，横山が講師。
- 9) 平成元年度栃木県市町保健師業務研究会第3回研修会「台風19号の災害保健活動を振

- り返って」（2020.1.29，参加者54名，宇都宮市）：春山，島田が日本地域看護学会 災害支援のあり方検討委員として講師。
- 10) 春山，島田は厚生労働省健康局非常勤職員として厚生労働省対策推進本部サーベイランス班支援（2020.3.7～3.31，春山7日間，島田5日間）
- 11) 春山は日本ルーラルナース学会理事長，青木・江角・横山は事務局員。
- 12) 春山は日本地域看護学会副理事長及び災害支援のあり方検討委員会委員長，島田は同委員会委員。
- 13) 春山，江角，横山は栃木県保険者協議会保健活動部会ICT活用ワーキンググループ委員。
- 14) 春山：①厚生労働省 保健師中央会議のシンポジウム「保健活動の推進，人材育成・人材確保の体制整備に関する統括保健師の組織横断的な取組」の司会及びグループワーク「保健活動の成果から明らかになった課題への指導・助言に関する取組～統括保健師として組織横断的な観点から～」のコーディネーター（2019.4.24，157名，東京）②栃木県ICTを活用した特定保健指導に関するセミナー講師「特定保健指導におけるICT活用の利点と課題について」（2019.5.14，参加者73名，宇都宮市）③下野市議会 健康に関する勉強会講師「下野市の健康に関しての現状と課題について～脳血管疾患の標準化死亡率が基準値を上回る下野市～」（2019.6.17，参加者16名，下野市）④国立保健医療科学院 短期研修（公衆衛生看護研修（中堅期）（長期課程研修 地域保健福祉分野）講師「リスクマネジメント（災害）と保健師の役割」（2019.6.18，参加者66名，和光市）⑤下野市 健康推進員養成講座（2019.7.5，10.9，参加者13名），フォローアップ講座（2019.11.27，参加者21名）講師⑥保健師ブロック別研修会（近畿ブロック）講演「効果的・効率的な保健活動の展開」（2019.7.11，参加者203名，大阪市）⑦茨城県特定健診・特定保健指導実施者研修（経験者向け）講師「特定保健指導の実効性を高めるために，終了率・改善率に着目して」（2019.7.30，参加者48名，水戸市）⑧小山市保健師人材育成計画策定に係る研修会講師「保健師の人材育成とキャリアラダー」（2019.8.8，参加者32名，小山市），「市町村保健師としての役割，必要な能力，そして保健師活動の醍醐味」（2019.12.23，参加者32名，小山市）⑨日本地域看護学会第22回学術集会ワークショップ「「地域看護学」の再定義 これからの地域看護学の実践・教育・研究」の企画・運営（2019.8.18，横浜市，参加者98名）⑩第50回日本看護学会－在宅看護－学術集会ランチョンセミナー「在宅医療における臨床検査」の座長（2019.9.13，宇都宮市）⑪地域医療フォーラム2019 第3分科会（自治体間のグループ式の診療～効果的で円滑な市町村連携の進め方～）のファシリテーター（2019.9.15，東京）⑫認定看護師キャリアアップ研修会の基調講演「地域包括ケアシステム推進のための特定行為研修の活用」（2019.10.17，参加者727名，東京）⑬全国保健師長会シンポジウム「保健師人材育成に果たすリーダー保健師の役割」で「保健師基礎教育のカリキュラム改訂の動きから保健師現任教育に期待すること」を発表（2019.11.14，参加者305名，岡山市）⑭JICA青年研修事業「マレーシア／母子保健実施管理コース」の講師「日本における母子保健対策－住民との協働－」（2019.11.13，参加者10名，下野市）⑮栃木県地域保健管理期職員研修講師「地域における保健活動の推進に向けて～効果的な保健活動の展開と管理期に求められる役割～」（2019.12.20，参加者33名，宇都宮市）⑯第8回日本公衆衛生看護学会学術集会の一般演題（示説）「健康危機管理」の座長（2020.1.12，松山市）⑰令和元年度第5回東北大学大学院医学系研究科公衆衛生看護分野研究会講師「へき地の人々とルーラルナースング」（2020.1.16，参加者25名，仙台市）⑱厚生労働省 大規模災害における保健師活動推進会議の事例発表司会・グループワークコーディネーター・講評（2020.1.27，参加者221名，東京）⑲栃木県南健康福祉センター管内看護職員等研修会「令和元年台風第19号による災害対応の振り返り」（2020.3.16，参加者29名，小山市）のオブザーバー⑳厚生労働省健康局非常勤職員として北海道新型コロナウイルス感染症対策チーム支援（2020.3.3～3.5）㉑厚生労働省医道審議会臨時委員（保健師助産師

看護師分科会員）②厚生労働省医道審議会保健師助産師看護師分科会看護師特定行為・研修部会委員③厚生労働省「医療従事者の需給に関する検討会」構成員及び看護職員需給分科会構成員④厚生労働省看護基礎教育検討会構成員及び保健師ワーキンググループ座長⑤私立看護系大学協会の理事，大学運営・経営委員会委員⑥栃木県保健師現任教育のあり方検討会委員⑦下野市健康づくり推進協議会会長⑧栃木市健康増進計画推進部会及び庁内ワーキング合同会議のアドバイザー⑨小山市保健師人材育成計画策定アドバイザー⑩日本ルーラルナーシング学会誌査読委員及び第14回学術集会抄録の査読者⑪千葉看護学会会誌専任査読者⑫日本公衆衛生看護学会代議員，査読委員⑬日本地域看護学会誌査読委員⑭日本看護科学学会代議員及び和文誌編集委員⑮文化看護学会評議員⑯Public Health Nursing（Wiley online library）査読者

び査読委員

- 15) 塚本：①日本ルーラルナーシング学会誌査読委員②自治医科大学看護学ジャーナル査読者
- 16) 島田：①下野市介護認定審査会委員②下野市避難者交流会「ふくしまあじさい会」への健康支援活動（2019.8.8，参加者は約30名，下野市）
- 17) 青木：①東京都島しょ町村保健活動サポーター②結城市介護認定審査会委員③NPO法人へき地保健師協会理事長④日本島嶼学会理事⑤自治医科大学看護学ジャーナル査読者⑥NPO法人へき地保健師協会主催研修の講師「地域をまるごとみる！をわたしたちの強みに－へき地保健師の魅力発掘－」（2019.6.1，受講者30名，東京）⑦島しょ町村保健師スキルアップ支援事業・現地研修の講師「保健事業評価について」「保健師の人材育成について」「ファシリテーション」「新任期保健師人材育成計画」（2019.9.2-5，参加者28名，小笠原村）
- 18) 江角：①地域社会振興財団「第40回保健活動研修会」講師（2019.8.3，受講者約20名，下野市）②日本家族計画協会「第20回自己効力感（セルフエフィカシー）を活かす健康教育セミナー」講師（2019.12.7，受講者約30名，東京）③芳賀赤十字病院看護師8名の研究支援（研究課題8件）④日本思春期学会評議員及

精神看護学

教授 永井 優子

1. スタッフの紹介

教 授 永井 優子
教 授 半澤 節子
講 師 石井 慎一郎
助 教 富川 明子

2. 教育の概要

1) 精神看護学に関する教育概要

当学科目では、あらゆる健康水準の個人および集団を対象に、対象者の人権を尊重するとともに、その人の希望を踏まえた精神看護実践の基礎的知識と技術の修得を学士レベルの教育目標としている。精神の健康を増進し、精神の健康障害からの回復を促進する看護の提供体制は、精神科医療を提供する精神科病棟だけでなく、多様な場と支援者のネットワークにより精神障害者とその家族が生活者として健康の回復と社会生活の向上を図ることができるための看護を展開できる能力を育成することを目標としている。

担当科目は、「実践看護学概論Ⅱ」（2年次前学期1単位；必修）は永井15時間、「精神看護方法」

（3年次後学期2単位；必修）は、半澤10時間、永井10時間、石井10時間、「地域精神看護方法」（3年次後学期2単位；必修）は、永井6時間、半澤2時間、石井6時間、土屋徹非常勤講師（夢風舎代表）2時間、精神看護学教員全員で14時間の演習を担当した。「精神保健看護実習」（3年次後学期2単位；必修）は、下野市、小山市、野木町、佐野市の4市町にある精神科デイケア3施設と精神障害者通所型の社会福祉法人とNPO法人の計3法人において、全教員で90時間を担当した。また、総合実習（4年次前学期2単位；必修）と看護総合セミナー（4年次後学期4単位；必修）では、学生10名に対して120時間を担当した。さらに、石井は「看護トピックス」（4年次後学期1単位；必修）の8時間（テーマ：認知症をもつ人とその家族への看護職の役割6時間を含む）を担当した。

後学期の「精神看護方法」「地域精神看護方法」「精神保健看護実習」ではMoodleを用いて、学生の学習支援を行い。アクティブラーニングの手法を用いた教育方法の改善および質の向上に取り組んでいる。

なお、永井と半澤は、大学院看護学研究科博士前期課程において、実践基礎看護学分野精神看護学領域として、精神看護専門看護師（リエゾン精神看護）の教育課程の修了を目指す1名と精神看護学関連の教育研究者を目指す1名の指導を担当している。また、同博士後期課程においては、永井と半澤は各1名を主指導教員となっている。

2) 精神看護学以外の教育概要

1年次前学期必修科目として、永井は、「生涯発達看護論」（2単位）の18時間を、2年次後学期必修科目「グループ・アプローチ」（1単位）を8時間担当した。また、永井、半澤、富川は「看護基礎セミナー」（2単位）を28時間担当した。石井は「文献講読セミナー」（2年次前学期2単位；必修）を16時間担当した。

3. 研究の概要

永井は、文部科学省科学研究費助成事業の基盤研究(C)「看護基礎教育課程における認知症看護実践能力修得に向けたカリキュラムの開発」（代表者：湯浅美千代、2017年4月～2021年3月）の分担研究者として研究を実施している。

半澤は、文部科学省科学研究費助成事業 基盤研究(C)「精神科病棟における身体拘束の最小化および最短化に向けた基礎的研究」の研究代表者（2018年4月-2021年3月）として石井、永井、富川らを研究分担者として研究を実施している。

石井は、文部科学省科学研究費助成事業（基盤研究C）による研究課題「看護職のリフレクション及び継続学習を促進する他者とのかわりの様相」の研究代表者として、同研究を実施した。また、文部科学省科学研究費助成事業 基盤研究(C)「精神障害者による他害行為の予防に対する精神保健医療福祉体制の整備に関する研究」（2016年4月-2020年3月、研究代表者 小池純子；国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター）の研究分担者として研究を実施している。さらに、本学看護学部教員2019年度共同研究費による研究課題「授業の感想はどのような教育的意義をもつのか：国外文献からの考察」の研究代表者として、同研究を実施した。共同研究者は、田村敦子（本学部小児看護学准教授）、富川明子（本看護学部精神看護学助教）、白濱雅子および路川達阿起（本学大学院看護学研究科博士前期課

程），江田千絵（社会福祉法人ブローニュの森保健師），竹澤将也（佐野厚生農業協同組合連合会佐野厚生総合病院精神科デイケア看護師）であった。本学看護学部教員2019年度共同研究費による研究課題「看護学生の自己決定型学習を促進する学習環境の構築」（研究代表者：渡邊賢治）の共同研究者として参加し，同研究を実施した。

4. その他

永井は，栃木県および栃木県看護協会が主催する各種研修会の講師および四日市医療看護大学大学院の「コンサルテーション論」の非常勤講師として看護職の継続教育に協力した。また，下野市の「自殺対策計画策定委員会」の座長を務めて「下野市自殺対策計画」を下野師長に答申した。この計画を推進するために設置された，「下野市知識自殺対策ネットワーク協議会」の座長に就任した。

また，精神障害者監禁事件特別委員会委員として第38回日本社会精神医学会において，シンポジウム3「『私宅監置ノ実況』から100年後の現実を問う～寝屋川・三田事件から私たちが学ぶもの～（精神障害者監禁事件特別委員会企画）」を企画した。第29回日本精神保健看護学会学術集会において，学術集会会長講演「家族ケアの実践とエビデンス（演者 香月 富士日 名古屋市立大学大学院）の座長を務め，理事会企画「身体拘束を行わない看護実践のために本会ができること」を企画し，末安 民生（岩手医科大学）代議員とともに座長を務めた。

さらに，日本看護系大学協議会高度実践看護師教育課程認定委員会の分科会委員として，精神看護専門看護師教育課程の審査に協力した。（一社）日本精神保健看護学会理事長（6月まで）・代議員・査読委員，日本ルーラルナーシング学会評議員・理事（11月まで事務局長，以後渉外担当），千葉看護学会，日本看護学教育学会の評議員，選挙管理委員，文化看護学会の監事，日本看護科学学会，日本看護研究学会，日本家族看護学会の査読委員，日本病院・地域精神医学会編集委員を務めている。

半澤は，日本精神障害者リハビリテーション学会の常任理事（学会誌編集担当），同学会誌編集委員，査読委員，日本社会精神医学会理事，同学会編集委員・査読委員，日本精神保健・予防学会

の評議員，日本精神衛生学会理事および学会誌査読委員，日本精神神経学会 英文誌 Psychiatry and Clinical Neurosciences, Psychiatry Research, International Journal of Culture and Mental HealthおよびAsian Federation of Psychiatric Associations, Asian Journal of Psychiatry,のReviewer，日本精神保健看護学会，日本ルーラルナーシング学会，日本看護科学学会和文誌の専任査読委員，さらに，厚生労働省「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築支援事業」の広域アドバイザーを務めた。

石井は，自治医科大学看護学ジャーナルの査読者を務め，投稿論文1件の査読を行った。また，Frontiers in Psychology: Organizational Psychologyの査読者を務め，投稿論文1件の査読を行った。また，2019年日本教師学学会第20回大会・分科会C「アクションリサーチ授業づくり・授業デザイン」において座長を務めた。

本看護学部で取り組んでいる「地域ケアスキルトレーニング」については，半澤は科目責任者，富川は担当者として，eラーニングによる「高齢者看護：認知症」の科目をベーシック・プログラムおよびフォローアップ・プログラムとして実施し，評価を行った。また，看護師本学特定行為研修センターの特定行為区分別科目「精神および神経症状に係る薬物投与関連」において，永井と石井は指導補助として，指導を担当している。

その他各教員が，国内外の学会での発表，学内外の学術雑誌への論文掲載および査読などを担当している。また，永井を中心に発足して12年目を迎えた北関東精神保健看護研究会は，年2回の研究会を継続しており，栃木県のみならず北関東の精神科看護職者の情報交換，現場の問題解決の知恵を共有する貴重な機会となっている。

母性看護学

教授 成田 伸

1. スタッフの紹介

教授 成田 伸

教授 野々山未希子（2020年3月31日退職）

准教授 角川 志穂

講師 望月 明見

助教 北守 美佳（2020年3月31日退職）

助教 二宮 美由紀（2020年3月31日退職）

助教 上野 知奈（2019年12月1日就任）

取得資格：看護師、保健師、助産師

学歴：長野県伊那北高等学校卒業、神奈川県立保健福祉大学卒業、名古屋市立大学大学院看護学研究科博士前期課程助産学分野実践コース（助産師国家試験受験資格コース）修了

職歴：日本赤十字社医療センター・秦野赤十字病院・那須赤十字病院で助産師として勤務、宇都宮市子ども発達センター（非常勤嘱託員保健師）、自治医科大学看護学部臨時教員（母性看護学）

2. 教育の概要

1）母性看護学に関する教育概要

(1)生涯発達看護学概論Ⅰ（周産期）（1年次後学期2単位：必修）

成田が担当し、助教の協力を得て実施した。母性看護学の基本概念、母親になっていくプロセス、生殖医療と倫理・法的な問題などを講義した。

(2)周産期実践看護学Ⅰ（2年次後学期1単位：必修）

望月が科目責任として総括し、成田、野々山、角川、北守、二宮、上野が協力し実施した。子育ての実際に関する学生のイメージ化を図るため乳児と母親に教育支援者として協力してもらい、学生と交流することで効果的な学習ができた。妊婦・産婦のアセスメントには、臨床スタッフや地域助産師に教育支援者として協力してもらい、学生が十分な指導を得られるようにした。

(3)周産期実践看護学Ⅱ（2年次後学期1単位：必修）

望月が科目責任として総括し、成田、野々山、角川、北守、二宮、上野が協力し実施した。妊娠・分娩及び新生児のアセスメントについては、臨床

スタッフや地域助産師も教育支援者として加わり指導した。周産期看護実習につながる看護過程については、望月が中心となって実習時の展開を意識した書式の修正と褥婦・新生児の事例を作成したうえで、講義、アセスメントや看護技術の演習、事例展開の演習が連動するように関連させて展開した。

(4)生涯発達看護学概論Ⅵ（4年次前学期1単位：必修）

野々山が科目責任者として担当した。リプロダクティブヘルス・ライツの概念、思春期・性成熟期・更年期各期の健康問題と看護、避妊・性感染症予防、不妊の看護などを講義した。

(5)周産期看護実習（3年次前学期2単位：必修）

成田が科目責任者となり、野々山、角川、望月、二宮、北守と臨時教員の上野が分担して担当した。自治医科大学附属病院、さいたま医療センターそれぞれの産科病棟・産科外来等で実習すると共に、栃木県助産師会が下野市で実施している地域育児支援の活動に参加し、効果的な実習を展開できた。

2）助産学に関する教育概要

(1)助産学概論（3年次後学期1単位：選択）

新カリキュラムでの開講となる。受講希望の学生は受講可能で、14名の学生が受講した。成田が科目責任者として総括し、野々山の協力を得て、実施し、14名の学生が受講した。助産師の概念、助産師活動の概要、助産師の国際活動、海外の母子保健、性と生殖の健康と人権、助産に係る生命倫理などを教授した。人権や生命倫理に関しては、事例に基づき意見交換を行うことで、学生が支援方法を考えることができた。

(2)実践助産学Ⅰ（4年次前学期1単位：選択）

助産学実習受講予定の学生7人に開講し、角川が科目責任者として総括し、二宮、北守と一緒に講義・演習を展開した。

(3)実践助産学Ⅱ（4年次前学期1単位：選択）

助産学実習受講予定の学生7人に開講し、角川が科目責任者として総括し、野々山、望月、二宮、北守と臨時教員の上野と一緒に講義・演習を展開した。分娩介助の演習については、学生が実習予定の施設の臨床指導者に来学いただき、具体的な指導を展開してもらった。

(4)実践助産学Ⅲ（4年次前学期1単位：選択）

助産学実習受講予定の学生7人に開講し、角川

が科目責任者として総括し、二宮、北守、臨時教員の上野と一緒に講義・演習を展開した。

(5)実践地域助産学（4年次前学期1単位：選択）

助産学実習受講予定の学生7人に開講し、成田が科目責任者として総括し、地域における助産師の母子保健活動、産褥期の健康教育・保健指導について教授した。地域で活動する助産師講義も入れることで、様々な場での助産師活動について学ぶことができた。

(6)助産管理学（4年次前学期1単位：選択）

助産学実習受講予定の学生7人に開講し、野々山が科目責任者として総括し、助産師の活動に関わる管理の概念と活動、災害時の役割、助産業務と医療事故などについて教授した。

(7)助産学実習（4年次後学期8単位：選択）

助産学生7名が受講したが、修了は6名であった。成田が科目責任者として総括した。自治医科大学附属病院は学生3名で開始し、主に成田、野々山とTAとして井野が、さいたま医療センターは学生2名で開始し、主に二宮、成田が、済生会は学生2名で開始し、主に角川と北守と臨時教員の上野が担当した。分娩期の対象者を受持ち、ケアを展開し、必要な分娩介助件数を達成し、継続ケースのケアを展開した。

3) 母性看護学・助産学以外の担当教育概要

(1)看護基礎セミナー（1年次前学期1単位：必修）

野々山、角川が分担者としてそれぞれのグループを担当し、レポート作成を指導した。

(2)文献講読セミナー（2年次前学期1単位：必修）

望月が分担者として1グループを担当し、レポート作成を指導した。

(3)研究セミナー（3年次後学期1単位：必修）

野々山が科目責任者として総括し、角川、二宮、北守の協力を得て実施した。看護実践に基づく研究動機および実践課題、キーワードの選択と文献の整理、研究の問いと研究背景の整理について教授し、グループ演習による意見交換を行いながら展開した。

(4)総合実習（4年次前学期2単位：必修）・看護総合セミナー（4年次後学期4単位：必修）

成田、野々山、角川、望月、二宮、北守で母性看護学領域に配置された学生14名を担当し、総合実習でテーマとした内容についてレポートを作成した。フィールドとして、附属病院産科病棟お

よびNICU、附属さいたま医療センター産科病棟、大野医院を使用し、栃木県助産師会の協力を得た。

(5)看護トピックス（4年次後学期1単位：必修）

角川が全体調整を担当し、母性看護学教員、TA、臨床助教の協力を得て実施した。日本版新生児蘇生法Bコースの公認コースなどを開催し、最新知識を教授した。

(6)看護管理学（4年次前学期2単位：必修）

成田が科目責任者として担当し、福田講師、非常勤講師の協力を得て実施した。特に非常勤講師は、附属病院及びさいたま医療センター看護部長、医療情報部担当看護部長、キャリア支援センター担当師長等、看護・病院管理の最前線で活躍する方々であり、充実した内容であった。

(7)ジェンダー論（1、4年次後学期2単位：選択）

成田が科目責任者として担当し、非常勤講師の白井氏の協力も得て実施し、51名が受講した。ジェンダーにかかわる多様な社会問題を課題として取り上げ展開した。

3. 研究の概要

1) 成田は、文部科学省科学研究補助金（基盤C）による研究課題「助産外来を活用した妊娠糖尿病女性への妊娠分娩産褥期の継続的な支援の介入評価研究」の研究代表者として参加し、同研究を実施した。研究分担者は望月

で、研究協力者として、松原まなみ、川口弥恵子（元聖マリア学院大学）、富山大学笹野京子、松井弘美、大阪府立大学山田加奈子、獨協医科大学出井陽子の協力を得て実施した。

2) 望月は、文部科学省科学研究補助金（挑戦的研究（萌芽））による研究課題「出所後に子育てが必要な女子受刑者への刑務所内支援モデルの開発」の研究代表者として参加し、同研究を実施した。研究分担者は、自治医科大学田村敦子、国際医療福祉大学小池純子、自治医科大学成田伸、連携研究者は、筑波大学大谷保和、筑波大学森田展彰であった。

3) 野々山は、厚生労働科学研究費による新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業、「性感染症に関する特定感染症予防指針に基づく対策の推進に関する研究（H30-新興行政一般-004）」（研究代表者：愛知医科大学 三嶋廣繁）に、研究協力者として参加し、「STI予防教育（中高生対称）の標準化と自治体を

通じた医療、教育への情報提供強化」研究を実施した。

- 4) 望月は、文部科学省科学研究補助金（基盤研究(C)（一般）肝移植後の思春期患者に向けた他職種連携による自立支援プログラムの構築（研究代表者：自治医科大学田村敦子）に研究分担者として参加し、同研究を実施した。
- 5) 望月は、国立研究開発法人日本医療研究開発機構の「刑の一部執行猶予制度下における薬物依存者の地域支援に関する政策研究」（研究代表者：国立精神・神経医療研究センター病院松本俊彦）の研究プロジェクトの一部として行われている「更生保護施設における薬物問題のある者の回復過程とその支援に関する研究」（研究代表者：筑波大学森田展彰）に研究分担者として参加し、同研究を実施した。

4. その他

- 1) 成田は、群馬大学大学院において「ハイリスク状態にある女性への援助とケアシステム」について教授した。
- 2) 角川は、インドネシアから来学した周産期医療関係者に対して、日本の周産期医療・保健の状況について講義を行った。
- 3) 野々山は、母子保健研修センター助産師学校1年課程において、助産診断・技術学「性感染症」について教授した。
- 4) 野々山は、上尾看護専門学校において、成人看護援助論Ⅱ「HIV感染症／AIDSの看護」「STIとその予防」について教授した。
- 5) 野々山は、埼玉県看護協会主催、埼玉県専任教員養成講習会において、専門領域別看護論「母性看護学」について教授した。
- 6) 成田は、第21回日本母性看護学会学術集会において、戦略的プロジェクト担当理事として、プレコングレス「周産期の糖代謝異常の考え方と対応」を企画し、講師を務めた。
- 7) 成田は、日本母性看護学会戦略的プロジェクト担当理事として、日本母性看護学会が主催する周産期・育児期の糖代謝異常に強い看護職育成セミナーを企画・運営し、講師も担当した。
- 8) 成田は、第60回日本母性衛生学会総会・学術集会において、一般演題「女性を取り巻く社会問題」の座長を務めた。

- 9) 成田は、第60回日本母性衛生学会総会・学術集会シンポジウム5「妊娠糖尿病妊婦のケア」シンポジストの一人として「妊娠糖尿病女性への助産師のかかわりと連携」を講演予定だったが台風接近で2日目開催が延期、2020年1月24日～3月31日web公開された。
- 10) 野々山は、第32回日本性感染症学会学術大会において、シンポジウム「性感染症に関する特定感染症予防指針に基づく対策の推進に関する研究班（三鴨班）の報告」を企画し、発表を行った。
- 11) 野々山は、第32回日本性感染症学会学術大会において、「認定士と性感染症予防活動に関わる人の会」の企画・運営を務めた。
- 12) 成田は、日本母性衛生学会誌編集委員会の査読委員を務め、査読を行った。
- 13) 角川は、日本母性看護学会会誌「日本母性看護学会誌」の専任査読委員を務め、査読を行った。
- 14) 角川は、日本母性衛生学会会誌「母性衛生」の査読委員を務め、査読を行った。
- 15) 角川は、栃木県母性衛生学会編集委員長を務め、学会誌の編集を行った。
- 16) 成田は、第60回日本母性衛生学会総会・学術集会の査読委員を務め、査読を行った。
- 17) 成田は、第21回日本母性看護学会学術集会の査読委員を務め、査読を行った。
- 18) 成田は、第14回ルーラルナース学会学術集会の査読委員を務め、査読を行った。
- 19) 野々山は、第32回日本性感染症学会学術大会において、査読を行った。
- 20) 角川は、第60回日本母性衛生学会総会・学術集会の査読委員を務め、査読を行った。

小児看護学

教授 横山 由美

1. スタッフの紹介

教授 横山 由美

講師 田村 敦子

助教 小西 克恵

助教 飯島 早絵（2019年4月1日就任）

取得資格：看護師，保健師

学歴：自治医科大学大学院看護学研究科博士
前期課程

職歴：自治医科大学附属病院看護師

2. 教育の概要

1) 小児看護学に関する教育概要

- (1)生涯発達看護学概論Ⅱ（小児期）（1年次後学期2単位：必修）小児看護学の基本概念，成長・発達，倫理，制度などを学習する。

横山が科目責任者として総括し，田村，小西が分担して実施した。

- (2)小児実践看護学Ⅰ（2年次前学期2単位：必修）子どもの健康状態の維持・増進するための援助および日常生活的な健康問題に対する援助を学習する。

横山が科目責任者として担当し，小西が分担して実施した。また，臨床教授の朝野が2時間講義を担当した。

- (3)小児実践看護学Ⅱ（2年次後学期2単位必修）小児期看護実習につながる小児特有の疾患やその看護ケアについて学習する。

田村が科目責任者として総括し，講義は横山が分担して実施した。演習は，横山，田村，小西，飯島で実施した。非常勤講師として精神医学阿部，医学部小児科学小高が2時間ずつ講義を担当した。

- (4)小児実践看護学Ⅲ（3年次前学期2単位：必修）

小児期看護実習につながる小児期特有の疾患とその看護ケアおよび継続看護，看護過程の展開などを学習する。

田村が科目責任として総括し，講義は横山が分担して実施した。演習は，横山，田村，小西，飯島で実施した。非常勤講師として，医学部小児外科学小野，小児科学村松が2時間ずつ，移植外科学真田が1時間の講義を担当した。

- (5)小児期看護実習（3年次前学期2単位：必修）健

康課題をもつ子どもと親・家族を理解し，看護の展開を学ぶ。

横山が科目責任者として総括した。田村，小西，飯島，堀田（臨時教員）が担当した。

2) 小児看護学以外の担当教育概要

- (1)看護基礎セミナー（1年次前学期1単位：必修）

小西，飯島が分担者としてグループを担当し，レポート作成を指導した。

- (2)文献講読セミナー（2年次前学期1単位：必修）

田村が分担者としてグループを担当した。

- (3)看護総合セミナー（4年次通年4単位：必修）

横山，田村，小西，飯島で小児看護学領域に配置された学生10名を指導した。

- (4)総合実習（4年次前学期2単位：必修）

横山，田村，小西，飯島で小児看護学領域に配置された学生10名を指導した。フィールドとして，自治医科大学とちぎ子ども医療センター2A病棟，3A病棟，4A病棟，PICU，小児外来を使用した。

- (5)看護トピックス（4年次後学期1単位:必修）

【小児看護学】では田村が統括し，本学附属病院看護部大海佳子，尾沼恵梨香が一部講義を担当した。

3. 研究の概要

- 1) 横山は，厚生労働行政推進調査事業費（政策科学総合研究事業（政策科学推進研究事業）），「学校の療養生活の場における医療的ケア児への質の高い医療的ケアの提供に資する研究」に分担研究者として参加し，同研究を実施した。研究協力者は，本看護学部教員小西，飯島，本学附属病院看護部大海佳子，大阪大学福井小紀子，あすか山訪問看護ステーション田中道子であった。

- 2) 横山は，厚生労働行政推進調査事業費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）による研究課題，「保健師助産師看護師国家試験における現状の評価及び出題形式等の改善に関する研究」（研究代表者：聖路加国際大学 林直子）に，分担研究者として参加し，同研究を実施した。研究協力者は東京女子医科大学小川久貴子，帝京平成大学佐山理絵，本看護学部教員小西，飯島であった。

- 3) 田村は，文部科学省研究補助金（基盤研究

(C)による研究課題「肝移植後の思春期患者に向けた多職種連携による自立支援プログラムの構築」の研究代表者として参加し、同研究を実施した。研究分担者は、本看護学部教員望月、本医学部教員眞田幸弘、埼玉県立小児医療センター水田耕一であった。研究協力者は、本学附属病院看護部朝野春美、大海佳子、大畑紀恵、黒田光恵、藤原エリ、吉田幸世、本学附属病院薬剤部大垣景子、東京家政大学及川郁子、聖路加看護大学大学院手塚園江であった。

- 4) 田村は、文部科学省科学研究補助金（基盤研究(B)）による研究課題、「発達の移行を基盤とした小児慢性特定疾病患者への自立支援型移行ケア開発と評価」（研究代表者:聖路加国際大学 小林京子）に、分担研究者として参加し、同研究を実施した。
- 5) 田村は、文部科学省科学研究補助金（挑戦的研究（萌芽）「子育てが必要な女子受刑者の養育実態とその支援に向けた基礎研究」（研究代表者:望月明見）に、分担研究者として参加し、同研究を実施した。

4. その他

- 1) 横山と小西、飯島は足利市立梁田小学校、足利市矢場川小学校の学校保健委員会で児童、生徒を対象に健康教育を行った。
- 2) 横山、田村、小西、飯島は自治医科大学周産期総合医療センターNICUで、退院後の育児、相談や親同士の交流を目的に月1回行っている「すくすくクラブ」の会誌の原稿執筆を行った。
- 3) 横山は、日本小児看護学会誌専任査読者を務めた。
- 4) 横山は、自治医科大学看護学ジャーナルの査読委員を務めた。
- 5) 横山は、日本小児看護学会第29回学術集会において、学会発表抄録の査読委員を務めた。
- 6) 横山は、平成29年度厚生労働科学研究（健やか次世代育成総合研究事業）の研究助成の審査員を担当した。
- 7) 横山は、第10回日本小児心身医学会関東甲信越地方会において、一般演題の座長を務めた。
- 8) 田村は、第15回日本移植・再生医療看護学会学術集会において、一般演題の座長を務めた。

成人看護学

教授 村上 礼子

1. スタッフの紹介

教授 村上 礼子

准教授 佐藤 幹代

准教授 長谷川 直人

講師 古島 幸江

助教 佐々木 彩加

助教 渡邊 賢治

助教 谷島 晴香（2019年4月1日就任）

取得資格：看護師 保健師

学歴：自治医科大学看護学部卒業

職歴：自治医科大学附属さいたま医療センター（看護師）

2. 教育の概要

成人看護学の教育目標は、成人期にある対象の生活と健康課題の理解に基づき、健康危機あるいは長期療養を要する機能障害をもつ成人とその家族に必要な看護を創造するための基礎的能力を培うことである。

1) 成人看護学に関する教育概要

村上が学科目責任者として科目全体を統括した。

(1)生涯発達看護学概論Ⅲ（成人期）（1年次後学期2単位：必修）

村上が科目責任者として統括し、村上が12時間、佐藤が8時間、長谷川が8時間の講義を担当した。

(2)成人実践看護学Ⅰ（2年次前学期2単位：必修）

村上が科目責任者として統括し、村上が4時間、佐藤が6時間、長谷川が6時間、古島が8時間、佐々木が4時間の講義を担当した。

(3)成人実践看護学Ⅱ（2年次後学期1単位：必修）

佐藤が科目責任者として統括し、古島が10時間、佐々木が4時間の講義を担当した。演習14時間は、成人看護学全教員が担当し、主企画担当として、佐藤（看護過程8時間）、佐々木（呼吸機能障害2時間）、渡邊（手術療法2時間）、谷島・古島（循環機能障害2時間）が展開した。

(4)成人実践看護学Ⅲ（2年次後学期1単位：必修）

長谷川が科目責任者として統括し、佐藤が6時間、長谷川が6時間の講義を担当した。演習2時間は、長谷川（内部環境調節機能障害2時間）が企画し、成人看護学全教員が担当した。

(5)成人実践看護学Ⅳ（2年次後学期1単位：必修）

長谷川が科目責任者として統括し、長谷川が2時間、佐々木が4時間、渡邊が8時間の講義を担当した。演習14時間は、成人看護学全教員が担当し、主企画担当として、長谷川（看護過程10時間）、佐々木（感覚機能障害2時間）、渡邊（運動機能障害2時間）が展開した。

(6)成人期継続療養看護実習（2年次後学期2単位：必修）

長谷川が科目責任者として統括し、佐藤、長谷川、古島、佐々木、渡邊、谷島が2クール（4週間）を担当した。また、村上の統括の下で、直井智江非常勤職員と甲賀優貴非常勤職員が各1クール（2週間）を担当した。

(7)成人期健康危機看護実習（3年次前学期2単位：必修）

村上が科目責任者として統括し、佐藤、長谷川、谷島が3クール（6週間）、古島、佐々木、渡邊が2クール（4週間）を担当した。

(8)成人期長期療養看護実習（3年次前学期2単位：必修）

佐藤が科目責任者として統括し、古島、佐々木、渡邊が3クール（6週間）、佐藤、長谷川、谷島が2クール（4週間）を担当した。

2) 成人看護学以外の担当教育概要

(1)看護基礎セミナー（1年次前学期1単位：必修）

長谷川、佐々木、渡邊、谷島がグループ別セミナーを担当した。

(2)文献講読セミナー（2年次前学期1単位：必修）

佐藤が科目責任者として統括し、佐藤が6時間、古島が2時間の講義、およびそれぞれがグループ別セミナーを担当した。

(3)看護総合セミナー（4年次通年4単位：必修）

村上が統括し、成人看護学全教員が学生19名を指導した。

(4)総合実習（4年次前学期2単位：必修）

村上が統括し、成人看護学全教員が学生19名

を指導した。

(5)看護トピックス（4年次後学期1単位：必修）

古島が成人看護学のトピックスの統括と企画者として2時間の講義を担当し、佐々木が補佐した。

(6)チーム医療論（2年次後学期1単位：必修）

村上が科目責任者として統括し、村上が7時間、佐藤が4時間、渡邊が2時間、谷島が1時間の講義を担当した。

(7)へき地の生活と看護（1～4年次後学期1単位：選択）

古島、佐々木がグループ別指導を担当した。

3. 研究の概要

- 1) 村上は、文部科学省科学研究補助金（基盤型研究(C)）による研究課題「特定行為研修修了看護師がチーム医療の中で機能する組織体制づくりの支援に関する研究」の研究代表者として参加し、同研究を実施した。分担研究者は、八木、鈴木、川上、本学医学部教員浅田義和であった。
- 2) 村上は、厚生労働省科学研究補助金事業（地域医療基盤開発推進研究事業）による研究課題「へき地医療の向上のための医師の働き方及びチーム医療の推進に係る研究」（研究代表者：小谷和彦）に、研究協力者として参加し、同研究を実施した。
- 3) 村上は、厚生労働省委託事業「看護師の特定行為研修に係る実態調査・分析事業（看護師の特定行為研修における指導者育成、指導者リーダー育成支援）」に、委員として参加し、同研究を実施した。
- 4) 村上は、厚生労働省委託事業「看護師の特定行為研修に係る実態調査・分析事業（看護師特定行為研修の特定行為の到達目標の作成）」に、委員として参加し、同研究を実施した。
- 5) 佐藤は、文部科学省科学研究補助金（基盤型研究(C)）による研究課題「看護基礎教育における糖尿病の【語り】をいかしたセルフマネジメント支援教材の開発」（研究代表者：聖路加国際大学 高橋奈津子）の研究分担者として参加し、同研究を実施した。
- 6) 佐藤は、日本社会事業大学 共同研究費による研究課題「慢性疼痛におけるヘルス・ライ

フ・リテラシー概念構築に関する研究」（研究代表者：日本社会事業大学 小原真知子）の研究分担者として参加し、同研究を実施した。

- 7) 長谷川は、文部科学省科学研究費補助金（基盤研究(B)）による研究課題「慢性看護学領域で構築された理論の概念・立言・理論分析および経験的検証、仮説検証」（研究代表者：日本赤十字北海道看護大学 河口てる子）に、研究協力者として参加し、同研究を実施した。
- 8) 古島は、文部科学省科学研究費助成事業挑戦的研究（萌芽）による研究課題「術後ドレーン排液の色指標の創出とその臨床応用を目指した挑戦的取組み」（研究代表者：慈恵会医科大学 中村美鈴）に、分担研究者として参加し、同研究を実施した。
- 9) 佐々木は、文部科学省科学研究費助成事業（若手研究(B)）による研究課題「看護学生におけるレジリエンスと脳腸相関との関連性について」の研究代表者として参加し、同研究を実施した。
- 10) 佐々木は、文部科学省科学研究費助成事業挑戦的研究（萌芽）による研究課題「術後ドレーン排液の色指標の創出とその臨床応用を目指した挑戦的取組み」（研究代表者：慈恵会医科大学 中村美鈴）に、分担研究者として参加し、同研究を実施した。
- 11) 渡邊は、文部科学省科学研究費補助金（基盤研究(A)）による研究課題「市民と専門職で協働する日本型対話促進ACP介入モデルの構築とエビデンスの確立」（研究代表者：東京女子医科大学 長江弘子）の研究分担者として参加し、同研究を実施した。
- 12) 渡邊は、文部科学省科学研究費補助金（基盤研究(B)）による研究課題「「独り暮らし」高齢者の在宅死を可能にする訪問看護モデルの有効性の検証」（研究代表者：関西医科大学 水野敏子）の研究分担者として参加し、同研究を実施した。
- 13) 渡邊は、文部科学省学術研究助成基金助成金（基盤研究(C)）による研究課題「中堅看護師の臨床判断を強化する患者アウトカム評価ツールの作成」（研究代表者：東邦大学 高橋良幸）の研究分担者として参加し、同研究を実施した。

- 14) 長谷川は、自治医科大学看護学部教員共同研究費による研究課題「周術期患者への看護実践モデルの開発—臨床と教育の視点を融合した看護実践（自治）モデルの構築—」の研究代表者として参加し、同研究を実施した。研究分担者は古島、村上、佐藤、佐々木、渡邊、谷島、自治医科大学附属病院看護部 小林真穂、福田怜加、筒井咲頼、古内三基子、軽部真粧美、福田佳代子、野口康子、檜山美奈子、荒井泉、宿村香織であった。
- 15) 渡邊は、自治医科大学看護学部教員共同研究費による研究課題「看護学生の自己決定型学習を促進する学習環境の構築」の研究代表者として参加し、同研究を実施した。研究分担者は石井、江角、鹿野、古島、望月、八木であった。

4. その他

- 1) 村上是、地方独立行政法人新小山市民病院の看護師を対象に、院内研究5編の指導ならびに、研究指導の講演を行った。
- 2) 村上是、日本プライマリ・ケア連合学会の査読委員を務めた。
- 3) 村上是、日本遠隔医療学会学術集会2019の学会発表抄録の査読を行った。
- 4) 村上是、日本プライマリ・ケア連合学会学術集会の学会発表抄録の査読を行った。
- 5) 村上是、日本看護研究学会第45回学術集会の学会発表抄録の査読を行った。
- 6) 村上是、①栃木県看護協会主催の県委託事業である「看護師の特定行為研修制度周知に関する研修」、②北海道看護協会主催の「2019年度 看護師の特定行為研修に係る意見交換会」、③第5回JCHO地域医療総合医学会の「シンポジウム 特定行為研修の効果及び省令改正（研修プログラム改正）について」において講演を行った。
- 7) 村上是、全日本病院協会主催の「看護師特定行為研修指導者リーダー養成研修会（2019年6月23日、10月20日）」において、講師を務めた。
- 8) 村上是、株式会社大塚製薬工場主催の「座談会 地域医療と看護師の特定行為」において、座長を務めた。
- 9) 村上是、一般社団法人日本集中治療医学会の研究倫理委員会、および一般社団法人日本看護研究学会の評議員を務めた。
- 10) 村上是、公益社団法人日本看護協会の特定行為研修制度の普及促進に関する委員会において、委員を務めた。
- 11) 佐藤は、自治医科大学看護学ジャーナルの査読者を務めた。
- 12) 佐藤は、公益法人日本看護協会第49回日本看護学会慢性期看護の論文選考委員を務めた。
- 13) 佐藤は、日本保健医療社会学会第45回大会の事務局長を務めた。
- 14) 佐藤は、日本保健医療社会学会の研究活動委員、および編集委員を務めた。
- 15) 佐藤は、認定NPO法人 健康と病いの語り ディベックス・ジャパンの運営委員を務めた。
- 16) 長谷川は、日本糖尿病教育・看護学会の専任査読者を務めた。
- 17) 長谷川は、日本糖尿病教育・看護学会第24回学術集会の学会発表抄録の査読を行った。
- 18) 長谷川は、公益社団法人日本看護科学学会の若手研究者活動推進委員会委員を務めた。
- 19) 古島は、日本手術看護学会の専任査読者を務めた。
- 20) 古島は、日本手術看護学会第33回年次大会「トピックスⅤ」において、講演を行った。
- 21) 古島は、日本手術学会第57回中国地区総会において、看護研究講評を行った。
- 22) 古島は、公益社団法人日本看護協会の基準カリキュラム検討ワーキンググループにおいて、委員を務めた。
- 23) 古島は、日本手術看護学会において①学会認定制度委員会の委員長、②学会あり方委員会の委員、③指名理事および評議員を務めた。
- 24) 古島は、東京女子医科大学看護学部認定看護師教育センターにおいて、非常勤講師を務めた。
- 25) 古島は、第42回日本手術医学会総会のプログラム委員を務めた。
- 26) 佐藤、古島、佐々木は、公益社団法人栃木県看護協会の県委託事業・実習指導者講習会「実習指導の評価」において講師を務めた。

老年看護学

教授 上野 まり

1. スタッフの紹介

教授 上野 まり（2019年4月1日就任）

取得資格：保健師・看護師・介護支援専門員

学歴：博士（看護学）

千葉大学看護学研究科

職歴：東京都済生会中央病院（看護師）

湘南訪問看護ステーション（管理者）

日本看護協会職員，日本訪問看護財団
事業部長を経験。

教育歴：千葉大学看護学部（講師）

神奈川県立保健福祉大学（准教授）

湘南医療大学（教授）

千葉大学（特任教授）

准教授 浜端 賢次

准教授 川上 勝

講師 清水みどり（2020年3月31日退職）

2. 教育の概要

1) 老年看護学に関する教育概要

(1)生涯発達看護学概論Ⅳ（老年期）

（1年次後期2単位：必修）

高齢者看護学の概念及び歴史，高齢期にある人の身体的・精神的・社会的側面の特徴の理解を目的とした。高齢者疑似体験や高齢期にある人のライフヒストリーの特徴と看護の役割についても学習できるように配慮した。また介護保険制度，訪問看護制度を中心に，高齢者を支援する社会の仕組みや制度の基本的知識も教授した。さらに，臨床の場における看護の実際が理解できるよう，非常勤講師（船田淳子氏）の講義を組み込んだ。

(2)老年実践看護学Ⅰ

（2年次前期1単位：必修）

高齢者の健康特性及び健康評価に基づき，セルフケアやヘルスプロモーションの考え方を中心に，高齢者の保健・医療・福祉の連携など，高齢者の健康増進と健康の維持向上をめざしたアプローチについて講義した。また，高齢者の家族の機能・役割，保健医療福祉施策と社会資源なども理解できるように講義を展開した。なお，非常勤講師（鮎澤みどり氏）による講義を組み込み，高齢者への在宅

医療技術や看護，高齢者を取り巻く社会資源（ICT，福祉用具等）や看護展開について教授した。

(3)老年実践看護学Ⅱ

（2年次後期2単位：必修）

加齢により生じる様々な健康段階の理解や高齢者のエンパワメントを生み出す看護援助方法について学ぶことを目的とした。高齢者の紙上事例を用いた看護過程や倫理的課題の演習等を取り入れた。また，臨床の場の看護の実際が理解できるよう，工藤清子臨床講師，太田信子臨床講師，大畑紀恵臨床講師，弘田智香臨床講師，湯沢伸子臨床講師による講義を組んだ。

(4)老年実践看護学Ⅲ

（3年次前期2単位：必修）

老年看護学の理論や知識を踏まえた看護技術の習得を目的とし，臨床実習での実践につながる摂食嚥下障害，皮膚障害，排泄・移動障害に対する看護について講義・演習を展開した。また，認知症高齢者や終末期にある高齢者への援助技術について講義した。

(5)老年臨床看護実習

（3年次前学期2単位：必修）

清水は科目責任者として全体を統括した。附属病院および介護老人施設およびグループホームにおいて，疾病や障害をもつ高齢者を対象に看護を展開した。

(6)老年在宅看護実習

上野（ま）は科目責任者として全体を統括した。県内の訪問看護ステーション12施設及び通所リハビリテーション施設2施設において，在宅療養者とその家族の支援について看護を展開した。

2) 老年看護学以外の担当教育概要

(1)看護基礎セミナー

（1年次前期2単位：必修）

浜端は科目責任者として全体を統括し，猪瀬典子助教と9名の学生を，上野（ま）は土谷ちひろ助教と8名の学生を，川上は富川明子助教と8名の学生を担当した。

(2)文献購読セミナー

（2年次前期2単位：必修）

清水は，1グループを担当した。

(3)看護総合セミナー

（4年次後期4単位：必修）

13名の学生を対象に、看護実践課題に沿った先行研究の文献検討、総合実習に向けた計画書の作成および実践に基づくレポート作成に向けた指導を行った。各教員3～4名の学生を担当した。

(4)総合実習（4年次前期2単位：必修）

13名の学生のテーマに合わせて実習場および対象者を選択し、全教員が担当し、実践内容が目的に沿うよう随時指導した。

(5)看護トピックス

川上は科目責任者として全体を統括した。7名の学生を対象として「高齢者ケアにおけるロボット技術活用の現状と課題」について学ぶ目的で、宇都宮大学工学部と連携し授業を展開した。学内においては、現状と課題、対応策について検討結果を発表し共有した。

(6)公衆衛生看護活動論

上野（ま）は、3年次学生の老年在宅実習に向けた事前の講義を一部担当した。

(7)保健医療福祉システム論

上野（ま）は、介護保険制度について1回の講義を担当した。

3. 研究の概要

- 1) 上野（ま）は、日本訪問看護財団の研究事業「発災後8年目を迎えた応急仮設住宅住民の健康生活上の課題と、住民に対する「まちの保健室」活動の効果－東日本大震災の被災地における健康支援活動を通して－」の研究代表者として参加し、同研究を実施した。研究分担者は、愛媛県訪問看護協議会副会長 安藤真知子、名取市保健センター技術主査 荒川恵子、日本訪問看護財団 山辺智子であった。
- 2) 上野（ま）は、文部科学省科学研究補助金（基盤研究（C））による研究課題「独立型訪問看護ステーション看護師による精神障害者の退院直後集中支援モデルの開発」（研究代表者：東京慈恵会医科大学 医学部看護学科 嶋澤順子）に、分担研究者として参加し、同研究を実施した。
- 3) 上野（ま）は、文部科学省科学研究補助金（基盤研究（C））による研究課題「精神障害を持つ母親の育児破綻予防を目指す育児能力

形成のための看護援助モデルの開発」（研究代表者：群馬県立県民科学大学 看護学部 大澤真奈美）に、分担研究者として参加し、同研究を実施した。

- 4) 上野（ま）は、文部科学省委託事業大学における医療人材の在り方に関する調査研究「学士課程における看護学教育の質保証に関する調査・研究」（研究代表者：千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践研究指導センター和住淑子）に、分担研究者として参加し、同研究を実施した。
- 5) 上野（ま）は、（公財）日本訪問看護財団研究助成事業による研究課題「医療的ケア児の受け入れのための出張研修の効果と課題」（研究代表者：スペシャルニーズのある子どもたちの未来を考える会TOUCH 島田珠美）に分担研究者として参加し、同研究を実施した。
- 6) 上野（ま）は、文部科学省科学研究補助金（基盤研究（C））による研究課題「地域包括ケアにおける多職種連携・協働の学習ガイドラインの開発－先駆的実践活動からの学習課題及び方法の抽出－」（研究代表者：東京医科歯科大学 医学部保健学科 本田彰子）に分担研究者として参加し、同研究を実施した。
- 7) 浜端は、文部科学省研究助成金（基盤研究（C））による研究課題「認知症高齢者地域包括ケア病棟に入院する認知症高齢者を支援する多職種専従チームの開発」の研究代表者として参加し、同研究を実施した。研究分担者は筑波大学 春田淳志、東北福祉大学 宮林幸江であった。
- 8) 浜端は、文部科学省研究助成金（基盤研究（C））による研究課題「活動量計を用いた患者の術後の身体活動の実態及びモデル構築」（研究代表者：文京学院大学 鹿原幸恵）に、分担研究者として参加し、同研究を実施した。
- 9) 浜端は、AMED：平成30年度長寿科学研究開発事業による研究課題「長期滞在型高齢者福祉施設における効率的な感染対策プログラムの開発」（研究代表者：自治医科大学医学部 笹原鉄平）に、分担研究者として参加し、同研究を実施した。共同研究者は、自治医科大学医学部 畠山修司、崔龍洙、阿江竜介であった。

- 10) 浜端は、「地域におけるケアの満足感に関する質的検討」（研究代表者：小谷和彦）に、分担研究者として参加し、同研究を実施した。
 - 11) 川上は、大学を超えた共同研究支援事業（大学コンソーシアムとちぎ）による研究課題「介護施設におけるケアの質向上を目指したビッグデータ活用の試み」の研究代表者として参加し、同研究を実施した。
 - 12) 川上は、大学を超えた共同研究支援事業（大学コンソーシアムとちぎ）による研究課題「アロマディフューザと連動した臥床状態把握システムの開発」（研究代表者：宇都宮大学 尾崎功一）に、分担研究者として参加し、同研究を実施した。
- 4. その他**
- 1) 上野（ま）は、神奈川県立保健福祉大学、亀田医療大学、千葉大学、順天堂大学大学院において非常勤講師および日本訪問看護財団研修会の講師を務めた。
 - 2) 上野（ま）は第24回日本在宅ケア学会学術集会においては、シンポジウム「災害時の在宅ケア」のシンポジストを務めた。
 - 3) 上野（ま）は日本看護協会「基準カリキュラム検討ワーキンググループ」メンバーとして、在宅ケア分野の基準カリキュラムを検討し作成に携わった。
 - 4) 上野（ま）は日本在宅ケア学会理事、千葉看護学会編集委員および代議員、日本地域看護学会編集委員および代議員、日本看護科学学会代議員を務めた。
 - 5) 上野（ま）は日本地域看護学会災害支援あり方検討委員会の委員を務めた。
 - 6) 上野（ま）は、横浜市の介護認定審査員を務めた。
 - 7) 上野（ま）は、日本在宅ケア学会学会誌「日本在宅ケア学会誌」編集委員会の査読委員を務め、投稿論文3本の査読を行った。
 - 8) 上野（ま）は、千葉看護学会学会誌「千葉看護学会誌」編集委員会の査読委員を務め、投稿論文1本の査読を行った。
 - 9) 上野（ま）は、第25回日本在宅ケア学会学術集会の学会発表抄録の査読を行った。
 - 10) 上野（ま）は、千葉看護学会第26回学術集会の学会発表抄録の査読を行った。
 - 11) 上野（ま）は、日本地域看護学会第23回学術集会の学会発表抄録の査読を行った。
 - 12) 上野（ま）は、第24回日本在宅ケア学会学術集会において、一般演題発表（ポスター）の座長を務めた。
 - 13) 上野（ま）は、千葉看護学会第25回学術集的口演発表の座長を務めた。
 - 14) 浜端は、平成31年度の1年間「生活支援体制整備事業に係る下野市第1層協議体」（下野市）において、議長を担当した。
 - 15) 浜端は、2月に「フレイル対策」（栃木県後期高齢者医療広域連合）において、講義を1時間担当した。
 - 16) 浜端は、1月～6月まで日本看護学会在宅看護学術集会において、抄録選考委員として13題の演題の査読を担当した。
 - 17) 浜端は、9月に日本看護学会在宅看護学術集会において、口頭発表の座長を担当した。
 - 18) 浜端は、11月に看護職能委員会「人生の最期を支えるために必要な倫理と看護の在り方」（栃木県看護協会主催）で、講義を2時間担当した。
 - 19) 川上は、JAかみつが厚生連 上都賀総合病院看護部職員を対象に看護研究全般について指導を行った。
 - 20) 川上は、8月に実習指導者養成講習会「実習指導の原理」（栃木県看護協会主催）において、講義を6時間、11月～12月に「実習指導者講習会 特定分野：老年」（栃木県看護協会主催）において、演習（実習指導の実際）を3日間担当した。
 - 21) 清水は、栃木県社会福祉協議会開催の「老人福祉施設介護従事者研修会」において、看護職、介護職を対象に「高齢者施設におけるターミナルケアとは」について講義・演習を行った。

大学院看護学研究科 教育の概要

実践看護学分野 「小児看護学領域」

教授 横山 由美

1. スタッフ紹介

教授 横山 由美

2. 大学院教育の概要

小児看護学は、さまざまな健康状態にある子どもがよりよく育つことを目的に、子どもとその家族への看護の現状と将来的な展望を踏まえ、専門的な知識や研究課題を探究するとともに、高度な看護実践能力を育み、小児看護の充実と発展に寄与する人材の育成を教育目標としている。

平成31年度は、博士前期課程では、専門看護師過程1年次1名、2年次2名の教育を行った。博士後期課程では3年次2名、年次1名の教育を行った。

1) 小児看護学講義Ⅰ（1年次前期2単位）

子どもを理解するために、成長発達、生活、社会的・歴史的側面から、主要な看護理論や最近の知見について学ぶ。1年次1名が履修した。

2) 小児看護学講義Ⅱ（1年次前期2単位）

子どもの健康レベルや状況に応じたケアについて考えを発展させるために、小児看護における重要な理論や最近の知見について学ぶ。1年次1名が履修した。

3) 小児看護学講義Ⅲ（1年次後期2単位）

ケアシステム、ケアマネジメント、社会資源の活用などを踏まえて、小児看護専門職として必要な機能（実践・コンサルテーション・コーディネーション・教育・倫理的問題への対処）の側面から、小児看護の現状を分析し、小児看護専門看護職の課題及び役割について理解する。1年次1名が履修した。

4) 小児看護学演習Ⅰ（1年次後期2単位）

保健医療・福祉・教育との関連において小児看護を理解し、看護の役割・活動について学ぶ。1年次1名が履修した。

5) 小児看護学演習Ⅱ（1年次後期2単位）

専門的な小児看護実践に活用できるヘルスアセスメントの能力を修得する。1年次1名が履修した。横山が科目責任者として総括し、非常勤講師の医学部教員河野、熊谷が分担者として担当した。

6) 小児看護学演習Ⅳ（2年次前期2単位）

小児期に特有な疾患の診断と治療のプロセスについて学ぶ。2年次1名が履修した。横山が科目責任者として総括し、非常講師として医学部阿部2時間、河野2時間、熊谷10時間、村松8時間、関4時間、小児看護専門看護師の黒田2時間、村山2時間が分担者として担当した。

7) 小児看護専門看護実習Ⅱ（2年次後期2単位）

高度医療の場において、発達段階各期の子ども特有の疾病の診断および治療のプロセスについて実践を通して学び、小児看護専門看護師として自立した活動を行うためにそれらを活用する能力を修得する。2年次1名が履修した。

8) 小児看護学特別演習（2年次前期4単位）

小児看護における現状を分析して課題を見出し、改善・改革の方法について明らかにする。2年次1名が履修した。横山が科目責任者として担当し、非常勤講師の戈木クレイグヒル滋子が分担者として担当した。

9) 小児看護学課題研究（2年次後期4単位）

看護実践上の課題について、取得を目指す小児看護専門看護師の役割の遂行に寄与する研究を行い、修士論文を作成する。横山が2年次2名の研究指導を行った修士論文のテーマは「出生直後より2回以上転科・転棟を余儀なくされる先天性心疾患の子どもの母親への看護実践の検討」、「医療的ケアが必要な子どもの初めての退院に向けた家族内役割調整のための看護実践」であった。

実践看護学分野 「母性看護学領域」

教授 成田 伸

1. スタッフ紹介

教 授 成田 伸

教 授 野々山 未希子（2020年3月31日退職）

准教授 角川 志穂

2. 大学院教育の概要

1) 博士前期課程専門科目に関する教育概要

令和元年度は、専門看護師教育課程を希望する1名を含め3名について2年次の教育、1名の1年次の教育を行った。

1年生の武藤香子に対しては、前期に成田が科目責任者を担当する母性看護学講義Ⅰを、角川が一部の単元を担当し、また非常勤講師による講義を実施した。また、セミナーを通じて院生が特別研究に向けての課題検討を行った。

2年生のうち、小野育代は、附属病院において母性看護専門看護実習ⅠⅡを展開し無事に修了し、受け持った事例を分析し課題研究「周産期メンタルヘルスの悪化を予防するための看護実践」を完成させた。井野さおりは、特別研究として倫理審査受審承認後、研究としてデータ収集を行い、修士論文「不育症を経験し出産に至った女性の妊娠期の体験」として完成させた。また、塚田祐子は、長期履修の2年目のため、特別研究に向けての課題検討を継続し、研究計画書を立案した。

2) 博士後期課程の教育概要

成田は、博士後期課程については、広域実践看護学特論Ⅰの科目担当者として講義を展開した。

成田は、博士後期4年目の西岡啓子、2年目の出井陽子（後期休学）について研究指導を行なった。出井は研究テーマに関連する文献検索を進めた。西岡は、倫理審査承認を得得て、データ収集を開始し、得られたデータを分析し、博士論文「生殖補助医療を受療する場における女性の体験」を作成し、最終試験に合格した。

実践看護学分野
「クリティカルケア看護学領域」

准教授 佐藤 幹代

1. スタッフの紹介

准教授 佐藤 幹代

2. 教育の概要

主として身体的な健康危機状態にある患者とその家族を全人的に捉え、苦悩・苦痛を緩和し、危機的状态からの健康の回復と生活への適応に向けて専門的に看護をするために、状況に応じた総合的な判断力と組織的な問題解決能力を備えた高度な看護実践者を育成する。

本年度は、在籍する学生はおらず開講する科目はなかった。

実践看護学分野 「精神看護学領域」

教授 半澤 節子

1. スタッフの紹介

教 授 永井 優子

教 授 半澤 節子

2. 教育の概要

精神看護学は、人間の生涯にわたる精神的健康の増進から重度の精神障害者の支援までを行う、精神看護における高度な専門職として役割を果たすことができ、実践を改革できる人材の育成を目指している。

令和元年度に専門科目の履修登録した院生は1名であり、標準の履修モデルで進行し、開講した科目は、「精神看護学特別演習」の1科目であった。

【精神看護学特別演習（2年次後期）】

精神看護学特別演習の授業目標は、院生の精神保健看護に関連する研究テーマについて、先行文献の検討をふまえて、研究計画書を作成し、倫理審査委員会に申請することである。

院生の精神保健看護に関する実践経験を振り返りながら、研究テーマを焦点化し、関連する国内外の先行文献を収集し十分な検討をした。研究目的の設定とそれを明らかにするための研究方法の吟味、先行文献で用いられている研究方法を概観しつつ、自らの研究方法を検討した。先行研究を踏まえた研究の背景、研究の目的、研究方法、倫理的課題を検討し、研究計画書を完成させ、倫理審査委員会に申請することができた。

実践看護学分野 「がん看護学領域」

による講義も行った。授業は、科目責任者は小原、他5名の非常勤講師、教育支援者1名が担当した。

教授 本田 芳香

1. スタッフの紹介

教 授 本田 芳香

教 授 小原 泉

2. 教育の概要

がん看護学領域は、平成19年度に文部科学省の「がんプロフェッショナル養成プラン」において、本学の取り組みである「全人的ながん医療の実践者養成」が採択された。本学大学院看護学研究科において、平成20年度より高度専門看護職に求められる看護実践能力の育成強化を教育課程の特徴とする実践看護分野に、がんの急性期から終末期に至る様々な健康状態にある患者とその家族に対して、看護実践を提供するための実践理論とその方法を系統的に教授するがん看護学領域を開講した。本領域ではがん看護における専門的知識や研究課題を探究するとともに、がん患者とその家族に生じる複雑な状況を的確に判断し、苦痛や苦悩を緩和し、生活の質の向上を目指した高度な看護実践のできるがん看護のスペシャリストを育成する。平成22年に専門看護師教育課程（28単位）の認定を受け、平成26年には、博士前期課程の教育課程として改編し、38単位の専門看護師教育課程の認定を受けた。

1) がん看護学に関する教育概要

令和元年度入学者はいなかった。

2) その他 看護学部教育に関連する教育概要

(1)がん看護学に関連する教育概要

がん看護学（2年次後期科目1単位：選択）の科目責任者を小原が務めた。学習目的は、対象ががんを患う意味と、生命・生活への支障・影響を理解し、対象とその家族に必要な看護を学習することである。がんの特徴やがん治療の特徴、各健康時期（診断期から終末期に至るまで）のがん患者とその家族への看護の実際、がんに伴う症状（痛み、リンパ浮腫、倦怠感等）が生活・生命に与える影響と必要な緩和ケアについて、主に講義形式で授業をすすめた。またがん体験者によるがんと共に生きる患者の生活の理解についてがん体験者

**地域看護管理学分野
「老年看護管理学領域」**

教授 上野 まり

1. スタッフの紹介

教 授 上野 まり

准教授 浜端 賢次

准教授 川上 勝

2. 大学院教育の概要

老年看護学の教育活動は、高齢者の特徴や発達課題などを踏まえ、健康課題や倫理的課題などからも老年看護管理の課題について追及する。そして、高齢者の生活や保健行動の視点から、心身機能の保持・回復に関わる専門的ケア提供体制や健康生活への支援などを検討できる人材の育成を目指している。

2019年度は、老年看護管理学の専門科目を履修登録した院生はいなかったため、開講された科目はなかった。

3. その他

次年度の院生受け入れのための準備を行った。

地域看護管理学分野 「地域看護管理学領域」

教授 春山 早苗

1. スタッフの紹介

教 授 春山 早苗

教 授 塚本 友栄

2. 教育の概要

地域看護管理学の履修者は、2年生が2名で、うち1名が長期在学制度を利用している。

地域看護管理学では、地域特性に応じた政策立案や地域資源づくり、地域ケア体制づくり、その他の地域看護管理に関わる知識や技術を教授し、地域ケアの現場において管理的・指導的役割を担い、地域のニーズに合った看護サービス提供システムを改善・改革・創出できる人材育成を目指した教育活動をしている。今年度の開講科目は「地域看護学特別演習」（4単位、春山・塚本担当）、「地域看護管理学特別研究」（6単位）であった。

【地域看護管理学特別演習】

2年生2名が履修した。文献検討、並びに、学生自身の研究テーマと関連させて、県内1市及び県外のへき地を有する2町でフィールドワークを行い、ゼミと個別指導により、研究計画を洗練した。

【老年・地域看護管理学特別研究】

春山が2年生1名の研究指導を行った。

修士論文のテーマは「統括保健師が配置されていない小規模町村における部署横断的な保健活動に関する研究」であった。

地域看護管理学分野 「看護技術開発学領域」

教授 村上 礼子

1. スタッフの紹介

教 授 村上 礼子

教 授 里光やよい

准教授 長谷川直人

講 師 福田 順子

講 師 八木 街子

2. 教育の概要

看護技術開発学の履修者は、2年生2名であった。

看護技術開発学では、地域ケア・医療現場における特定行為を含めた看護技術の安全かつ有効な開発および、特定行為研修を含めた看護技術教育に必要な知識・技術を教授し、地域ケア・医療現場において管理的・指導的役割を担い、より質の高い看護ケアや看護サービスを提供するための看護技術を開発・改善できる人材を育成する。

1) 看護技術開発学に関する教育概要

(1)看護技術開発学特別演習（2年次前期4単位：必須）

特定行為を含め看護技術開発に関する事故の研究疑問について文献や系統的レビューを行い、事項の研究課題の明確化及び研究計画を検討することを到達目標とした。2年生1名が履修した。文献検討、ならびに学生自身の研究テーマと関連させて、ゼミと個別指導により、研究計画を洗練した。2年生2名が履修し、村上が担当した。

(2)地域看護管理学特別研究（2年次後期6単位：必須）

村上が2年生1名の研究指導を行った。

修士論文のテーマは「特定行為研修修了看護師が役割獲得するまでのプロセス」であった。

地域看護管理学分野 「診療看護技術開発学領域」

教授 村上 礼子

1. スタッフの紹介

教授 村上 礼子

教授 里光やよい

准教授 長谷川直人

講師 福田 順子

講師 八木 街子

2. 教育の概要

診療看護技術管理学の履修者は、1年生1名である。

診療看護技術管理学では、地域医療や高度医療の現場における特定行為を含めた安全・安心、かつ効果的な診療看護技術の提供ならびに提供体制の構築を目的に、診療看護技術の効果的な提供体制のための改善・改革の課題抽出や、特定行為研修を含めた看護技術教育に必要な知識・技術の教授を行い、安全かつ効果的な医療・看護提供体制構築のための管理的・指導的役割を担う人材を育成する。

1) 診療看護技術管理学に関する教育概要

(1)診療看護技術管理学講義Ⅰ（1年次前学期2単位：必修）

講義Ⅰでは、特定行為を含む看護技術である診療看護技術の概念および特徴について文献検討を行いつつ、診療看護技術の安全性を高めるための開発・改善から提供システムづくりに必要な他職種・他部門との連携・調整および、在宅、介護施設、病院などでのチーム医療の在り方の理論と考え方を理解することを到達目標とした。1年生1名が履修した。村上と里光が担当した。

(2)診療看護技術管理学講義Ⅱ（1・2年次後期2単位：必須）

講義Ⅱは、保健医療福祉制度や医療政策、組織特性などを踏まえ、継続教育を視野に入れた特定行為を含む看護技術である診療看護技術の教育体制のあり方とその実際を理解することを到達目標とした。1年生1名が履修した。村上と里光が担当した。

(3)診療看護技術管理方法Ⅰ（1・2年次前期2単位：必須）

演習Ⅰでは、様々な医療現場における特定行為を含む看護技術である診療看護技術の提供体制の構築における倫理的課題、チーム医療の一員としての看護専門職としての役割について実践例や先行研究の知見から検討することを到達目標とした。1年生1名が履修した。院生の経験や興味関心の高い文献の文献検討、主に研究設計の検討を実施した。村上、里光、長谷川、八木が担当した。

(4)診療看護技術管理方法Ⅱ（1・2年次後期2単位：必須）

演習Ⅱでは、特定行為を含む看護技術である診療看護技術の安全な提供のために、地域、組織特性を踏まえて組織内の関係職種との連携・協働体制の構築方法や診療看護技術の維持・向上のための教育活動の方法について、実践事例や国内外の文献から検討することを到達目標とした。1年生1名が履修した。授業目標に関連して授業設計を立て、特定行為研修の1科目の演習・実習の一部を実施した。村上、里光、福田、八木が担当した。

(5)診療看護技術管理学演習（1・2年次後期4単位：必須）

安全かつ安心な診療看護技術の開発・改善、提供方法や、病院、介護施設、在宅などにおける他職種との連携を踏まえた看護管理活動について、実践・評価を行い、診療看護技術の医療提供システムづくりに関する改善・改革の課題を探索することを到達目標とした。1年生1名が履修した。文献検討、ならびに学生自身の研究テーマと関連させて、ゼミと個別指導により、研究計画を洗練した。村上、里光、長谷川、福田、八木が担当した。

3. 研究の概要

1) 八木は、文部科学省科学研究補助金（基盤研究(C)）による研究課題「看護職の遠隔学習における学習支援プログラムの開発」の研究代表者として参加し、同研究を実施した。研究分担者は、村上、放送大学山内豊明、熊本大学都竹茂樹、熊本大学中野裕司、熊本大学鈴木克明であった。

2) 八木は、文部科学省科学研究補助金（基盤型研究(B)）による研究課題「看護臨床アセスメントモデル構築と人工知能による深層学習に向けた学際的探索研究」（研究代表：放送大学 山内豊明）に分担研究者として参加し、同研究を実施した。

- 3) 八木は、文部科学省科学研究補助金（基盤型研究(C)）による研究課題「事前学習用eラーニングを活用した脳神経科シミュレーションプログラムの有効性の検証」（研究代表：名古屋市立大学 益田美津美）に分担研究者として参加し、同研究を実施した。
- 4) 八木は、村田学術振興財団 研究助成による研究課題「わが国の看護基礎教育課程におけるシミュレーション教育に関する実態調査」（研究代表：名古屋市立大学 益田美津美）に分担研究者として参加し、同研究を実施した。
- 5) 八木は、本学部共同研究費「看護学生の自己決定型学習を促進する学習環境の構築」（研究代表：渡邊）に分担研究者として参加し、同研究を実施した。
- 6) 八木は、首都大学東京傾斜的研究費学長裁量枠国際研究環支援「国際水準シミュレーション基盤型看護教育システムの構築と評価」（研究代表首都大学東京 織井優貴子）に分担研究者として参加し、同研究を実施した。
- 7) 八木は、清泉女学院大学共同研究費「救急隊員の病院前周産期救護に関するコンピテンシーの完全習得を目指したブレンド型学習の開発」（研究代表者清泉女学院大学 上原明子）に分担研究者として参加し、同研究を実施した。
- 7) 八木は、日本moodle協会の編集委員を務めた。

4. その他

- 1) 里光は、栃木県看護協会主催の実習指導者講習会において、「実習指導の原理」について講師を務めた。
- 2) 八木は、日本医学教育学会学会誌「医学教育」の査読委員を務め、投稿論文1本の査読を行った。
- 3) 八木は、日本ムードル協会の編集委員を務め、投稿論文1本の査読を行った。
- 4) 八木は、栃木県看護協会実習指導者講習会において、「指導案作成方法」について講師を務めた。
- 5) 八木は、厚生労働省委託事業看護教員養成講習会eラーニングコンテンツ改訂委員会委員を務めた。
- 6) 八木は、一般社団法人日本臨床救急医学会 ISLS2018検討小委員会委員を務めた。

共通科目

大学院看護学研究科幹事長 成田 伸

看護学研究科博士前期課程のカリキュラムでは、高度看護実践力の育成強化を中心に編成し、共通科目と専門科目を置いている。共通科目は、高度実践看護職として機能するために、看護学領域を超えて共通に必要な実践、教育、相談、研究、倫理、管理、並びに地域医療に関する学識を習得するために置かれている。配当年次はすべて1年次で、必修科目は「看護管理・政策論」（2単位）のみで、専門看護師教育課程共通科目の「看護管理論」「看護政策論」（各1単位）に相当する。

選択科目は全9科目（各2単位）である。専門看護師を目指す場合は、選択科目として専門看護師教育課程共通科目の「病態生理学特論」「フィジカルアセスメント特論」「臨床薬理学特論」の3科目、加えて「看護実践研究論」「コンサルテーション論」「看護倫理」「看護継続教育論」のうち3科目以上を選択して、計12単位以上を取得する必要がある。その他の選択科目として「地域調査法」「地域医療論」「Academic Writing & Oral Presentation」の4科目がある。標準モデルでの履修の場合は、選択科目の指定はなく、計8単位以上を取得する。

1. 必修科目（ ）内は科目責任者を示す

【看護管理・政策論】（春山早苗教授）

到達目標は、保健・医療・福祉システムにおいて有効に機能する看護活動や管理の組織化の方法、ならびに看護職の資質向上のための制度改革や政策決定に関する看護職の働きかけについて理解することである。保健医療福祉システムのなかで質の高いケアを提供するための高度実践看護職の機能と役割、医療チーム内の調整や関係者間の調整、管理的立場にある看護職との協働、制度改革への高度実践看護職の働きかけについて、春山と福田と非常勤講師4名で教授した。履修学生数は3名（1年生2名と科目等履修生1名）。

2. 選択科目（ ）内は科目責任者を示す

【コンサルテーション論】（永井優子教授）

到達目標は、コンサルテーションに関する理論と倫理的側面を含むコンサルテーションをめぐる問題や課題について検討し、コンサルテーション

の実際について理解することである。講義・演習およびグループ・コンサルテーション体験に基づいて、高度実践看護職が必要とする技能と役割について担当教員1名と非常勤講師1名で教授した。

履修学生数2名（1年生のみ）。

【看護倫理】（小原泉教授）

到達目標は、医療現場における生命倫理の現実的な課題と看護職の倫理的行動、および看護場面での複雑な判断を要する倫理的課題について、関係職種間の調整、提言など看護専門職の立場から果たすべき機能について理解することである。倫理的行動と倫理的責任、倫理的分析と倫理的意思決定、ケアの倫理と生命倫理のパラダイム、倫理教育について担当教員1名と非常勤講師3名で教授した。履修学生数5名（1年生3名と科目等履修生2名）。

【看護継続教育論】（本田芳香教授）

到達目標は、看護ケアの質を高めるために必要な看護職への教育的な働きかけとして、さまざまな学習形態をとる教育環境づくりの方策、基盤となる教育的かかわりの方策を理解することである。履修学生の所属組織の実際に沿った教育環境づくりの方策、教育的かかわりに関する理論などについて本田、塚本、福田の3名で教授した。履修学生数4名（1年生2名、2年生1名、科目等履修生1名）。

【Academic Writing & Oral Presentation】

（成田伸教授）

到達目標は、英文抄録の作成からプレゼンテーションまで、国際学会での研究発表に必要な知識と技術を修得することである。事前課題を提示し、課題を仕上げて参加することを促し、講義時間内では双方向のやり取りをめざしている。講義を録画しMoodleで視聴可能とし、欠席時や繰り返しでの学修支援を行った。成田、鹿野の2名で教授した。履修学生数2名（1年生、2年生1名ずつ）。

博士後期課程 広域実践看護学分野

研究科長 春山 早苗

1. スタッフの紹介

教授 大塚公一郎	教授 上野 まり
教授 小原 泉	教授 塚本 友栄
教授 永井 優子	教授 成田 伸
教授 野々山未希子	教授 春山 早苗
教授 半澤 節子	教授 本田 芳香
教授 村上 礼子	教授 横山 由美
准教授 角川 志穂	講師 鹿野 浩子

2. 教育の概要

博士後期課程の学生は、1年生1名、2年生2名、3年生7名（3年目2名、4年目1名、5年目3名、7年目1名）で、10名が長期在学制度を利用している。

博士後期課程では、ヘルスケアシステムや看護提供システムを視野に入れつつ複数の看護専門領域の視座を理解した上で、看護に関する問題の全体像と本質を捉え探究し、看護学を発展させることのできる教育研究者の育成を目指した教育活動をしている。昨年度、カリキュラムの見直しを行い、今年度から「広域実践看護学特別研究」を「広域実践看護学特別研究Ⅰ（3単位、必修）」と「広域実践看護学特別研究Ⅱ（3単位、必修）」に分けた。また、専門関連科目として新たに「言語学研究論（1単位、選択）」を設けた。

今年度の専門科目の開講科目は「広域実践看護学特論Ⅰ」（2単位、必修）、「広域実践看護学特論Ⅱ」（2単位、選択）、「広域実践看護学演習」（2単位、必修）、「広域実践看護学特別研究（旧カリ）」（6単位、必修、1～3年次）、「広域実践看護学特別研究Ⅰ」，「広域実践看護学特別研究Ⅱ」であった。専門関連科目の開講科目は「地域保健医療研究論」（2単位、選択）であった。

【広域実践看護学特論Ⅰ（ヘルスケアシステム研究法）春山・成田担当】

科目等履修生1名が履修した。

【広域実践看護学特論Ⅱ（クリニカルケア研究法）横山・小原担当】

1年生1名が履修した。

【広域実践看護学演習】

システムに関するテーマについては、1年生1名が「ヘルスケアシステム」（春山・本田担当）を、看護ケアに関するテーマについては、1年生1名が「クリニカルケア」（小原・横山担当）を選択した。

【広域実践看護学特別研究】

研究指導教員を表に示す。

博士前期課程・博士後期課程合同研究セミナーは5月、9月、1月に開催した（例年開催している11月は対象学生がおらず未開催）。博士後期課程の学生は、セミナーで毎回、特に、1月は【広域実践看護学演習】の結果も踏まえてプレゼンテーションを行い、研究課題の設定、研究対象の明確化、研究方法の検討等について、研究指導教員以外の教員にも助言を得たり、博士前期課程の学生とも討議したりできる機会とした。

3名が学位論文審査に合格し、博士論文のテーマは「中規模精神科病院における教育システムの構築方法に関する研究～中堅看護師の育成を中核においたアクションリサーチ～」，「原子力災害により余儀なく移住した被災者の生活の再構築～成人男性に焦点を当てて～」，「生殖補助医療を受療する場における女性の体験」であった。

表 研究指導教員

学年	学生	主研究指導教員	副研究指導教員
1	A	横山	成田・半澤
2	A	成田	横山・野々山
	B	春山	永井・小原
3	A	横山	本田・村上
	B	半澤	塚本・大塚
3 4年目	A	横山	大塚・春山
3 5年目	A	春山	大塚・半澤
	B	春山	横山・半澤
	C	成田	永井・本田
3 7年目	A	永井	春山・本田

【地域保健医療研究論 春山担当】

1年生1名が履修した。

研究業績録

- 注 1) 掲載対象は2019年1月1日から同年12月31日までである。
2) ゴシック体の人名は対象年に本学に所属していた者である。

看護基礎科学

(1) 論文

- 1) 安田学, 本田暁, 大塚公一郎: 犯罪歴のある統合失調症患者の滞日外国人女性の一例—治療中断の経緯からみた滞日外国人のメンタルヘルス支援の課題と提案—. *こころと文化*, 18: 75-81, 2019.
- 2) 五十嵐真由子, 倉科智行, 濱野有美子, 山下裕美子, 斎藤新介, 川田和己, 柴野智毅, 蘆澤健太郎, 高橋 学, 岡田修和, 岡田健太, 海老原 健, 西野 宏, 遠藤俊輔, 石橋 俊.: 比較的早い経過で多発肺転移を示し経過中にTIA様症状を来した副甲状腺癌の一例.: 自治医科大学紀要(1881-252X)41巻 Page53-60(2019.03)
- 3) Shikano, Hiroko & Sugisaki, Miki.: How Speakers Use “Nanka” in Quasi-Internal Monologues during Interactional Discourses. *JELS*, No.36: 282-288. 2019.
- 4) 佐々木彩加, 小原 泉, 鹿野浩子, 江角伸吾, 永井優子, 半澤節子, 成田伸, 中村美鈴, 春山早苗: 看護学生の生活行動と生活体験の関連からみた教育方略. 自治医科大学看護学ジャーナル, 第17巻: 3-8. 2019.

(2) 学会発表

- 1) 岡田剛史, 松本健二, 大塚公一郎, 塩田勝利, 小林聡幸, 須田史朗: レシピエントの腎機能廃絶を契機にうつ病を発症し, 自死に至った生体腎ドナーの一例. 第115回日本精神神経学会学術総会, 新潟, 2019年6月21日
- 2) 五十嵐真由子 (自治医科大学附属病院 内分泌代謝科), 岡田健太, 黒田百恵, 岡 聖典, 甲賀祐希子, 澤山 渚, 倉科智行, 高橋 学, 永島秀一, 海老原 健, 石橋 俊.: 抗GAD抗体, 抗IA2抗体重複陽性の劇症1型糖尿病の1例. 第56回日本糖尿病学会関東甲信越地方会, 横浜, 2019年1月26日. (糖尿病 (0021-437X) 62巻7号 Page422, 2019)
- 3) 甲賀裕希子 (自治医科大学 医学部内科学内分泌代謝学講座), 岡田健太, 五十嵐真由子, 藤田英里子, 山岡桂子, 澁谷浩史, 澤山 渚, 渡邊秀平, 黒田百恵, 海老原千尋, 倉科智行, 高橋 学, 永島秀一, 海老原 健, 石橋 俊.: 肥満度別による妊娠糖尿病の臨床的検討. 第

40回日本肥満学会学術集会, 東京, 2019年11月2-3日. (肥満研究 (1343-229X) 25巻Suppl. Page291, 2019)

- 4) 黒田百恵 (自治医科大学附属病院 内分泌代謝科), 岡田健太, 五十嵐真由子, 倉科智行, 高橋 学, 永島秀一, 海老原 健, 石橋 俊.: 5) ニボルマブにより急速にインスリン分泌の低下を確認し得た劇症1型糖尿病の1例. 第56回日本糖尿病学会関東甲信越地方会, 横浜, 2019年1月26日. (糖尿病 (0021-437X) 62巻7号 Page429, 2019)
- 6) 黒田百恵 (自治医科大学附属病院 内分泌代謝科), 倉科智行, 渡邊秀平, 岡 清典, 澤山 渚, 甲賀裕希子, 五十嵐真由子, 山下裕美子, 斎藤新介, 岡田修和, 高橋 学, 永島 秀一, 岡田健太, 海老原 健, 石橋 俊.: SITSHの精査で発見されたGH・TSH同時産生腫瘍の一例. 第29回臨床内分泌代謝Update, 高知, 2019年11月29-30日. (日本内分泌学会雑誌 (0029-0661) 95巻2号 Page715, 2019)
- 7) 岡 聖典 (自治医科大学附属病院 内分泌代謝科), 岡田健太, 渡邊秀平, 山下裕美子, 高橋 学, 倉科智行, 永島秀一, 海老原 健, 石橋 俊.: ニボルマブ投与538日目に発症した遅発性の1型糖尿病の1例.: 第56回日本糖尿病学会関東甲信越地方会, 横浜, 2019年1月26日. (糖尿病 (0021-437X) 62巻7号 Page429, 2019)
- 8) 岡田健太 (自治医科大学 内分泌代謝科), 甲賀裕希子, 五十嵐真由子, 藤田英里子, 山岡桂子, 岡 聖典, 黒田百恵, 澤山 渚, 渡邊秀平, 村上明子, 磯田雅代, 澁谷浩史, 武井暁一, 武井祥子, 浅川智香子, 竹田幸代, 山崎久隆, 倉科智行, 高橋 学, 永島秀一, 海老原 健, 石橋 俊.: 当科における妊娠糖尿病の臨床的検討. 第62回日本糖尿病学会総会, 仙台, 2019年5月23-25日. (糖尿病 (0021-437X) 62巻 Suppl.1 Page S-231, 2019)
- 9) 竹田幸代 (自治医科大学附属病院 内分泌代謝科), 岡田健太, 岡 聖典, 黒田百恵, 澤山 渚, 渡邊秀平, 甲賀裕希子, 澁谷浩史, 山岡桂子, 五十嵐真由子, 山下裕美子, 浅川智香子, 藤田英里子, 若林徹治, 海老原千尋, 斎藤奈緒子, 斎藤新介, 岡田修和, 倉科智行, 高橋 学, 永島秀一, 海老原 健, 石橋 俊.: 当院における免疫チェックポイント阻害剤による

- 内分泌学的有害事象（糖代謝関連）の臨床的特徴および診療連携に関して．第62回日本糖尿病学会総会，仙台，2019年5月23-25日．（糖尿病（0021-437X）62巻Suppl.1 Page S-184, 2019）
- 10) 渡邊秀平（自治医科大学 内科学講座内分泌代謝学部門），五十嵐真由子，倉科智行，谷口亜衣，澁谷浩史，山岡桂子，齋藤新介，岡 聖典，黒田百恵，甲賀裕希子，高橋 学，永島秀一，岡田健太，海老原 健，石橋 俊．：成人後診断されたKlinefelter症候群に下垂体卒中を合併した1例．第29回臨床内分泌代謝Update，高知，2019年11月29-30日．日本内分泌学会雑誌（0029-0661）95巻2号 Page759, 2019）
- 11) 岸 範子，亀山奏代香，島田 亨，石川千明，青山泰子，関山友子，大橋衣映，青木悠人：事業所と連携した生活習慣病予防事業の取り組み．第57回（令和元年度）栃木県公衆衛生学会，栃木，2019年9月4日
- 12) 岸 範子，亀山奏代香，青木悠人，青山泰子，関山友子：事業所と連携した生活習慣病予防事業の取り組み．日本公衆衛生学会，高知，2019年10月24日
- (3) その他
- 1) 大塚公一郎：ラカン派精神分析とオープンダイアローグの対話をもとめて．臨床精神病理 40：183-186. 2019.

基礎看護学

(1) 論文

- 1) 小原 泉, 野崎章子, 吉村健一, 森下典子, 鶴丸雅子, 谷口隆雄, 遠藤一司, 後澤乃扶子, 笠井宏委, 山本晴子, 楠岡英雄: 臨床研究コーディネーターの熟達度評価尺度の開発, 臨床薬理, 50(5); 221-227, 2019.

(2) 学会発表

- 1) Nosaki A, Moriuchi K, Kohara I: Describing the Characteristics and Scope of Nursing Practice in the Psychiatric Department of Special Functioning Hospitals in Japan - Research Protocol. 19th WPA (World Psychiatric Association) World Congress of Psychiatry, Lisbon, 21-24, August. 2019.
- 2) 小原 泉, 宋 菜緒子, 片木美穂, 田代志門, 吉村健一, 田原 信, 中濱洋子, 伊藤美樹, 後澤乃扶子, 高橋俊二, 西尾誠人, 藤田崇史, 藤井博文, 藤原寛行, 本田芳香: がん臨床試験理解度評価尺度の開発, 第17回日本臨床腫瘍学会学術集会, 京都, 2019年7月18日.
- 3) 野崎章子, 森内加奈恵, 小原 泉: 特定機能病院精神科病棟における看護実践状況に関する横断的研究, 第39回日本看護科学学会学術集会, 石川, 2019年12月1日.
- 4) 福田順子, 本田芳香, 湯山美杉: 終末期がん患者の在宅看取りケアに関する多職種コーディネート・スキルの概念化. 第39回日本看護科学学会学術集会, 石川, 2019年12月1日 (日本看護科学学会 第39回学術集会抄録集: O36-03)

(3) 著書・総説

- 1) 小原 泉: わが国のCRC育成の現状と課題, 薬理と治療, 47 (9) :1360-1362, 2019.

(4) 資料

- 1) 佐々木彩加, 小原 泉, 鹿野浩子, 江角伸吾, 永井優子, 半澤節子, 成田 伸, 中村美鈴, 春山早苗: 看護学生の生活体験の特徴からみた教育戦略, 自治医科大学看護学ジャーナル, 17; 3-8, 2019.

(5) その他

- 1) 小原 泉: CRCのためのマネジメントスキル-人材の育成と活用のための取り組み, 日本臨床腫瘍学会・日本臨床試験学会共催: 第7回がん専門CRCのためのアドバンストセミナー, 京都, 2019年7月20日.

地域看護学

(1) 論文

- 1) Manabe T, Sawada T, Kojo T, Iguchi S, **Haruyama S**, Maeda T, Kotani K(2019) : Perception of Residents among Rural Communities with Medical Group Practice in Japan. *Int. J. Environ. Res. Public Health*, 16, 5124. doi : 10.3390/ijerph16245124
- 2) 本田芳香, 大塚公一郎, **島田裕子**, 塚本友栄, 成田 伸, 村上礼子, 横山由美, **春山早苗** : 地域ケア実践看護師のコンピテンシー. *日本ルーラルナースング学会誌*, 14 ; 15-28, 2019.
- 3) 小原 泉, 中村美鈴, 永井優子, 佐々木彩加, 江角伸吾, 鹿野浩子, 半澤節子, 成田 伸, **春山早苗** : 看護学生の生活行動, 生活体験および学習態度. *自治医科大学看護学ジャーナル*, 16 ; 3-8, 2019.

(2) 学会発表

- 1) Ota A, Aoki S, Esumi S, Tsuchiya C, Shikano H, Miyabayashi S, Kohara I, Kitada S, **Haruyama S** : The Gender Differences' Characteristics of Elderly People's Health-Related Quality of Life in a Small Remote Island in Tokyo. 22nd East Asian Forum of Nursing Scholars, Singapore. 17 January, 2019. (22nd EAFONS Program Book;44, 2019)
- 2) Okuda H, Miyazaki M, **Haruyama S**, Ishikawa M, Uemura N, Kim Y, Kanatani Y : Roles and Competencies Required of Public Health Nurses (PHNs) for Collaborative activities with External Supporters during times of Disaster in Japan. The Asia Pacific Emergency and Disaster Nursing Network (APEDNN) Annual Conference 2019, Hong Kong. 12-13 November, 2019. (APEDNN Annual Conference Abstract Book; 40, 2019)
- 3) **春山早苗** : へき地を含む地域医療に従事する看護師のための地域ケアスキル・トレーニングプログラムの取り組み. 第10回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会シンポジウム14 プライマリ・ケア看護師 : 地域での先駆的な実践, 京都. 2019年5月19日. (WONCA APR

Conference 2019/JPCA2019 ; S14-3, 2019)

- 4) 寺裏寛之, 村上礼子, 鈴木達也, 間辺利江, **春山早苗**, 小谷和彦 : へき地医療における特定行為を伴う看護 血糖管理行為に関する認識. 第19回日本糖尿病情報学会年次学術集会, 松山. 2019年8月3-4日. (日本糖尿病情報学会年次学術集会プログラム・抄録集19回 ; 21, 2019)
- 5) **春山早苗**, 田高悦子, 荒木田美香子, 上野昌江, 金子仁子, 岡本玲子, 村嶋幸代 : 「地域看護学」の再定義 これからの地域看護学の実践・教育・研究. *日本地域看護学会 第22回学術集会ワークショップ5F-5*, 横浜. 2019年8月18日. (日本地域看護学会第22回学術集会講演集, 83, 2019)
- 6) 安齋由貴子, **春山早苗**, 上野まり, 牛尾裕子, 奥田博子, 澤井美奈子, **島田裕子** : 災害時健康危機管理支援チーム (DHEAT) と地域看護活動 これからの地域看護職に求められる災害対応力とは. *日本地域看護学会 第22回学術集会ワークショップ5F-3*, 横浜. 2019年8月18日. (日本地域看護学会第22回学術集会講演集, 82, 2019)
- 7) 江角伸吾, **横山絢香**, 田村須賀子, 大神あゆみ, 由田克士, 中田由夫, 小谷和彦, **春山早苗** : ICTを活用した保健指導を実施する際の要件等の文献検討. 第78回日本公衆衛生学会総会, 高知. 2019年10月23日. (第78回日本公衆衛生学会総会抄録集66 (10) ; 348, 2019)
- 8) 由田克士, 田中和美, **横山絢香**, 江角伸吾, 田村須賀子, 中田由夫, 大神あゆみ, 岡村智教, **春山早苗** : 「食生活改善指導担当者テキスト」の認知状況と項目別重要度等に関する調査成績. 第78回日本公衆衛生学会総会, 高知. 2019年10月23日. (第78回日本公衆衛生学会総会抄録集66 (10) ; 523, 2019)
- 9) **横山絢香**, 田村須賀子, 小谷和彦, 大神あゆみ, 由田克士, 中田由夫, 江角伸吾, **春山早苗** : ICTを活用した保健指導プログラムに関する文献レビュー. 第78回日本公衆衛生学会総会, 高知. 2019年10月24日. (第78回日本公衆衛生学会総会抄録集66 (10) ; 331, 2019)
- 10) 奥田博子, 宮崎美砂子, **春山早苗**, 石川麻衣, 植村直子 : 災害時における保健師の受援の検証 (第1報) 受援保健師へのインタビュー調査から. 第78回日本公衆衛生学会総会, 高知.

- 2019年10月24日. (第78回日本公衆衛生学会総会抄録集66 (10) ;505, 2019)
- 11) 宮崎美砂子, 奥田博子, **春山早苗**, 石川麻衣, 植村直子: 災害時における保健師の受援の検証 (第2報) 応援派遣元自治体への紙面調査から. 第78回日本公衆衛生学会総会, 高知. 2019年10月24日. (第78回日本公衆衛生学会総会抄録集66 (10) ;505, 2019)
- 12) **青木さぎ里**, 櫻井純子, 大野祐子, 五藤幸根, 佐藤清湖: へき地保健師間の交流や支え合いに向けた取組み. 日本ルーラルナースング学会第14回学術集会, 宮古島 (沖縄). 2019年11月9日. (日本ルーラルナースング学会第14回学術集会抄録集; 56, 2019)
- 13) 河野邊香, 亀田美智子, 工藤清子, 境野博子, 藤田美喜, 岡田裕美, 宮沢玲子, 里光やよい, **島田裕子**: A大学病院の地域実践研修支援組織が行う研修者への支援の評価. 日本ルーラルナースング学会第14回学術集会, 宮古島. 2019年11月9日. (日本ルーラルナースング学会第14回学術集会抄録集; 66, 2019)
- 14) 塚本友栄, **島田裕子**, 角川志穂: へき地診療所とへき地医療拠点病院看護師が認識する自施設における退院支援の課題の比較-e-learning受講生フォーラムディスカッション内容の分析-. 日本ルーラルナースング学会第14回学術集会, 宮古島. 2019年11月9日. (日本ルーラルナースング学会第14回学術集会抄録集; 67, 2019)
- 15) 佐藤幹代, 半澤節子, 成田 伸, **春山早苗**: 「認知症の当事者と家族の語り」を活用したへき地医療等に従事する看護職者への高齢者認知症看護研修プログラムの評価. 日本ルーラルナースング学会第14回学術集会, 宮古島. 2019年11月9日. (日本ルーラルナースング学会第14回学術集会抄録集; 74, 2019)
- 16) 村上礼子, 八木街子, 鈴木美津枝, **江角伸吾**, 関山友子, **春山早苗**: へき地医療拠点病院における看護師特定行為研修の受講促進に向けた検討. 日本ルーラルナースング学会第14回学術集会, 宮古島. 2019年11月9日. (日本ルーラルナースング学会第14回学術集会抄録集; 75, 2019)
- 17) 野口美和子, 北村久美子, **春山早苗**, 石垣和子, 山崎不二子, 大湾明美, **青木さぎ里**, 大川嶺子, 田場由紀, 山口初代, 砂川ゆかり: 島嶼看護学の教育の推進-「学習指導書」作成への取り組み-. 日本ルーラルナースング学会第14回学術集会 交流集会1, 宮古島. 2019年11月9日. (日本ルーラルナースング学会第14回学術集会抄録集, 30, 2019)
- 18) **春山早苗**: これからの地域の変化を見据えた看護実践能力-ルーラル地域及びそれをカバーする施設における看護実践から-. 第39回日本看護科学学会学術集会パネルディスカッション I 時空を超える高度看護実践能力, 金沢. 2019年12月1日. (第39回日本看護科学学会学術集会電子抄録集; PD1-3, 2019)
- (3) 著書・総説
- 1) 丸谷美紀, 原田奈穂子, 高瀬佳苗, 安齋由貴子, 奥田博子, **春山早苗**: 文化に即した災害時公衆衛生看護活動の概念整理. 保健医療科学, 68(4); 343-353, 2019.
- 2) **春山早苗**: 第2章 健康課題の特性に応じた活動論 第IV節 感染症保健福祉活動 第1項~第5項. 最新公衆衛生看護学 第3版 2019年版 各論1 (宮崎美砂子, 北山三津子, 春山早苗, 田村須賀子 編集). 日本看護協会出版会 (東京), 307-346, 2019.
- 3) **春山早苗**: 第2章 地域特性に応じた活動論 第I節 へき地における公衆衛生看護活動 第1項 へき地における公衆衛生看護活動. 最新公衆衛生看護学 第3版 2019年版 各論2 (宮崎美砂子, 北山三津子, 春山早苗, 田村須賀子 編集). 日本看護協会出版会 (東京), 138-152, 2019.
- 4) 塩ノ谷朱美, **春山早苗**: 第2章 地域特性に応じた活動論 第I節 へき地における公衆衛生看護活動 第3項 山村・豪雪地帯における公衆衛生看護活動. 最新公衆衛生看護学 第3版 2019年版 各論2 (宮崎美砂子, 北山三津子, 春山早苗, 田村須賀子 編集). 日本看護協会出版会 (東京), 174-182, 2019.
- 5) **青木さぎ里**: 第2章 地域特性に応じた活動論 第I節 へき地における公衆衛生看護活動 第2項 離島における公衆衛生看護活動 4) 離島における保健師活動の実際: 小規模離島町村における活動. 最新公衆衛生看護学 第3版 2019年版 各論2 (宮崎美砂子, 北山三

- 津子，春山早苗，田村須賀子（編集）．日本看護協会出版会（東京），163-173，2019.
- 6) 春山早苗：第3章 公衆衛生看護管理活動論 第Ⅱ節 地域の健康危機に対する活動 第4項 健康危機の種類に応じた保健活動 2) 感染症健康危機管理．最新公衆衛生看護学 第3版 2019年版 各論2（宮崎美砂子，北山三津子，春山早苗，田村須賀子（編集）．日本看護協会出版会（東京），248-259，2019.
- 7) 青木さぎ里：第7遍 黒潮太平洋ネシア 青ヶ島保健医療福祉からみた東京ネシアの現状．別冊「環」25 日本ネシア論（長嶋俊介編集）．藤原書店（東京），242-245，2019
- 8) 青木さぎ里：島で保健師になるということ．島嶼研究，20（1）；23-30，2019
- (4) その他
- 1) 春山早苗：基調講演「これからの看護教育の方向性－看護基礎教育検討会の議論から」．日本看護学教育学会2019年度看護学教育制度委員会企画講演会，東京．2019年6月9日．
- 2) 春山早苗，安齋由貴子，上野まり，牛尾裕子，奥田博子，澤井美奈子，島田裕子：大規模特殊災害における復興期の地域づくりにかわる保健活動 福島県被災市町村の訪問調査から．日本地域看護学会誌，22（1）；79-84，2019.
- 3) 春山早苗：インタビュー 自治医大として考える「地域看護学」．月刊地域医学，33（9）；702-708，2019.
- 4) 青木さぎ里：【視点】へき地保健師協会の発足．週刊医学界新聞，3315；3，2019.
- 5) 春山早苗，田村須賀子，小谷和彦，由田克士，中田由夫，浅田義和，廣江貴則，江角伸吾，大神あゆみ，田中和美，鈴木達也，横山絢香：循環器疾患・糖尿病等生活習慣病を予防するための情報通信技術を活用した保健指導プログラム及びその実践のための手引きの作成と検証．平成30年度厚生労働科学研究費補助金（循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業） 平成30年度 総括・分担研究報告書，1-8，2019.
- 6) 春山早苗，田村須賀子，小谷和彦，大神あゆみ，鈴木達也，横山絢香，高倉恭子，奥野敬生，久保野裕子，陶山公子，城川舞那：循環器疾患・糖尿病等生活習慣病を予防するための情報通信技術を活用した保健指導プログラムに関する文献検討．平成30年度厚生労働科学研究費補助金（循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業）「循環器疾患・糖尿病等生活習慣病を予防するための情報通信技術を活用した保健指導プログラム及びその実践のための手引きの作成と検証」 平成30年度 総括・分担研究報告書，9-31，2019.
- 7) 田村須賀子，春山早苗，小谷和彦，大神あゆみ，鈴木達也，横山絢香，奥野敬生，久保野裕子：循環器疾患・糖尿病等生活習慣病を予防するための情報通信技術を活用した保健指導プログラムに関するインタビュー調査．平成30年度厚生労働科学研究費補助金（循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業）「循環器疾患・糖尿病等生活習慣病を予防するための情報通信技術を活用した保健指導プログラム及びその実践のための手引きの作成と検証」 平成30年度 総括・分担研究報告書，32-62，2019.
- 8) 江角伸吾，浅田義和，廣江貴則：ICTを活用した保健指導を実施する際の要件等の整理．循環器疾患・糖尿病等生活習慣病を予防するための情報通信技術を活用した保健指導プログラムに関するインタビュー調査．平成30年度厚生労働科学研究費補助金（循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業）「循環器疾患・糖尿病等生活習慣病を予防するための情報通信技術を活用した保健指導プログラム及びその実践のための手引きの作成と検証」 平成30年度 総括・分担研究報告書，63-81，2019.
- 9) 小谷和彦，前田隆浩，井口清太郎，小池創一，松本正俊，春山早苗，澤田 努，村上礼子，古城隆雄，鈴木達也，寺裏寛之，江角伸吾，関山友子，八木街子，鈴木美津枝：へき地医療向上のための医師の働き方およびチーム医療の推進に係る研究．厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業） 平成30年度 総括・分担研究報告書，1-4，2019.
- 10) 春山早苗，村上礼子，江角伸吾，関山友子，八木街子，鈴木美津枝：へき地医療拠点病院看護管理者の特定行為の受けとめ方調査．厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）「へき地医療向上のための医師の働き方およびチーム医療の推進に係る研究」 平成

- 30年度 総括・分担研究報告書, 14-27, 2019.
- 11) 小谷和彦, 前田隆浩, 小池創一, 松本正俊, **春山早苗**, 村上礼子, 古城隆雄, 鈴木達也, 寺裏寛之: 全国へき地医療支援機構等連絡会議の概要. 厚生労働科学研究費補助金(地域医療基盤開発推進研究事業)「へき地医療向上のための医師の働き方およびチーム医療の推進に係る研究」平成30年度 総括・分担研究報告書, 28-30, 2019.
- 12) 宮崎美砂子, 奥田博子, **春山早苗**, 石川麻衣, 金谷泰宏, 金吉晴, 植村直子, 大滝涼子, 福地成, **島田裕子**, 霜越多麻美: 災害対策における地域保健活動推進のための実務担当保健師の能力向上に係わる研修ガイドラインの作成と検証. 厚生労働科学研究費補助金(健康安全・危機管理対策総合研究事業)平成30年度 総括・分担研究報告書, 1-7, 2019.
- 13) **春山早苗**, **島田裕子**: 災害時の連携協働に関する実務保健師の役割と求める能力, 知識・技術・態度の検討. 厚生労働科学研究費補助金(健康安全・危機管理対策総合研究事業)「災害対策における地域保健活動推進のための実務担当保健師の能力向上に係わる研修ガイドラインの作成と検証」平成30年度 総括・分担研究報告書, 30-42, 2019.
- 14) 宮崎美砂子, 奥田博子, **春山早苗**: 米国における実務保健師等の災害時研修に関する調査. 厚生労働科学研究費補助金(健康安全・危機管理対策総合研究事業)「災害対策における地域保健活動推進のための実務担当保健師の能力向上に係わる研修ガイドラインの作成と検証」平成30年度 総括・分担研究報告書, 53-66, 2019.
- 15) 宮崎美砂子, 奥田博子, **春山早苗**, 石川麻衣, 金谷泰宏, 金吉晴, 植村直子: 実務保健師に求められる災害時の役割とコンピテンシー, その遂行に求められる知識・技術・態度ーデルファイ法による災害対応経験のある自治体実務保健師等への意見調査. 厚生労働科学研究費補助金(健康安全・危機管理対策総合研究事業)「災害対策における地域保健活動推進のための実務担当保健師の能力向上に係わる研修ガイドラインの作成と検証」平成30年度 総括・分担研究報告書, 67-103, 2019.
- 16) 奥田博子, 宮崎美砂子, **春山早苗**, 石川麻衣, 植村直子: 災害時における保健師の応援派遣と受援の検証による機能強化事項の検討1) 応援派遣保健師の受援自治体へのインタビュー調査. 厚生労働科学研究費補助金(健康安全・危機管理対策総合研究事業)「災害対策における地域保健活動推進のための実務担当保健師の能力向上に係わる研修ガイドラインの作成と検証」平成30年度 総括・分担研究報告書, 105-151, 2019.
- 17) 宮崎美砂子, 奥田博子, **春山早苗**, 石川麻衣, 植村直子, 霜越多麻美: 災害時における保健師の応援派遣と受援の検証による機能強化事項の検討2) 応援派遣元自治体への紙面調査. 厚生労働科学研究費補助金(健康安全・危機管理対策総合研究事業)「災害対策における地域保健活動推進のための実務担当保健師の能力向上に係わる研修ガイドラインの作成と検証」平成30年度 総括・分担研究報告書, 152-196, 2019.
- 18) 曾根智史, 尾島俊之, 國井隆弘, 千葉圭子, 西垣明子, **春山早苗**, 藤原啓子, 山崎直子, 吉岡京子, 両羽美穂子: 「地方公共団体における効率的・効果的な保健活動の展開及び計画的な保健師の育成・確保について」総合報告書. 平成30年度 地域保健総合推進事業, 全61ページ, 2019.
- 19) **春山早苗**, 宮林幸江, 小原 泉, 北田志郎, **青木さざり**, **江角伸吾**, **土谷ちひろ**: 高齢化社会に対応する文化や習慣を踏まえた保健医療活動方略を検討するための基礎的調査 日本とブータン王国における高齢者の健康関連QOLおよび関連要因の比較から. 自治医科大学看護学ジャーナル 看護学部教員共同研究報告, 16; 34, 2019.
- 20) 鈴木久美子, **春山早苗**, **塚本友栄**, 浜端賢次, 関山友子, **島田裕子**, **青木さざり**, **江角伸吾**, **土谷ちひろ**, 鳥居みゆき, 朝川美也子, 江連正子, 早乙女美奈子, 鈴木佑孝, 小島恒夫, 井上永子, 隅谷サヨ子: 地域包括ケアシステムにおける生活支援コーディネーターの活動方法に関する研究. 自治医科大学看護学ジャーナル 看護学部教員共同研究報告, 16; 33, 2019.
- 21) 小原 泉, 中村美鈴, 永井優子, 成田 伸, **春山早苗**, 半澤節子, **江角伸吾**, 佐々木彩加: 日本およびブータンの看護学生の学習行動と生

活に関する比較研究のためのツールの開発. 自治医科大学看護学ジャーナル 看護学部教員共同研究報告, 16 ; 20, 2019.

精神看護学

(1) 論文

- 1) 小原 泉, 中村美鈴, 永井優子, 佐々木彩加, 江角伸吾, 鹿野浩子, 半澤節子, 成田伸, 春山早苗: 看護学生の生活行動, 生活体験および学習態度, 自治医科大学看護学ジャーナル, 16巻;3-8, 2019.

(2) 学会発表

- 1) 石井慎一郎, 半澤節子, 酒井克子, 永井優子, 路川達阿起, 宮城純子, 谷田部佳代弥, 小池純子, 板橋直人, 中根秀之: 隔離と倫理的問題に対する精神科看護師の認識, 第38回日本社会精神医学会, 東京都新宿区, 2019年2月28日, (日本社会精神医学会雑誌28巻3号;311, 2019.)
- 2) 石井慎一郎, 半澤節子, 永井優子, 酒井克子, 路川達阿起: 隔離に対する臨床判断と人的環境要因との関連, 第29回日本精神保健看護学会学術集会, 愛知県名古屋市, 2019年6月9日, (第29回日本精神保健看護学会学術集会・総会プログラム・抄録集: p.119, 2019.)

(3) その他

- 1) 渡邊衡一郎, 岡田 俊, 下寺信次, 永井優子, 吉尾 隆: 薬物療法を多職種の社会精神医学的視点から考える, 日本社会精神医学会雑誌, 28巻1号; 26-38, 2019.
- 2) 小原 泉, 中村美鈴, 永井優子, 成田伸, 春山早苗, 半澤節子, 江角伸吾, 佐々木彩加, Dorjee Chencho, Wangro Neyzang: 日本およびブータンの看護学生の学習行動と生活に関する比較研究のためのツール開発, 自治医科大学看護学ジャーナル, 16巻; 20, 2019.

母性看護学

(1) 論文

- 1) 本田芳香, 大塚公一郎, 島田裕子, 塚本友栄, 成田 伸, 村上礼子, 横山由美, 春山早苗: 地域ケア実践看護師のコンピテンシー. 日本ルーラルナースング学会誌, 14: 15-28, 2019.
- 2) 山田加奈子, 川口弥恵子, 松井弘美, 笹野京子, 工藤里香, 小嶋由美, 立木歌織, 大平光子, 成田 伸, 松原まなみ: 周産期母子医療センターにおける妊娠糖尿病妊産褥婦の管理と看護支援の実際. 日本母性看護学会誌, 19 (1): 39-45, 2019.

(2) 学会発表

- 1) Yoko Idei, Shin Narita: CURRENT STATE OF DIAGNOSIS, TREATMENT PROCESSES, AND NURSING SUPPORT FOR PREGNANT WOMEN DIAGNOSED WITH GESTATIONAL DIABETES MELLITUS AT HOSPITAL A: A CASE STUDY. 22nd East Asian Forum of Nursing Scholars (Singapore), 2019年1月17日.
- 2) 外山史枝, 牟田智枝子, 野々山末希子: 予定日入院した初産婦の自宅における分娩誘発行動がとれなかった理由 第33回日本助産学会学術集会, 福岡県, 2019年3月2日. 日本助産学会学術集会抄録集 ポスター発表
- 3) 望月明見, 天谷和美, 小嶋由美, 成田 伸: 栃木県助産師会における女子刑務所でのウイメンズヘルス支援の実践報告と課題の検討. 第75回日本助産師学会学術集会 (小山市), 2019年5月25日.
- 4) 川口弥恵子, 井口亜由, 俵由里子, 松原まなみ, 成田 伸, 松井千佳, 森重圭子: 妊娠糖尿病妊婦の妊婦健診における助産師の関わり: 保健指導記録の分析. 第21回日本母性看護学会学術集会 (広島市), 2019年6月15日.
- 5) 松原まなみ, 川口弥恵子, 俵由里子, 成田 伸: 妊娠糖尿病管理における多職種連携と助産師の役割: 上級看護実践者へのインタビュー調査から. 第21回日本母性看護学会学術集会 (広島市), 2019年6月15日.

(3) 著書・総説

- 1) 成田 伸: 助産師のキャリア形成と助産師会ネットワークの力. 助産師, 73 (1): 83-84, 2019.
- 2) 遠藤俊子, 上澤悦子, 長坂桂子, 佐藤陽子, 松原まなみ, 成田 伸, 工藤美子, 町浦美智子, 森 恵美: 専門看護師 (母性看護CNS) の施設での活用実態と教育機関の抱える課題. 日本母性看護学会誌, 19 (1): 1-6, 2019.
- 3) 成田 伸, 松原まなみ, 遠藤俊子, 上澤悦子, 工藤美子, 佐藤陽子, 長坂桂子, 町浦美智子: チームに働きかける母性看護CNSの実践《第4回》母性看護専門看護師の活用と現状の課題. 助産雑誌, 73 (4): 322-326, 2019.
- 4) 成田 伸, 小嶋由美, 天谷一美, 藤岡容子, 武藤香子, 藤川智子, 佐藤美佐子, 山田陽子, 望月明見: 栃木県助産師会における産後ケアの現状と課題. 助産師, 73 (2): 41-42, 2019.
- 5) 成田 伸: 妊娠中の血糖コントロール. 母性衛生, 60 (2): 10~14, 2019.
- 6) 野々山末希子: 性感染症の予防教育-母子の健康を守る-, 日本臨床, 7巻 (2): 344-349, 2019.

(4) その他

- 1) 白井千香, 岩室紳也, 種部恭子, 野々山末希子, 渡曾睦子: 「若年者の有用な性感染症予防啓発の方法に関する研究」(分担研究報告), 厚生労働科学研究費補助金 新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業 性感染症に関する特定感染症予防指針に基づく対策の推進に関する研究 平成31年度 総括研究報告書. 28頁-36頁, 2019年5月

小児看護学

在宅看護学会学術集会プログラム・抄録集；
149, 2019)

(1) 論文

- 1) 本田芳香, 大塚公一郎, 島田裕子, 塚本友栄, 成田 伸, 村上礼子, 横山由美, 春山早苗: 地域ケア実践看護師のコンピテンシー, 日本ルーラルナースング学会誌, 14; 15-28, 2019.

(2) 学会発表

- 1) 手塚園江, 田村敦子, 西垣佳織, 福富理佳, 池田真理, 小林京子: 二分脊椎症をもつ子どもの発達の移行に関する文献レビュー, 日本小児看護学会第29回学術集会, 札幌. 2019年8月4日. 第29回日本小児看護学会学術集会抄録集; 262, 2019.
- 2) 田村敦子, 朝野春美, 大海佳子, 大畑紀恵, 黒田光恵, 小谷妙子, 佐藤恵梨香, 宇塚園江, 藤原エリ, 望月明見, 吉田幸世, 大柿景子, 眞田幸弘, 水田耕一: 国外における肝移植レシピエントを対象とした移行期支援プログラムに関する文献レビュー. 第55回日本移植学会総会, 2019年10月7日. 第55回日本移植学会総会抄録集; 310, 2019. (指定演題)
- 3) 石井慎一郎, 田村敦子: 看護における感情的エンゲージメントに関する文献レビュー, 第26回日本精神科看護専門学術集会, 青森, 2019年11月9日. (第26回日本精神科看護専門学術集会プログラム・抄録集; 51, 2019)
- 4) 飯島早絵, 横山由美: 生体肝移植をうけた子どもの療養行動に対する母親の関わりのプロセス. 日本移植・再生医療看護学会学術集会, 栃木. 2019年11月9日. (日本・移植再生医療看護学会学術集会プログラム・抄録集 15回; 35, 2019)
- 5) 小西克恵, 横山由美, 大海佳子, 川崎綾香, 田中道子, 福井小紀子: 全国訪問看護ステーションにおける小児の医療的ケアに関する状況調査第1報, 東京, 2019年12月8日. (第9回日本在宅看護学会学術集会プログラム・抄録集; 148, 2019)
- 6) 大海佳子, 横山由美, 小西克恵, 川崎綾香, 田中道子, 福井小紀子: 全国訪問看護ステーションにおける小児の医療的ケアに関する状況調査第2報, 東京, 2019年12月8日. (第9回日本

(3) 著書・総説

- 1) 田村敦子: 第2編第1章「小児の特徴と成長・発達」V 発達 (小児のもつ力) A 反射 B 運動の発達 第2章「小児看護における概念と理論」, I 自我・認知と思考の発達に関する概念と理論 II 母子関係に関する理論 III 発達と学習に関する理論 新体系 看護学全書 小児看護学①小児看護学概論/小児保健 (小林京子, 高橋孝雄 編集). メヂカルフレンド社 (東京), 97-101, 118-133. 2019.
- 2) 田村敦子: 第1章 臨床において起こりやすい・直面しやすい状況と看護 III 活動制限が必要な小児と家族への看護, 新体系 看護学全書 小児看護学②健康障害をもつ小児の看護 (小林京子, 高橋孝雄 編集). メヂカルフレンド社 (東京), 178-183. 2019.

(4) 実践報告

- 1) 手塚園江, 横山由美, 田村敦子, 大海佳子, 相場雅代, 飯島早絵, 塚本浩章: 小児病院の看護師を対象としたプレパレーションの実践を促進する教育方法の検討, 自治医科大学看護学ジャーナル, 16: 19, 2019.

成人看護学

(1) 論文

- 1) Mariko Nakano, Misuzu Nakamura, Sachie Furushima, Mikiyo Sato, Naoto Hasegawa, Ayaka Sasaki : Educational effect of a nursing training conference adopting the world café method: Medical care teams. Journal of Nursing Education and Practice, 9(8) : 91-98, 2019.
- 2) 本田芳香, 大塚公一郎, 島田裕子, 塚本友栄, 成田 伸, 村上礼子, 横山由美, 春山早苗 : 地域ケア実践看護師のコンピテンシー. 日本ルーラルナースング学会誌, 14 : 15-28, 2019.
- 3) 里光やよい, 村上礼子 : 「特定行為に係る看護師」による気管カニューレの交換にみる成果. 医学教育, 50 (5) : 489-493, 2019.
- 4) 佐藤幹代, 佐藤 (佐久間) りか : 患者が語る「痛み」や「苦しみ」をどう受け止めるか : 「慢性の痛みの語り」データベース構築を通して (特集 当事者の声が切り拓く医療の可能性). 月刊保団連, 1287 : 33-38, 2019.

(2) 学会発表

- 1) 佐藤幹代, 佐藤 (佐久間) りか, 高橋奈津子, 小原眞知子, 今崎牧生 : ラウンドテーブルディスカッション 慢性の痛みに対する多面的な支援のあり方を考える 当事者の語りを生かす試み. 第45回日本保健医療社会学学会大会, 東京. 2019年5月19日. (保健医療社会学論集30 (特別号) : 94-94, 2019).
- 2) 佐藤 (佐久間) りか, 射場典子, 澤田明子, 佐藤幹代 : 医療従事者の感情表出を患者はどのように受け止めるのか「健康と病いの語り」データの分析から. 第45回日本保健医療社会学学会大会, 東京. 2019年5月19日. (保健医療社会学論集 30 (特別号) : 58-58, 2019).
- 3) 佐藤幹代, 高橋奈津子 : 慢性の痛みとどのように向き合うのか? 「慢性の痛みの語り」データベースから. 第13回日本慢性看護学学会, 神戸. 2019年7月6日. (日本慢性看護学会誌 日本慢性看護学会学術集会プログラム・抄録集 13(1) : A100-A100, 2019).
- 4) 高橋奈津子, 佐藤幹代 : 慢性の痛みによる日常生活への影響と対処. 第13回日本慢性看護学

学術会, 神戸. 2019年7月6日. (日本慢性看護学会誌 日本慢性看護学会学術集会プログラム・抄録集 13(1) : A98-A98, 2019).

- 5) 森田夏実, 射場典子, 竹内登美子, 瀬戸山陽子, 佐藤幹代, 和田恵美子, 高橋奈津子, いたうたけひこ : 交流セッション3 健康と病いの語り (DIPEX - Japan) の患者の語り (ナラティブ) から何を学ぶか Part 8—語りの教育的活用の事例報告—. 日本看護学教育学会第29回学術集会, 京都. 2019年8月3日. (日本看護学教育学会抄録集 29 : 100-100, 2019).
- 6) 古島幸江, 伊藤未生, 長崎 剛, 澤田石真恵 : 手術看護実践指導看護師活動報告会 : JONAⅢになろう! 活動の輪をひろげよう!. 第33回日本手術看護学会年次大会, 岡山. 2019年10月12日.
- 7) 佐藤幹代, 半澤節子, 成田 伸, 春山早苗 : 映像と音声で伝える「認知症の当事者と家族の語り」を活用したへき地医療に従事する看護職者への高齢者認知症看護教育プログラムの評価. 第14回日本ルーラルナースング学会学術集会, 宮古島. 2019年11月9日. (日本ルーラルナースング学会 第14回学術集会抄録集 : 77-77, 2019).
- 8) 長谷川直人, 大久保暢子, 綿貫成明, 坂井志織, 坂梨左織, 丸尾智実, 水野恵理子, 水田明子, 西村ユミ : 新たな仲間との協働でさらなる高みを目指す「看護学ピッチ (pitch) をやってみよう」. 第39回日本看護科学学会学術集会, 金沢. 2019年11月30日.

(3) 著書・総説

- 1) 古島幸江 : 言葉にできない看護師の個人的知識を探求する (分担執筆), つまづき立ち上がる看護職たち-臨床の知を劈く看護職生涯発達学 (佐藤紀子編著) 医学書院 (東京), 292-298, 2019.
- 2) 佐藤 (佐久間) りか, 別府宏暎, 和田恵美子, 佐藤幹代, 森田夏実, 中村千賀子, 射場典子, 高橋奈津子, 菅野摂子, 秋元るみ子, 酒井禎子, 竹内登美子, 友滝 愛, 柏木公一, 後藤恵子, 今崎牧生, 青木昭子, 瀬戸山陽子, 仲山千佳, 小橋 元, 津田真弘, 米澤 淳, 山下富義, 高須清誠, 松下佳代, 長塩 亨 : 患者の語りと医療者教育 : 映像と言葉が伝える当事者

の経験（認定NPO法人 健康と病いの語りディ
ベックス・ジャパン編集），日本看護協会出版
会（東京），16-16，2019.

(4) 実践報告

- 1) 鈴木美津枝，川上 勝，村上礼子，三科志
穂，八木街子：外科的デブリードマン練習用
パッドの開発と教育評価. 自治医科大学看護学
ジャーナル，16；9-14，2019.

(5) 資料

- 1) 小原 泉，中村美鈴，永井優子，佐々木彩
加，江角伸吾，鹿野浩子，半澤節子，成田
伸，春山早苗：看護学生の生活行動，生活体験
および学習態度. 自治医科大学看護学ジャーナ
ル，16；3-8，2019.

老年看護学

(1) 論文

- 1) Sayuri Suwa, Akiyo Yumoto, Mari Ueno, Tomoko Yamabe, Yumiko Hoshishiba, Mihoko Sato : Characteristics of care methods for daily life disabilities in Alzheimer's type dementia that respect autonomy and independence, Nursing Open.2019 ; 1-12, 2019.

(2) 学会発表

- 1) 上野まり, 諏訪さゆり : 復興期にある被災地でのアウトリーチに携わる看護職のための行動指針, 第24回日本在宅ケア学会学術集会, 仙台, 2019年7月28日. 第24回日本在宅ケア学会学術集会抄録集 ; 103, 2019.
- 2) 川上 勝, 陣立良太 : 安否確認回答メールの自動集計アプリケーションの開発, 日本災害看護学会 第21回年次大会, 北海道北見市, 2019年9月5日. 日本災害看護学会誌 21巻1号 ; 139, 2019

(3) 著書・総説

- 1) 上野まり : 正野逸子, 本田彰子編著, 看護実践のための根拠がわかる在宅看護技術, メヂカルフレンド社, 79-84, 2019.
- 2) 上野まり : 木下由美子編集代表, エッセンシャルズ地域看護学第2版, 医歯薬出版, 265-275, 2019.
- 3) 上野まり : 日本訪問看護財団編集, 訪問看護お悩み相談室, 中央法規, 180-184, 2019.

(4) 資料

- 1) 上野まり, 安藤真知子他 : 発災後8年目を迎えた応急仮設住宅住民の健康生活上の課題と、住民に対する「まちの保健室」活動の効果－東日本大震災の被災地における健康支援活動を通して－, <https://www.jvnf.or.jp/home/wp-content/uploads/2019/12/ntori-houkoku.pdf>, 2019.
- 2) 浜端賢次 : 地域での生き方と逝き方, 医療と検査機器・試薬, 42 (2) : 90-93, 2019.
- 3) 浜端賢次 : 老年看護学の立場から顧みる地域社会と地域包括ケアシステム, 地域ケアリング, 21 (4) , 67-70, 2019.

診療看護技術開発学

(1) 論文

- 1) Machiko Saeki Yagi, Reiko Murakami, Shigeki Tsuzuku, Mitsue Suzuki, Hiroshi Nakano, Katsuaki Suzuki: Distance Learning for Nurses: Using Learning Analytics to Build a Learning Support Program. The Journal of Information and Systems in Education, 19 (1) ; 1-8, 2019.
- 2) Machiko Saeki Yagi, Reiko Murakami, Shigeki Tsuzuku, Mitsue Suzuki, Hiroshi Nakano, Katsuaki Suzuki: Using Learning Analytics to Build a Learning Support Program for Distance Learning in Nursing. Advanced Applied Informatics; 347-350, 2019.
- 3) 里光やよい, 村上礼子: 「特定行為に係る看護師」による気管カニューレの交換にみる成果. 医学教育, 50巻5号;489-493,2019.
- 4) 湯山美杉, 本田芳香, 小原 泉, 里光やよい, 福田順子, 飯塚由美子, 中塚麻美: 看護学生の社会的スキルを学ぶ教育方法としてのSP導入による看護過程演習KiSS-18による調査から, 日本看護学教育学会誌, 28巻 (3) ;41-48, 2019
- 5) 鈴木美津枝, 川上 勝, 村上礼子, 三科志穂, 八木 (佐伯) 街子: 外科的デブリードマン練習用パッドの開発と教育評価. 自治医科大学看護学ジャーナル, 16; 9-14, 2019.
- 6) 八木 (佐伯) 街子, 松山 泰, 浅田義和, 廣江貴則, 鈴木義彦: 日本の医学生における自己学習目的の医療用シミュレータの使用状況. 医学教育, 50 (5) ; 495-499 2019.
- 7) 八木街子, 村上礼子, 古島幸江: WS-7 活用できる看護研修にするために教育企画をブラッシュアップしてみよう!. 新しい医学教育の流れ, 18 (4) ; 268-270, 2019.
- 8) 清水郁夫, 浅田義和, 八木街子, 三原 弘: WS-3現場に役立つ研修をデザインする. 新しい医学教育の流れ, 18 (3) ; 174-176, 2019.

(2) 学会発表

- 1) Machiko Saeki Yagi, Tetsuro Hada, Yoshikazu Asada: Evaluation for e-learning based on medical near-miss/adverse event

information. The 16th Asia Pacific Medical Education Conference, Singapore. 2019年1月11日.

- 2) Machiko Saeki Yagi, Reiko Murakami, Shigeki Tsuzuku, Mitsue Suzuki, Hiroshi Nakano, Katsuaki Suzuki: Using learning analytics to build a learning support program for distance learning in nursing. 8th International Congress on Advanced Applied Informatics (IIAI-AAI), Toyama, 2019年7月7日.
- 3) Machiko Saeki Yagi, Mitsue Suzuki, Reiko Murakami, Shigeki Tsuzuku, Hiroshi Nakano, Katsuaki Suzuki: Preparing for Distance Learning: Designing an Online Orientation for Nurses. The Association for Medical Education in Europe(AMEE) 2019, Wien. 2019年8月27日.
- 4) 八木街子, 村上礼子, 鈴木美津枝, 春山早苗: 看護職の遠隔学習実施予測因子の分析と学習支援方法の検討. 教育システム情報学会第44回全国大会, 浜松. 2019年9月12日.
- 5) 八木 (佐伯) 街子, 鈴木美津江, 高原文香, 村上礼子: へき地医療での特定行為研修に対するニーズに合わせた学習支援. 第14回日本ルーラルナース学会学術集会, 宮古. 2019年11月9日.
- 6) 河野邊 香, 工藤清子, 境野博子, 藤田美喜, 宮沢玲子, 岡田裕美, 亀田美智子, 島田裕子, 里光やよい: A大学病院の地域実践研修支援組織が行う研修者への支援の評価. 日本ルーラルナース学会第14回学術集会, 沖縄, 2019.11.9.日本ルーラルナース学会第14回学術集会抄録集, 2019

(3) 著書・総説

- 1) 八木街子: 看護を学ぶ人のための心理学—ヒューマン・ケアを科学する (担当: 分担執筆, 範囲: セルフケア・生活習慣の改善指導と看護). 弘文堂 (東京), 2019
- 2) 八木街子: 国試・改訂コアカリ対応 地域医療学入門 (担当: 分担執筆, 範囲: 地域医療を構成する人的要素 看護職). 診断と治療社 (東京), 50-51, 2019.

資 料

2019年度（令和元年度）看護学部学年暦

○前学期

4月1日（月）	ガイダンス（2・3・4年）
4月2日（火）	授業開始（2・3・4年）
4月4日（木）	オリエンテーション（1年）
4月5日（金）	入学式，オリエンテーション（1年）
4月8日（月）	授業開始（1年）
4月27日（土）～5月6日（月）	春季休業
5月7日（火）～5月31日（金）	前学期実習（3年）
6月10日（月）～7月19日（金）	
5月14日（火）	創立記念日
6月3日（月）～6月7日（金）	対象の理解実習（1年）
7月11日（木）～7月16日（火）	定期試験（4年）
7月22日（月）～8月2日（金）	総合実習（4年）
7月23日（火）～7月30日（火）	定期試験（1・2年）
8月7日（水）～9月23日（月）	夏季休業
9月2日（月）～9月4日（水）	再試験

○後学期

9月24日（火）	授業開始
8月26日（月）～11月1日（金）	助産学実習（4年）
9月26日（木）～10月9日（水）	日常生活援助実習・成人期継続療養看護実習（2年）
10月11日（金）～10月13日（日）	学園祭
10月15日（火）～10月28日（月）	日常生活援助実習・成人期継続療養看護実習（2年）
11月18日（月）～12月20日（金）	後学期実習（3年）
1月6日（月）～2月14日（金）	
12月21日（土）～1月3日（金）	冬季休業
2月7日（金）～2月14日（金）	定期試験（1・2年）
2月28日（金）～3月2日（月）	再試験
3月6日（金）	卒業式
3月14日（土）～	学年末休業

自治医科大学看護学部の概況（令和2年3月31日現在）

1. 教 員 数	46名
2. 学 生 数	421名
4年生（平成28年4月1日入学）	107名
3年生（平成29年4月1日入学）	104名
2年生（平成30年4月1日入学）	105名
1年生（平成31年4月1日入学）	105名

看護学部教職員名簿

1. 教員

職 名	氏 名	主要担当科目
学部長	春山早苗	地域看護学
教授	上野ま一郎	老年看護学
教授	大塚公一	看護基礎科
教授	小塚原友栄	基礎看護学
教授	塚本井優子	地域看護学
教授	永成田伸	精神看護学
教授	野々山未希子	母性看護学
教授	半澤節子	精神看護学
教授	本村芳礼子	基礎看護学
教授	村上山由美	成人看護学
教授	横里光やよい	小児看護学
准教授	川上智勝	老年看護学
准教授	倉科藤幹	看護基礎科
准教授	佐藤川志穂	看護学
准教授	角村敦子	看護学
准教授	田谷川直人	看護学
准教授	長谷川賢次	看護学
准教授	浜端温司	看護基礎科
准教授	平尾順子	基礎看護学
准教授	福田さぎ	基礎看護学
講師	青木慎一郎	地域看護学
講師	石井角伸吾	精神看護学
講師	江野浩子	看護基礎科
講師	鹿田裕子	看護学
講師	島清水みどり	看護学
講師	清関山友江	看護基礎科
講師	師古島幸見	看護学
講師	師望月明子	看護学
講師	師八木街杉	看護学
講師	師湯山美早	看護学
助教	飯島井容子	基礎看護学
助教	石猪瀬典子	基礎看護学
助教	猪上野知奈	母性看護学
助教	北守美佳	母性看護学
助教	小西克恵	小児看護学
助教	佐々木彩加	成人看護学
助教	鈴木美津枝	総合科目担当
助教	高山温子	基礎看護学
助教	高土谷ちひろ	地域看護学
助教	富川明子	精神看護学
助教	二宮美由紀	母性看護学
助教	谷島晴香	成人看護学
助教	横山絢香	地域看護学
助教	渡邊賢治	成人看護学

2. 事務部

職 名	氏 名
大学事務部長	吉野和久
大学事務副部長 (看護学部担当)	吉埜建夫

(看護総務課)

職 名	氏 名
審議役(兼)課長	安島幸子
参事(兼)課長補佐	飯村久恵
係 長	福澤弘美
主 事	吉田渉子
主 事	上野侑子
嘱 託	小川里恵

(看護学務課)

職 名	氏 名
課 長	海老原 誠
参事(兼)課長補佐	湯浅芳恵
係 長	松本恵美子
主任主事	松田尚子
主 事	渡辺慎吾
主 事	菅原萌々子
嘱 託	菅原祥子
嘱 託	高中 里子

※平成31年4月1日～令和2年3月31日在職者（各職階ごとの50音順）

2019年度（令和元年度）大学院看護学研究科学年暦

○前期

4月4日（木）	入学式 オリエンテーション、授業開始
4月12日（金）	履修計画の提出締切
5月14日（火）	創立記念日

○後期

10月1日（火）	授業開始
11月11日（月）	研究構想発表会（前期課程）
12月2日（月）	学位申請書・学位論文（審査用）提出締切（後期課程）
12月16日（月）	学位申請書・学位論文（審査用）提出締切（前期課程）
1月6日（月）	論文審査・口頭試問（後期課程）
1月6日（月）～1月29日（水）	論文審査期間（後期課程）
1月20日（月）～1月22日（水）	論文審査・口頭試問（前期課程）
1月20日（月）～1月29日（水）	論文審査期間（前期課程）
2月18日（火）	学位論文発表会（最終試験）
3月2日（月）	学位論文（保存用）最終締切
3月16日（月）	修了式（学位授与式）

大学院看護学研究科の概況（令和2年3月31日現在）

1. 教 員 数	17名
2. 学 生 数	24名
2年生（長期履修制度利用者）※博士前期	11（4）名
1年生（長期履修制度利用者）※博士前期	3（3）名
3年生（長期履修制度利用者）※博士後期	7（7）名
2年生（長期履修制度利用者）※博士後期	2（2）名
1年生（長期履修制度利用者）※博士後期	1（1）名

大学院看護学研究科教職員名簿

1. 教員

職 名	氏 名	主要担当科目
研究科長	春 山 早 苗	地域看護管理学
教 授	上 野 ま り	老年看護管理学
教 授	大 塚 公一郎	共 通 科 目
教 授	小 原 泉	が ん 看 護 学
教 授	塚 本 友 栄	地域看護管理学
教 授	永 井 優 子	精 神 看 護 学
教 授	成 田 伸	母 性 看 護 学
教 授	野々山 未希子	母 性 看 護 学
教 授	半 澤 節 子	精 神 看 護 学
教 授	本 田 芳 香	が ん 看 護 学
教 授	村 上 礼 子	診療看護技術管理学
教 授	横 山 由 美	小 児 看 護 学
教 授	里 光 やよい	診療看護技術管理学
(兼)		
准教授	川 上 勝	老年看護管理学
准教授	倉 科 智 行	共 通 科 目
准教授	佐 藤 幹 代	クリティカルケア看護学
准教授	角 川 志 穂	母 性 看 護 学
准教授	長谷川 直 人	診療看護技術管理学
准教授	浜 端 賢 次	老年看護管理学
准教授	福 田 順 子	診療看護技術管理学
講 師	鹿 野 浩 子	共 通 科 目
講 師	関 山 友 子	共 通 科 目
講 師	八 木 街 子	診療看護技術管理学

※平成31年4月1日～令和2年3月31日在職者
(各職階ごとの50音順)

2. 事務部

職 名	氏 名
大学事務部長	吉 野 和 久
大学事務副部長 (看護学部担当)	塙 建 夫

(看護総務課)

職 名	氏 名
審議役(兼)課長	安 島 幸 子
参事(兼)課長補佐	飯 村 久 恵
係 長	福 澤 弘 美
主 事	吉 田 渉
主 事	上 野 侑 子
嘱 託	小 川 里 恵

(看護学務課)

職 名	氏 名
課 長	海老原 誠
参事(兼)課長補佐	湯 浅 芳 恵
係 長	松 本 恵美子
主任主事	松 田 尚 子
主 事	渡 辺 慎 吾
主 事	菅 原 萌々子
嘱 託	高 槻 祥 子
嘱 託	中 村 里 子

編 集 後 記

2019年年報をお届けいたします。この年報に掲載されている内容をおまとめいただいたのは2020年であります。2020年は新型コロナウイルスが世界中で猛威を振るい、皆様が大変な思いをされている最中に、2019年の活動を振り返りまとめていただきました。皆様のご協力に深く深く感謝申し上げます。

新型コロナウイルスの終息は、まだはっきりとは見えませんが、教育・研究の手を休めることなく、すべての事を受け止め対応し進めていくしかありません。そして、来年も2020年の年報に活動が記されていくことになります。

編集委員会といたしましても、皆様の教育・研究活動におけるあらたな挑戦や実践等々の掲載も含め、本学の教育・研究の活性化に寄与できるよう、引き続き努力して参りたいと思います。

今後ともご指導を賜りますようお願い申し上げます。

（令和3年3月 編集委員会 副委員長 里光 やよい）

編集委員会

自治医科大学看護学部

委員長 上野 まり

副委員長 里光やよい

委員 角川 志穂

委員 福田 順子

委員 鹿野 浩子

委員 古島 幸江

編集担当 看護総務課

吉田 渉

自治医科大学看護学部年報（第18号）
自治医科大学大学院看護学研究科年報（第14号）

令和3年3月31日発行

発行者	学部長（研究科長） 春山 早苗
編集責任者	編集委員会委員長 上野 まり
発行所	自治医科大学看護学部 栃木県下野市薬師寺3311-159 電話 0285（58）7409
印刷所	（株）松井ビ・テ・オ・印刷 栃木県宇都宮市陽東5-9-21 電話 028（662）2511（代）